

第七章 調査の結果処理とその解釈

この章でも前の記述にしたがつて、第一次調査から順を追って記述する。しかし第一次調査はすでに述べたように無作為抽出による代表見本法で調査対象校を抽出し、その上質問紙による多くの項目についての調査であるため、その処理については各項目の内容によつていろいろの処理方法を考えたのである。なぜならば、第一次調査はこれによつて県下教育課程のおおよその実態が把握されること、及びこれから第三次の「学校訪問による現地調査」の観点が決定されること等の理由で、その処理に特に慎重を期す必要があつたからである。この調査研究において、その科学性・客観性を確保するに足るだけの処理方法が、あらゆる角度から検討されて、十分批判的にしかも周到に、観点を變えて幾通りかの方法でなされておればおるほど、次に実施する第三次の「学校訪問による現地調査」は大きな安定感をもつてのぞむことができる。また現地を学校訪問することに伴う困難性より生ずる制約が多少あつて、その科学性・客観性が幾分薄れても、この点をカバーすることができるという結論に基づいた。

一. 第一次調査の処理とその解釈

1. コーデング (Coding, 符号化) 法

① コーデングによる集計カードとその記入方法

集計処理の方法はいろいろ考えられるが、まず最初に実施したのはコーデングによる集計カードの活用である。調査の科学性・客観性の重視については、すでにたびたび繰り返したことであるが、とにかく、できるだけ第一次の調査票に表われたものを忠実に集計しなければならない。ところで第一次調査票は十枚に及び、そこに掲載されている数多くの調査項目を、その言葉どおりに集計し分類していくことは非常に煩鎖なことであり、方法的にも時間的にもその処理が困難になる。多くの人手を借りることも考えられるが、これは単に経費面ばかりでなく、教育課程の内容の実際について或程度明るい人でないと、機械的

に集計してその内容の実際が把握されないことになる。客観的ということと機械的ということとは、こうした調査においては厳しく区別する必要があるので、処理のための補助員は使わないことにした。（予算面の理由もあるが……）といつてそれぞれ担当分野に分れてしごとをしている研究所員・指導課主事・調査課員はこれに従事することができないので牧田・日浦両所員で処理することにした。こうなると時間的にも労力的にも困難が増大するので、符号化して処理するコーディングによる方法を採用したのである。この方法で次のようなカードに記入していけば、十枚の調査票も一枚に洩れなくまとまり、処理が時間的にも内容的にもはなはだ能率的になる。

a カ ー ド

カードは次の通りである。

					S I Z E								
1	3	2	4	5	層 番 号	学 校 番 号	I	II	III	IV	V	VI	
研・実		教科書用					単元					構成手続	
校舎		社会					社会					社会	
学級数		理科					理科					カリ類型	
1 2		国語					国語					能力別特設	
3 4		算数					算数					基礎学習	
5 6		I					I					児童会	
1 2		II					II					クラブ	
3 4		III					III					図書	
5 6		IV					IV					時間	
複式		V					V						
分數場		非単元					非単元						
一生徒数		習					習						
有資格率		習					習						
%		習					習						
		性別					性別						
		研究費					研究費						
		主事等訪問数					主事等訪問数						
		研 授					研 授						
		公 研					公 研						
		教育計画					教育計画						
		都市プラン					都市プラン						
		ブロックプラン					ブロックプラン						
		白プラン					白プラン						
		%					%					本校	

(3) 学級編成

(i) 学級数 I. II. III. IV. V. VI.

(ii) 二部授業

Code	0	1
二部授業	有	無

(iii) 複式学級の有無

Code	0	1
複式学級	有	無

(iiii) 分教場の有無

Code	0	1
分教場	有	無

(4) 教職員編成

(i) 有資格者と無資格者の比率 $\left(\frac{\text{有資格者}}{\text{全員}} \times 100 \right)$

Code	0	1	2	3
比率	0~39%	40~59%	60~79%	80~100%

(ii) 男女教員の比率 $\left(\frac{\text{男教員}}{\text{全員}} \times 100 \right)$

Code	0	1	2	3
比率	20~39%	40~59%	60~69% 90~100%	70~89%

$\left(\frac{\text{男教員}}{\text{全員}} \times 100 \right)$ が 90~100% になっているということは小学校の正常の姿として肯定することは問題がある。そこで Coding では 2 としたのである

(iii) 一学級の平均児童数

Code	0	1	2	3	4
一学級	60人以上	50人以上	40人以上	30人以上	30人未満

(5) 研究の条件及び実状

(i) 一人当たりの研究費 (研究図書・研究出張)

Code	0	1	2	3	4	5
研究費	1000円未満	1000円以上	2000円以上	3000円以上	4000円以上	5000円以上

(ii) 指導主事その他これに準ずる者の来訪

(iii) 校内研究授業数

(iii) 公開研究会数

実数を記録	0	1	2	3
して	主事 0回	1~2回	3~4回	5回以上
AfterCoding	研授 0回	1~5回	6~10回	11回以上
	公研 0回	1回	2回	3回以上

(6) 教育計画の有無

(i) 郡市プラン

(ii) 学校ブロックプラン

(iii) 自校プラン

Co-	0	1	2	3
i	なし	社会科以外の一部あり	社会科あり	全部あり
ii	〃	〃	〃	〃
iii	〃	〃	〃	〃

※地域プランの編成状況

(iとiiとより)

右のような Coding をする。

	0	1	2	3
0	0			
1		①		
2			②	
3				③

④ 教育課程構成

(1) 教育課程構成の手続

Code	0	1	2	3
社会的必要	やつていない	或教科をする	一部につい	全課程
児童調査			て全課程	

※社会的必要と児童調査を総合し

た教育課程構成の手続は次のよ

うに Codig する。

	0	1	2	3
0	0			
1		①		
2			②	
3				③

(2) 教科書使用について

	Ⅰ			Ⅱ			Ⅲ			Ⅳ			Ⅴ		
	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高
社会															
理科															
国語															
算数															

(3) 単元学習非単元学習について

	単元学習								非単元学習						
	(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)		(3)		
	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高
社会															
理科															
国語															
算数															

(2)と(3)とはコーディングによる記入でなく、学年内で分裂しているものと

まとまっているものに分けて記入した。

同学年内で統一あるもの……………○

同学年内で分裂しているもの……………●

(4) 教育課程の類型 ((2)と(3)より)

0 型……教科書による教科学習

1 型……教科毎の単元学習

2 型……社会科・理科のみ単元学習 (しかし他教科との関連統合は余り
考えない)

3 型……単元学習・基礎学習にして経験の統合を考えている

3・A・A 単元・基礎・日常生活課共に整っている

3・A・B 日常が整っていない

3・B・A 基礎の考えが校内で不一致 (問題がある)

(3・B・B 基礎・日常共に整っていない)

(5) 基礎学習について

C o d e	0	1
(i) 能力別の指導について	無	有
(ii) 時間を特設してやっている	いない	いる

(6) 特別教育活動

(i) 児童会の有無

C o d e	0	1
児童会	なし	あり

(ii) クラブ的の活動の有無

C o d e	0	1
	なし	あり

(iii) 図書館

Code	0	1	2
	なし	学級文庫	学校図書館

(7) 一週間の学習指導時間配分

C o d e	0	1
生活時程	劃一的	心理的な考慮もして 機動性をもっている

(註26)

(註26) 国立教育研究所発行「教育課程の集計及び分析を参考とする」(昭和25.12.6発行)

		研・実	校舎	学紙数	二部	複式	分教場	児童数	有資格者	教員性別	研究費
山村①	0	83	1	21	0	24	24	5	10	4	9
	1	1	45	51	84	60	60	25	35	51	18
	2	/	37	11	/	/	/	31	27	15	30
	3	/	/	1	/	/	/	22	12	14	27
平山村②	0	24	0	3	0	4	5	2	0	2	3
	1	2	10	15	26	22	21	12	4	20	2
	2	/	16	8	/	/	/	8	11	3	14
	3	/	/	0	/	/	/	4	11	1	7
平村③	0	40	0	3	1	3	1	7	1	5	3
	1	4	22	31	43	41	43	16	22	34	8
	2	/	22	10	/	/	/	18	14	4	19
	3	/	/	0	/	/	/	3	7	1	14
漁村④	0	12	1	6	0	8	5	1	1	2	1
	1	0	4	4	12	4	7	2	5	6	1
	2	/	7	2	/	/	/	4	3	0	5
	3	/	/	0	/	/	/	5	3	4	5
町⑤	0	22	0	3	0	3	2	7	3	6	3
	1	3	6	8	25	22	23	9	8	17	3
	2	/	19	8	/	/	/	6	7	0	12
	3	/	/	6	/	/	/	3	7	2	7
市⑥	0	11	0	1	3	1	0	7	0	4	0
	1	3	4	3	11	13	14	5	0	8	3
	2	/	10	5	/	/	/	1	0	2	6
	3	/	/	5	/	/	/	1	14	0	5
合 (特を除く)	0	192	2	37	4	43	37	29	15	23	19
	1	13	92	112	201	162	168	70	74	146	35
	2	/	111	44	/	/	/	68	62	24	86
	3	/	/	12	/	/	/	38	54	22	65
小計	それぞれ										
特	0	3	0	0	1	0	1	7	0	0	0
	1	10	3	2	14	15	14	4	1	10	5
	2	3	12	5	/	/	0	4	1	2	6
	3	(三軒)	/	8	/	/	0	0	13	3	4

この集計は横の計は意味がないので検定しなかつたが、以下出てくる集計においては全部

主事訪問	研究授業	公研究会	地ブ ラン 域	自ブ ラン 校	手 続	類 型	基 礎	児 童 会	ク活 ラ ブ 動	図 書	時 間 配 分
11	5	42	52	34	2	19	32	2	36	13	60
57	26	14	30	5	23	40	37	82	48	28	24
16	38	16	2	25	42	25	15	/	/	43	/
0	15	12	0	20	17	0	0	/	/	/	/
3	0	11	22	8	1	2	10	/	8	1	15
14	7	9	4	0	6	10	7	25	18	10	11
9	12	2	0	7	13	10	9	/	/	15	/
0	7	4	0	11	6	4	0	/	/	/	/
11	2	23	16	19	0	7	15	0	21	6	32
27	12	11	26	0	4	16	20	34	23	15	12
5	18	6	2	13	30	14	9	/	/	23	/
1	12	4	0	12	10	7	0	/	/	/	/
0	0	8	9	4	0	3	6	0	8	3	9
10	4	2	3	1	1	2	5	12	4	5	3
2	6	2	0	4	7	7	1	/	/	4	/
0	2	0	0	3	4	0	0	/	/	/	/
3	0	5	15	5	0	0	7	0	7	3	7
10	7	6	8	1	5	8	9	25	18	0	18
6	10	8	0	8	13	10	9	/	/	20	/
6	8	6	2	11	7	7	0	/	/	/	/
1	0	4	6	4	0	3	8	0	8	0	5
8	8	2	8	0	6	5	5	14	6	2	9
2	3	3	0	6	7	4	1	/	/	12	/
3	3	5	0	4	1	2	0	/	/	/	/
29	7	93	120	74	3	34	78	2	88	26	128
126	64	44	79	7	45	81	83	203	117	60	77
40	87	37	4	63	112	70	44	/	/	119	/
10	47	31	2	61	45	20	0	/	/	/	/
205 である											
5	0	0	5	1	0	0	5	0	2	0	1
1	0	1	7	0	1	2	7	15	13	0	14
1	2	5	0	1	4	4	3	/	/	15	/
8	13	9	0	13	10	9	0	/	/	/	/

その数処理に必要な検定は実施し、その誤りなき事が確かめられていることを明記しておく

② Coding による集計とその解釈

◎各項目(要素)の単純集計

a コーデングの一覧表

(表は94~95頁)

この表はコーデングしたものを、地域別にまとめて集計した一覧表である。表われた数字は実数であり、各項目の間には何の関係もない。したがって0と1の二つにコーデングした二部授業や複式の有無については、数字は0と1の二つに分布しているし、0, 1, 2, 3の四つにコーデングした児童数以下教育課程の類型等は数字が0, 1, 2, 3の間に分布しているのである。

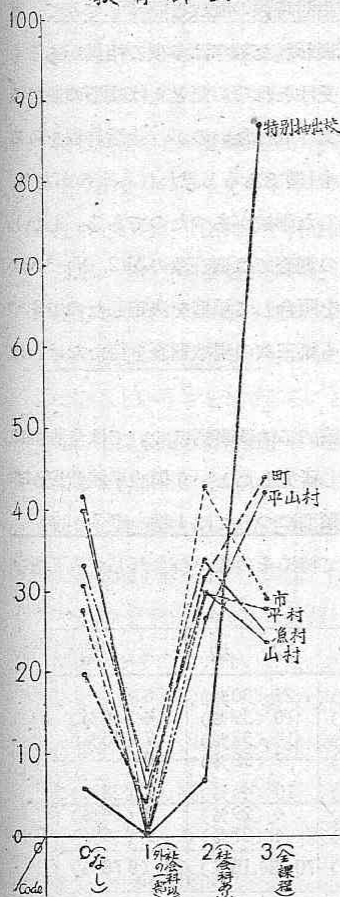
さてこの表から考えられることは

- (イ) 研究指定校・実験学校が山村・漁村にほとんどなく、平村も総数に比して極めて少ないのはこの表の項目中で最も顕著な事柄である。常識的に考えて研究の指定を受けたり、実験学校と銘をうたれると、学校の教育課程は比例的でなくとも進歩する。この点からすれば、山村・漁村は不利であり、このあとこの条件が教育課程の構成にどのように影響してくるか、注意深く見る必要がある。
- (ロ) 校舎の問題で中学校と併設されてあるところは全般にまだ相当あるが、特に山村・平村に多い。これは教育財政面から究明すべき性質のものであるが、われわれの調査の面からみても、やはり教育課程の構成には少なからず影響があると思われるので取り上げてみた。
- (ハ) 市に二部授業が多い。これは教育課程の構成運営に重大な影響があるはずである。市の教育課程の構成運営状況を調査する時の重大な条件として考える必要がある。
- (ニ) 有資格者の全教員に対する比率は山村・平村がいちじるしく悪いのは注目しなければならない現象で、これと教育課程との関係は何かあることが予測される。
- (ホ) 教員の性別の比率は、地域的な差は見受けられず、全般的に半数以上が女教員であるという学校が多く、この点から教育課程を云々することは困難である。ただし教育課程の構成状況から逆に学校の教育組織をみて行くことは意味があるのではなからうか。
- (ヘ) 研究費・主事等の訪問・クラブ活動は記入法に不統一が見認められ、その点から結果を云々することは困難である。

すなわち

- ・研究費—この中に出張旅費が含まれてあるが、一般に山村とかその他、県都や地方中心都市への距離の遠いところは出張旅費が多額に計算され、同じ一回の出張でも相当の開きがある。したがって研究費の多い学校必ずしも研究をしている学校と断定できない。
- ・主事等訪問—これについては「指導の目的で」という条件がついているにもかかわらず、単に挨拶回りに来校したもので主事訪問回数に計算している学校もあり、またそれを厳密に区別している学校もある。したがって主事等の訪問回数が多いということから、直ちに教育課程の構成の有力な条件と見ることは困難である。

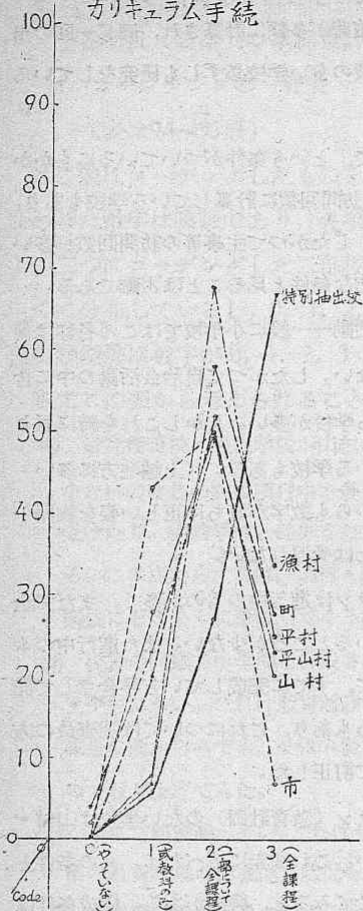
教育計画



- ・クラブ活動—一般に小学校ではこの名称は使っていない。したがって自治会活動の中に含めている学校が多い。しかしこれを特に取り出している学校もある。(上越地方に多い) この点からも数字が直ちに正しい姿を物語っているとは受取れない。
 - (B) 地域プランは進行中のものが多く、まだ完全にできているところが少ない。また進行中のものについて、すでに完成していき早合点して記入したところもあり、これについては調査員の方で検討して訂正した。
 - (F) 自校プラン(教育計画)のない学校は山村・平村に多い。これは先に述べたイ、ロの条件とにらみ合せてみると、興味がある。構成条件はいくつか総合されて教育課程に影響してくるであろうが、その中でも「研究指定を受けているかどうか」「校舎の貸借関係があるかないか」が大きな要因であることは一応言い得ることである。
- また全教科にわたる計画をもっている学校は平山村・町に多く、市は社会科理科の計画が多い
- 一般的には計画は平山村・町がよく進み、市が

これに次ぎ他はおくしているということができよう。参考のために抽出もれでしかも進

カリキュラム手続



の通りである。

んでいると思われる学校 (特別抽出校) については、さすがに全教科にわたる計画のできている学校が圧倒的に多い。

(1) 手続・類型は地域的には顕著なものがでてこない。しかし手続がどの程度実質的に行われているかは現地に直接赴かないと明らかにされないし、内容的には別の方法で処理しないと明瞭化されない。(116頁を参照) 類型についても調査票の生活時程の記録と照合してみても、実質とここに表われた数字は多少の相異があるもののように受けとれる。たとえば頑型の上では2型としか受け取れないのが、生活時程をみるとどうしても1型であると思われるものがあり、判定に困難した学校があつたのである。しかし一応第一次の調査では調査票のNo.2, No.3, No.6 (小学校) を照合して類型を決定したのであつて、この点も第三次の現地調査を待たなければならぬ。

けれども全般的には或事柄については全課程について調査し研究したという構成手続状況が非常に多く、類型については1型、型2が多い。 類型について特にその数をぬきだしてみると次の通りである。

	0 型	1 型	2 型	3 型
山	19 (22%)	40 (48%)	25 (30%)	0
平	2 (8%)	10 (39%)	10 (39%)	4 (15%)
山	7 (16%)	16 (35%)	14 (32%)	7 (16%)
漁	3 (25%)	2 (17%)	7 (58%)	0
町	0	8 (32%)	10 (40%)	7 (28%)
市	3 (21%)	5 (35%)	4 (29%)	2 (14%)
特	0	2 (13%)	4 (27%)	9 (6%)
合計(特を除く)	34 (16.59%)	81 (39.52%)	70 (34.15%)	20 (9.76%)

0型～3型の教育課程の類型は先に述べたコーディングのところをみて頂きたい。

0型を除いて1型～3型のうち、どれが最もよい型であるかはその学校の状態や教師の能力等から、一がいに断定できかねることであるが、理論的に言つて一般に3型が進歩的でよい型とされている。

2型は3型について進歩的であり、単元学習については一応割り切つている教育課程の類型とみることができよう。

以上のような観点でこの表をみると第一次調査から見た本県の教育課程の実態は44%が先ず進歩的な型を示しているといつてよからう。

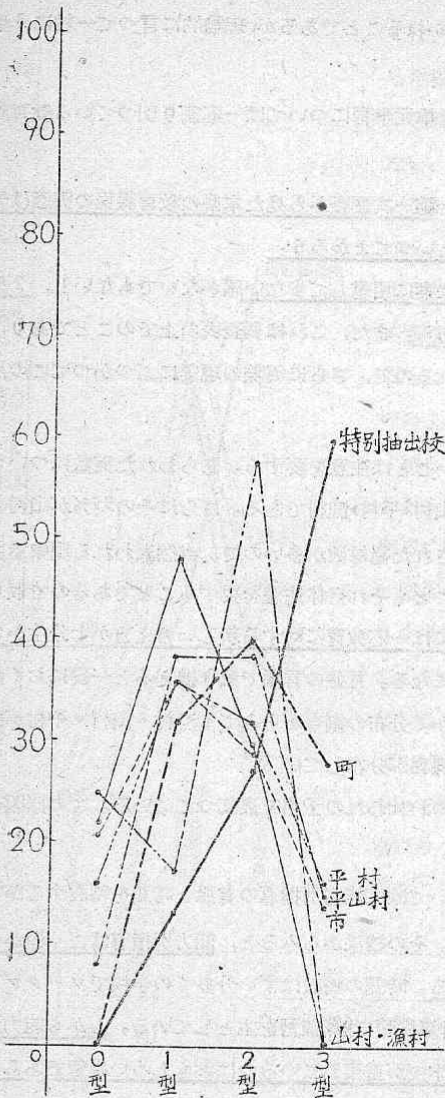
しかし3型が全体の10%というのは案に相違して少ない感がないでもないし、2型では単元学習以外の学習に問題がある。また、これは調査表の上でのことであり、その記入法にも多少の差異が見られるので、さらに実際の現場にぶつかつてこの点の究明をしなければならない。

尙教科書中心の教育課程が相当多いことは注意を要する。あらわれた実数についてその割合をみるとその中の85%が山村・平村・漁村である。さらにその55%が山村となつている。(山村・平村は抽出された絶対数が多いので、当然表われる現象であるが、その分布実数が多いということもそれ自体注意を要することであるので取り出してみた)これから見ると山村には一応教育に対する新しい考え方が十分生かされていない学校が多いということになる。月並の言葉で置き換えると一般におくれているといふことができる。とにかく分布の割合からみても漁村・山村・平村が悪く、市にも案外教科書中心の教育課程が分布している。

市や平村がよくないのは、はじめのわれわれの予想を裏切つてている。この原因や状態は究明されなければならない。

- (2) 基礎的学習(算数・国語)については、能力別指導の有無と時間を特設するかどうかにの二つの角度から処理した。その結果からみると、能力別指導はごく僅かの学校しかやつていないことがわかる。時間の特設はずい分多くの学校でワークブックを使用したりして、書取練習・計算練習・球算練習を主としている。しかも能力別指導をしてない学校と時間特設の学校が重複しているのはおもしろい現象である。このことから時間の特設が以前からよくやられた課外授業的性格の強いものであることがはつきりしてくる。規定時間では不足だとする学校は、規定時間の使い方がまづいか指導技術の未熟からくるのであるまいか。また能力別指導が行われていな

カリキュラムの類型



いのは基礎的学習についての考え方に徹底味を欠いているあらわれとも考えられる。

しかし、基礎的学習についてはこの二つの角度からの処理では全く不完全で、その輪廓さえつかめないことがわかった。現地調査の必要を痛感したのである。

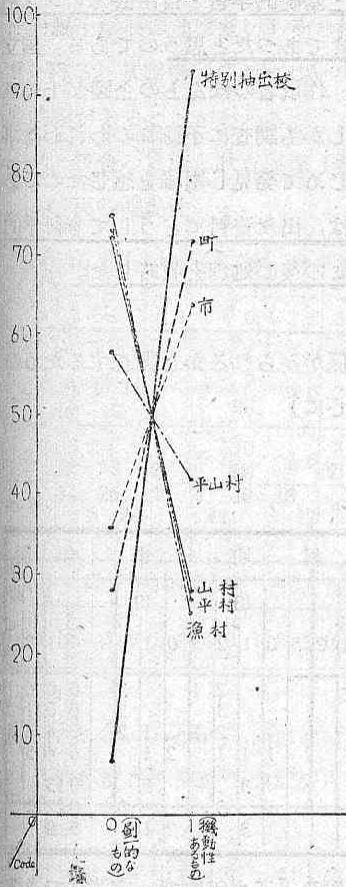
(四) 自治会は何らかの型で組織を持っている。このことから(組織の良否や実際の運営は不問にして)一応児童会はどの学校でも取り入れて、児童の民主的なあり方に対して機会と場を与えているとみることができる。

(五) 時間の画一的使用は山村・平村漁村がそれぞれ70%以上の数字を示し、(四)の状態と対応してうなづける。

(六) また特別に抽出した学校については、教育課程構成の条件もよいが、教育課程の構成はすべてにわたつて明瞭に進んだ形態を示している。これは構成条件を有効に生かして全員が進んだ教育課程の構成に挺身している結果であろう。とにかく一般の抽出校と較べて余りにもはつきりしたちがいを示し

ていることは、今後特に注目してみていかなければならないことであろう。

一週間の生活時程



㊦ 地域プランについては、記入上にあいまいのものがあつてはつきりまちががつていたものについてはこちらで訂正したものも二、三カ校ではなかつた。(たとえば、地域プランがあるのにないと記入したり、まだできていないのに完成していることにしてあつたというようなものについて) 地域プランの有無が学校に判然としていないのか、うかつりした記入の誤りかわからないうけれども、もし前者であるとすれば問題である。

とにかく調査票の処理の結果からみると、郡市プランの完成しているところ(昭和25年9月末現在)は新潟市・西蒲原郡・刈羽郡・中魚沼郡の四郡市で全教科について計画ができています。ブロックプランの完成しているところは、(ブロック区分がはつきりしないので詳しい郷の名前はわからないが)北蒲・中蒲・南蒲・古志・三島・北魚・中頸・東頸・岩船の各郡にある。その完成の程度は次の表の通りで、社会科計画のみが完成しているものが圧倒的で、全課程にできていところがこれに続いている。郡市プランが全部全課程について計画し完成しているのに対比してみるとブロックプランの特徴がわ

類型	社会科以外の他の教科についてプランがある	社会科のプランができてい	全教育課程のプランができてい
実数	1 校	2 8 校	1 5 校

かるようである。結局その教育課程構成の組織・スタッフの問題或は費用の問題等によるのであろうしかし郡市プランもブロックプランも共に地域プランとして各所

属学校の一応の基準的なものである以上、それは全体計画でありたいものである。

以上コーデックしてみて、手続き・研究費・基礎的学習・自治会・クラブ活動についてはもつと質問の項目を工夫すべきであつたと思うのである。国立教育研究所の用紙をそのまま使用したため、作成者のほんとの企図が十分理解されず、その処理に苦しんだのである。しかも調査に不馴れのわれわれは事前にこの発見ができず、処理にあたつてはじめて発見し困難を感じたのである。特に基礎的学習・クラブ活動については、出た資料にどうしても科学的客観的な資料としての信がおけないので、この後の処理を省略した。

b 各項目の対比

各項目についてその項目間に何らかの関係がみられるかを調査するための処理である。(構成条件と構成の関係を中心に)

(1) 研究指定校及び実験学校について

(研究指定校, 実験学校)

	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計				
	(1)			(2)			(4)						(3)			(3)							
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2
教育計 手類 基			1			2		1	3					2	1		3	0	0	6	7		
統 型 礎		1			1	1		2	2				3		3		3	0	0	11	2		
1		1			1	1		2	1	1			2	1		2	1	0	4	6	3		
児 重 会		1			2			4					3			3		0	13				
図 書 配		1			1	1		1	3				3			3		0	22	11			
時 間 分		1			2			3	1				3			2	1	5	8				

研究指定校というのは指導課で設けたところの「二三年位で一応達成できる地域に即した努力目標」を中心とする教育計画の樹立に関する指定校の他に保健課の学校給食の指定校・県統計課の統計処理の指定校・調査課の調査指定校・社会教育課の母親学級の指定校が含まれている。従つて指定校はそれぞれその目的が異なるため、指導課指定の指定校を除いては以上の項目で処理するのは厳密にいつて困難であるが、指定を受けた学校はそれだけ教師の打ち込み方もちがうであろうし何らかのかたちで教育課程の構成運営にプラスするものがあることは事実である。以上のことから一応これ等の指定校を一

括して処理してみた。その結果は基礎学習の面を例外として他はすべてよくなっていることがわかる。すなわち研究指定校や実験学校は（実験学校は三附属小学校の他はない）その校の教育課程に対しては有力な条件であると言い得る。基礎学習の面については、この学習の考え方や取りあげ方に大きな問題があることがわかる。

(四) 校舎の貸借と教育課程（特に教育計画・教育課程の手続・類型・生活時程の機動性）

(註26)

校舎	教育計画									特別抽出校	合計								
	山村	平山村			平村	漁村	町	市	合計										
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3			
0		1								1					2			2	
1	21 (9)	3 10	11 (4)	4 2	4 (6)	2 6	4 (6)	2 1	1 (1)	1 1	2 2	1 3	1 (1)	2 2	39 (11)	4 22	25		3
2	13 (9)	2 14	9 (2)	4 5	7 (4)	10 7	6 (2)	2 1	2 (2)	1 2	2 2	3 7	3 (1)	4 3	35 (18)	3 39	36	1	1
合計	34 5	25 20	8 11	7 11	19 12	13 12	4 4	1 4	3 3	5 1	8 11	4 6	4 4	6 4	74 7	63 61	1 13	1	220

校舎	手続									特別抽出校								
	山村	平山村			平村	漁村	町	市	合計									
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3		
0		1												1	1			
1	11	7	25	8	1	8	1	1	1	7	4	4	3	1	1	2	4	2
2	1	8	19	8	1	5	5	5	3	1	6	6	1	4	2	3	4	3

(註26)

校舎	類型									特別抽出校								
	山村	平山村			平村	漁村	町	市	合計									
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3		
0		1												1	1			
1	11	17	17	1	3	4	2	4	8	7	2	1	1	2	2	4	2	1
2	9	21	8	1	7	6	2	3	8	7	5	1	1	5	6	7	6	1

(註26) 集計数の検定はこの紀要に掲載した統計については全部実施したが、これ以下の表ではここに掲載するのを略す

時間 校舎	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校								
	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///	0	1	///			
0		1									1																			
1	3	4	11	6	4		17	4		4			1	5		2	2		6	4	30	3								
2	2	5	13	9	7		15	8		5	2		6	1	3	3	7		6	3	30	1	1	1						

以上の表から両者の関係には相関がみられない。すなわち教育課程の構成状況は校舎が中学と同居しているないには余り関係がないと言つてよからう。

(ハ) 学級数と教育課程との関係 (特に手続・類型・時間・図書)

教育 計画 学級数	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			
	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	
1~5	8 (4)	3	6 4	2 (1)		1 (1)			3 (1)	2	1		1	2	1 (1)			17 (8)	3	9	8	
6~11	20 (10)	1	17 13	4 (3)	6	5	11	8 (1)	1	2	3	3	2	1	1	1	1	39 (19)	2	39	31	
12~17	6 (3)	1	1 3	2 (2)		5 (4)	2	3	1	1		1	1	3	1	1		14 (9)	3	16	14	
18~23					1			1					1	1	2	1	1	1	1	1	3	5
24~29		1											1	1	1 (1)			2 (2)		2	1	
30以上													1	2	1	1	1	1	1	2	3	

手続 学級数	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			
	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	0	1	2 3	
1~5		7	8 6	1	1	1	1	2		1	5	2		2	1			1		10	17	10
6~11		1	13 27 10	1	3	7 4	3	20	7		3	1		4	4	1	1	1	2	20	62	27
12~17		1	2 7 1	1	5	1		8	2		1	1		1	1	3		2	1	4	24	8
18~23				1				1						1	3	1	2		2	3	4	
24~29		1												2		2				2	3	
30以上														2	1	2	1			2	3	1

学級数	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計									
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3				
1~5	10	7	4		1	2			2	1			1	2	3		2	1			1				12	14	11	
6~11	9	27	15		2	7	4	2	6	8	10	6		4			2	3	3		2	1			17	46	37	11
12~17	1	5	5		2	4	1		1	5	3	1			2		2	2	1		1	1			7	15	15	5
18~23		1				1			1								1	1	1		1	2			1	4	2	2
24~29																	1	2			1	1			2	2	1	
30以上																	2	1			1	2			3	3		

学級数	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計					
	0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1				
1~5	17	4		3			3			5	1		2	1		1			3	1		31	6	
6~11	33	18		8	7		22	8		3	1		3	5		1	2		7	0		70	41	
12~17	8	3		4	3		7	3		1	1		1	4		2			2	1		21	16	
18~23				1			1						1	3		2	1		3	6		3	6	
24~29	1												2			1			1	3		1	3	
30以上													3			1	3		1	6		1	6	

学級数	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計		
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
1~5	6	7	8	2	1		1	1	1	1	4	1	0	3		1			8	15	14
6~11	7	15	29	1	6	8	4	12	14	2	2		3	1	4	2	1		15	38	58
12~17		3	8	2	4		2	8		1	1		1	4		2			1	8	27
18~23				2			1						0	4		3			1	4	10
24~29		1					0						2			2			1	4	
30以上													3			3			6		

この表から見ると、教育計画・手続については学校の大きさとの相関はほとんどみられないが、類型・時間は24学級以上の場合には進んだタイプを示し

ていることがわかる。また図書館経営では12学級以上学校とそれ以下とで顕著な相異を示している。これは学校の教育予算とも深い関係があるうけれども、類型・時間等の関係とも総合してみると、大きい学校、つまり職員数の多いところは教育課程の構成にプラスするところが多いという事実を物語っているのではなからうか。したがって、小さい学校ではこの逆のことが考えうるかも知れない。またこれ等の大きい学校というのが、大てい地方の中心学校であるということも、これに深い関係をもつことである。

しかし全般的には学級数と教育課程構成のこれらの要素との間には高い相関関係は見受けられず、ただ先述のことが多少の関係があると言えは言い得るだろうという程度に過ぎない。

なお学級数、一学級児童数の関係を抽出校と特別抽出校についてみると次のようになる。

学級数 \ 一児童数	抽出校合計				%				特別抽出校			
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
1~5学級		4	17	16	10.8	45.9	43.2					
6~11 "	8	45	37	21	7.2	40.5	33.3	18.9		1	1	
12~17 "	6	17	14		16.2	45.9	37.8			2	3	
18~23 "	4	4			50.0	50.0						
24~29 "	4	1	1		65.7	16.7	16.7		3	1		
30以上	5	1			83.3	16.7			4			

両者合計したものについてその相関係数をだしてガレット氏の見解でこれを見ると 0.5821 で著しい相関を示していることになる。これから学級数の多い学校ほど一学級の児童数は多いということが両者共に言い得るので

学級数 \ 一児童数	一学級	一学級	一学級	一学級
	50人 以上	40人 以上	30人 以上	30人 未 満
1~5学級			4	17
6~11 "	8	45	38	21
12~17 "	6	19	17	
18~23 "	4	4		
24~29 "	7	2		1
30学級以上	9	1		

$r = 0.5821$

あつて、教育課程に及ぼす影響としてはちようど相殺関係にあるということができそうである。とにかく両者は全く逆の関係にあるので一学級児童数については教育課程との関係を特に比較処理しなかつたのである。

(二) 有資格者と教育課程の構成要素との関係(特に計画,手続,類型,時間)

教育計画 有資格者	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別抽出校				
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1
0	4 (1)	3	2				1				1		1		2				6 (1)	4	5					
1	12 (8)	5	10	8 (2)		1	12 (6)		8	2	2	1	1	1	3 (1)		3	2	31 (18)	6	23	14			1	
2	13 (6)	8	6	6 (4)		2	4		6	2	1		1	1	1	4			26 (14)	1	15	20			1	
3	5 (3)	4	3		4	7 (1)		1	4		2	1		4	3 (2)		6	4	11 (6)	22	22	1		1	11	

手続 有資格者	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別抽出校				
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1
0		2	6	2				1		1			1	2					4	7	4					
1	1	7	20	7		4	2	6	4		3	2	2	5	1				11	14	8	14			1	
2		4	5	3	1	2	5	3		1	1	2	1	3	3				1	8	25	13			1	
3		4	5	3	4	5	2		1	2	4		3		1	5	1	6	6	1	16	26	11	5	4	8

類型 有資格者	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別抽出校				
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1
0	4	4	2				1				1		2	1					4	7	4					
1	5	18	12		1	2	1	6	4	1	1	2	2	1		4	3	1	13	29	29	3			1	
2	1	9	12	5	2	5	4	1	10	1	2	1	2		1	4	2		5	25	23	9			1	
3	1	7	4		4	4	3		1	2	4		3		1	3	3	3	5	4	2	4	18	20	12	

時間 有資格者	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別抽出校				
	0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1		0	1
0	10						1			1			1	2					12	3						
1	25	10		3	1		17	5		4	1		2	6					5	1	33			1		
2	18	9		7	4		4	10		2	1		2	5					3	3	29			1		
3	6	6		5	6		5	2		2	1		2	5		5	9		2	5	29		1	12		

この関係についても、全般的には相関はないと言つてよからう。しかし類型と有資格者のコーディングについての相関係数は $r=0.264$ となる。また両者の分布は中央に高く、正規分布に近いと反定して、その母相関係数 $\rho=0$ なる仮説を検定するに、自由度 $n_1=1, n_2=203$ で、 F_0 の値は 15.208 となる。有意水準を1%にとると、この結果より、 $\rho=0$ なる仮説はすてられる。したがつて、類型と有資格者の間には相関のあることが認められるであらう。

(※) 主事等の訪問と教育課程構成の各要素関係

教育計画 主事訪問	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校					
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2
0回	5 (3)		3	3	1	1	1	3 (1)	3	5					1	2			1	9	8	12					2
1~2	25 (4)	5	16	12	3 (1)	5	5	13 (8)	9	5	4 (2)	1	2	3	4 (3)	2	4	4 (2)	3	15	53	63	30	1			
3~4	4 (2)		6	5	4 (1)	1	5	3 (0)	1	1		2	1	2	3				1	11	12	13	15				1
5回									1					1	3	2			2	1	1	5	4				1

手続 主事訪問	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校						
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
0回		2	6	3	1	1	1	1	7	3				1	2				1	5	16	8					1	4
1~2	1	16	30	12	4	8	2	2	19	6	1	7	2		7	3		3	5	2	25	76	25					1
3~4	1	4	7	2	1	1	4	3	2	2	1	1		3	1	2		1	1	2	15	9						1
5回 以上									1					1	3	2		2	1	3	5	2						1

類型 主事訪問	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校							
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	
0回	5	4	2		1	2		1	4	3	3				2	1		1			6	12	7	4				1	4
1~2	12	26	21		7	5	2	5	8	10	4	2	3	5	3	4	3	3	2	2	22	50	47	9				1	5
3~4	3	9	2		2	2	3	2	1	3	1	1	1		2	4		1		1	7	17	10	4					
5回 以上									1						1	3	2			1	2	1	5	4				2	2

圖書 主事 訪問	山村		平山村		平村		漁村		町		市		合計		特別 抽出校									
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2						
0回	4	2	5	1	2		2	2	7			3	1			6	5	18			2			
1~2	7	23	30	7	7		4	10	13	3	4	3	2	2	6	3	5		16	49	64			1
2~4	2	3	8	1	2	6		1	4		1	1		6		2			3	7	27			1
5回 以上							1				1	5		3		1	1	8			11			

主事等（主事以外の指導的立場の者も含む）の訪問についてはaのへ項でも述べたように、この訪問回数がやゝ不正確であり、客観的科学的調査の性格からまことに遺憾であるが、一応出された数字を厳正な資料として処理した。さてこれと各構成要素を照し合せてみて感ずることは、こゝにもまた相関がほとんどみられないということである。指導の目的をもつて訪問する主事等の影響が1・2回ならともかく3回以上の場合、教育課程の構成に表われないということはむしろおかしいことである。そのつもりでみると3回以上のところで僅かながらその傾向が察知されないこともないが、しかし一度も訪問を受けたことのない学校の相当数の中にも、また進んだ形態を表わしているのが見受けられる。これらのことから考えられることは、（一応この訪問回数を肯定して……）

- 主事の学校訪問は主事の繁忙や旅費が削減されているために、思うように出張ができない。
 - 主事が人員の不足から、学校の要求に全面的に応じられない……主事が指導面に重点的に仕事を集中できない。
 - 主事以外の指導者はいろいろのことで学校側が思うように手取り早く依頼することができない。
 - 主事以外の指導者の場合は学校側が旅費その他の負担をしななければならないので学校の予算が許さない。
 - 主事を利用する学校側の態度に問題がある。すなわち特に進歩的な学校以外は主事を教育課程について指導面から利用する意欲に欠けている。
- 等のことである。これは教育課程管理の面から特に強く要請されてよいこと

であろう。

(c) 研究授業・公開研究会と教育課程構成の諸要素との関係

計 回	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽出校							
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2		
0 回	4	1					2															6	1						
1~5	(1)9	2	10	5	2	2	2	(1)7	3	2	2	2	1	2	2	3	2	3	2	2	3	2	25	4	22	15			
6~10	(5)16	13	10	10	(2)5	5	5	(4)7	7	8	1	1	2	1	2	1	4	4	1	2	2	30	18	233	30				
11 以上	(9)15	2	2	5	3		4	(4)11	2	2	1	1	1	2	4				1			14	(2)18	2	8	15	1	1	11

手 続	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽出校					
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
0 回																											
1~5		2	3				1	1														3	4				
6~10	1	7	12	6	1	3	2	8	4	5			2	4	1	3	5	1	1	1	3	11	37	14			
11 以上	10	20	9	1	4	6	2	2	15	4	3	2	1	6	5	3	1	1	2	2	5	120	51	22	1	1	

類 型	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽出校					
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
0 回	4		1				1	1														4	1	1	1		
1~5	6	11	9		4	1	1	1	3	5	3	1	1	4		3	4		2	3	3	10	25	26	4		
6~10	7	20	12	2	4	5	2	4	8	9	1	1	3	4	6	2	1	2		2	15	38	5	7		1	1
11 以上	2	8	3	1	4	1	2	4	2	1	1			1	1	4			1	6	16	9	7	2	3	8	

類 型	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽出校					
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
0 回	15	13	14	1	4	4	2	2	7	8	6	2	2	2	4	1	1	3	1	1	1	21	28	32	12		
1 回	1	6	6	5	3	1	3	4	4	1	1					4	2	1	0	1		6	19	16	2		1
2 回	3	9	3	1	1		2	3	1			2				2	4	2	2	1		5	17	12	2	1	3
3 回以上	12	2		1	2	1	2	1	1							1	4	1	1	2	2	2	17	11	3	1	3

手
続
公
研
0 回
1 回
2 回
3 回以上

計
教
育
公
研
0 回
1 回
2 回
3 回以上

研
究
の
学
校
に
て
る。
い
る。
研
究
定
し
れ
ば
査
研
は
文
大
き
に
扱

手続 公研	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校						
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
0回	2	1	2	3	2	3	1	2	1	5	6	5	3	1	2	2	1	2	1	2	1	5	2	2				
1回		3	9	3	2	2	5	1	8	2		1	1	1	3	2	2							9	2	3	1	
2回		4	7	4	1	1		5	1		1	1				3	5		2	1				1	1	2	3	
3回以上		4	7	2	1	1	2	1	2	1						3	3		1	4				1	1	7	7	

計数 画育 公研	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校							
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	
0回	19	3	14	5	5	3	3	9	7	7	4	1	2	1	1	1	3	1	1	2	3	9	4	2	2	39	2	2	2
1回	(1)	4	6	1	(4)	3	5	(4)	4	2	(2)		1	1	2	1	3		1	1	1	(6)	1	1	1	13	1	1	1
2回	6	4	5	1	1	1	1	3	2	1	1	1	2	(1)	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	
3回以上	2	3	4	1	3	2	2	(2)	3		3				1	2	3	2	3	1	(6)	3	3	3	9	3	8	1	

研究授業は教育に対する熱心さに大いに関係があると見ることができる。こうした観点で教育計画・手続・類型との関係をながめたのであるが、教育計画と手続には顕著でないがその影響があらわれている。すなわち研究授業数皆無の学校では計画・手続は不十分であり、特に計画は0の所に集中している。そして6回以上の回数をもつ学校では2乃至3の所に最高の山がきているのである。しかし類型ではこの関係がすこぶるあいまいで、むしろ最高は1になっている。これは研究授業を通しての教育課程研究が、もちろん教育課程の形態の研究まで進むのであろうけれども、現在の研究・技術では3型(99頁の事項を肯定した場合)まで入り込めないという事実を証明しているのでなかろうか。これはなお教育課程改善への意欲と教師の研究程度や能力とをもつと突込んで調査研究してみる必要がある。(第三次調査参照)また1型に最高の山があるのは文部省の頭初の学習指導要項が各教科に単元という言葉を使用したことにも大きな影響があることと思う。もしそうだとすれば、授業研究というものが単に授業の技術という末梢的なところのみ突込んでいるか、或はおさなりの形

式的な授業研究であるということも言い得ることになる。そして計画・手続においても授業回数との間に顕著な相関関係がみとめられない事実及び特別抽出校における両者の相当高い相関等と考え合わせると、残念ながら言い過ぎかもしれないが、この事がむしろ有力な解釈であるように思われてならない。

次に公開研究会との関係を見ると、特別抽出校の方は相当高い相関関係がみとめられるが、その他ではそうした事実がでてきていない。もつとも公開研究会には郷主催のもの郡市主催のもの等いろいろの種類が含まれているけれども多少とも対外的なものである以上、その学校には何等かのよい影響があるべきはずである。それがこうした事実であることについては公開研究会に疑義をさしはさまざるを得ない。つけ焼双的なものであれば、それは決してその学校にはプラスしない。むしろ一時的な不自然な緊張は反動的にそれ以上の弛緩を生じて後退せぬとも限らないし、一・二の指導者とその学校を動かして、研究会後の栄転で逆戻りの現象をおこしているのかもしれない。

(b) 地域プランとの関係

	地域プラン												計																
	山 村			平山村			平 村			漁 村				町			市			特 別 抽 出 校									
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3					
公開研究会	0	3	9		9	2			8	14	1		6	2			2	3			2	2			93				
	1	7	7		7	2			4	7			2				3	2	1		2		1		45				
	2	6	8	1	2				2	4			1	1			5	2	1		3		1	3	41				
	3	7	6		4				1	3							5	1			3	2	5	2	41				
	計	53	30	1		22	4			15	28	1		9	3			15	8			2	5	9			6	6	3
自 校 案	0	2	11		7	1			5	13			3	1			1	4			1	3			75				
	1	4	1										1				1								7				
	2	15	14	1	6	1			6	6	1		4				6	2			3	3	1		69				
	3	11	14		9	2			3	9			2	1			7	2	2	1	3		4	6	79				
	計	53	30	1		22	4			15	28	1		9	3			15	8			2	5	9			6	6	3
構 成 手 続	0	2			1																				3				
	1	11	11		6				4				1				3	1	1	2	4	1			45				
	2	27	15	1	11	2			7	22	1		5	2			7	5	1	3	4		3	1	117				
	3	13	4		4	2			4	6			3	1			5	2			1		5	3	55				
	計	53	30	1		22	4			15	28	1		9	3			15	8			2	5	9			6	6	3

類	0
	1
	2
型	3
計	

地域
し指導
般的に
見ても
どんな
自校案
思うの
ていた
とおり
を作
域プ
いる
相当
ばな
(郡
でき
庄倒
に物
関係
(分)

類	山
型	
手続	0
	1
	1
	2
	1
	3

類 型	0	16	4	2	2	4	1	1	2	1	2	35							
	1	19	19	1	9	1	4	12	2	5	2	1	1	4	2	82			
	2	18	7	8	2	5	9	6	1	7	4	2	2	1	3	75			
	3			3	1	4	3	3	2	1	1	1	3	3	3	28			
計	53	30	1	22	4	15	28	1	9	3	15	8	2	5	9	6	6	3	220

地域プランについては、昭和24年度以来教育委員会としてその作成を勧奨し指導してきているのであるが、目下作成中というのも数ヶ所あつたが、全般的に完成しているものは少ない。これはコーデンガー覽表(94頁参照)を見てもよくわかる。ここではこの地域プランが、その学校の教育課程構成とどんな関係にあるかをみた。地域プランが最も強く影響すると思われるのは自校案とその構成手続きである。次に類型、公開研究会ということになると思うので、これ等について集計してみた。まだ全般的に地域プランが完成していないのだから、その関係を見るのは無理かもしれないが、上の表で見るとおりほとんど深い関係を示していない。地域プランがなくても自校のものを作成している学校は、どの地域にも例外なしに相当数あるのである。また地域プランはできていないが、その割に構成手続はそれぞれ或程度までやつている姿をこの表から把握することができる。これは各学校が教育課程の構成に相当努力していることを物語っているものであろう。この点は注目しなければならぬ。なおこれに関連して平村において地域プランができていないものが多いが、しかし構成手続は或程度できているという数が圧倒的に多いのは、教育委員会の勧奨の線に沿つて努力している過程を如実に物語っているとみて差支えない。またこの表から地域プランと類型との関係はあまりないと言われよう。

(ホ) 教育課程の類型と手続との関係

類型 手続	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽 出 校										
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3				
0	1	6	9	4	1	1			1	6					1	2					2	1			2	9	18	6				
1		11	17	11		1	5	4	2	11	3			1	1		2	5	1			1	3	1	17	42	21		1			1
2	1	5	17	2	3	5	2			11	3		1	5	1		1	6	4		1	3			11	14	7	12				1
3					2	2				1	2	4					2	2	2		2				17	6	6					3

これは同じ教育課程構成の要素について、特に関係が深いと思われるものを調べたのである。これ以下類型と基礎学習・類型・手続と時間等も以上のことから調べたものである。

類型と手続はやはり明瞭な相関は見とめられない。特別抽出校ではこの関係が明瞭である。したがって、このことについては次のことが言い得る。

- 特別抽出校は教育課程構成の手続きが根本的な考え方に立つて究明され実験されているから教育課程の構成にそのまま生かされている場合が多い。
- 一般の学校では手続がやゝ形式的であり、組織的になされていない。したがって手続きの内容や、その究明の度合が各学校まちまちで同一水準でないために結果が明瞭に出ない。こうしたことが一応完全に手続をとつたと思われる学校の類型の分布状態と、どちらかが不完全な手続である学校の類型の分布状態とに差があらわれてこない結果となる。
- また手続きに対する考え方や手続きのための調査結果の取扱い方にも問題がある。(第三次調査参照) 言いにくいことであるが、よその学校でやるから一応やろうという学校、体裁を整えるためにやろうという学校その他のいろいろの段階が考えられはしまいか。調査についてもさまざまで、これについては後で述べる。とにかく教育課程の手続きが各学校でまちまちであり、しかも不徹底であるのは教育の進歩の上に重大な問題となることは疑う余地がない。

(9) 教育課程の類型と学校における生活時程の布置との関係

時間 類型	山 村			平山村			平 村			漁 村			町			市			合 計			特 別 抽 出 校					
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2			
0	17	25	16	2	5	7	1	6	13	11	2	2	2	5	4	2	1	2	2	1	2	29	51	43	4	1	
1	3	15	9		5	3	3	1	3	3	5	1	2	4	9	5	1	4	2	2	6	29	28	15		1	4

この表から一目してわかることは、1型・2型では生活時程の機動的運営は明瞭でないが、0型3型とを比較すると顕著な差がみとめられる。教科書中心に構成した教育課程が画一的な時間区分を持つこと、児童の意味ある経験の成長を考え、心理的な過程を考慮して単元学習・基礎学習・その他の学習生活をはつきり位置づけた教育課程が生活時程に機動性を持つことは当然なことである。教科書中心の教育課程で時間の機動性を考慮している学校はすでにその教育課程から一步脱皮していると考えてよく、経験に立脚した教

育課程で時間の画一的なのは、その教育課程の運営に矛盾があると考えてよ
 かり。また1型・2型については類型そのものに巾があり、これをさらに
 分折し現地で実際調査をすれば、きつと明瞭な関係があらわれることであろ
 う。(第三次調査参照)ともあれ、1型・2型に時間の画一的区分をしてい
 る学校が多いのは、その教育課程の考え方或は運営に問題があるという事実
 を示している。現地調査の必要を痛感する。

(2) 手続と学校生活における生活時程の布置との関係

手続 時間	山村			平山村			平村			漁村			町			市			合計			特別 抽出校					
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
0	2	15	32	10	1	3	9	2	3	23	6	1	5	3	1	5	1	1	4	3	24	78	22				1
1	7	11	7	3	4	4	1	7	4	2	1	4	8	6	5	3	1	20	35	23				1	4	9	

両者の関係は類型との関係よりさらに不明瞭で、特別抽出校の他ほとんど相
 関関係なしと断じてよい。本質的には関係があるはずではあるが、以上のような
 結果であることは、手続きそのものに大きな疑問を抱かざるを得ない。す
 なわち手続きは如何にくわしくやつても根本的にはつきりした原理に立つて
 なされない限り、進んだ教育課程の構成はできないし、したがって一日の生活
 時程の上にも機動性はあらわれない。たとえば特別抽出校においては両者の
 関係が明瞭にあらわれている。町や市にもやゝその傾向があらわれている。
 なお以上ローリまでの各項目の関係を調べるに当つては、全部一応相関係数
 を出してみたのであるが、いづれも0.20以下であり、この点からも205校と
 いう数について言えば、その相関はほとんど見られないという結果がでたこ
 とを附記しておく。

2. 教育課程構成の手続内容の單純集計

教育課程構成の手続として社会的必要と児童の問題を把えることは必要欠く
 べからざることである。そこでこの内容について調査したのであるが、これは
 コーディングすることはかえつて複雑になるし、簡素化すれば正確度がうすれる
 ので、そのまゝ單純集計したのである。これも地域別に集計してみたが、地域
 によつての特異な差異はみとめなれなかつたので、紙数の節約のためこれを省
 く。綜合したものの表は次の通りである。

		全課程	社会	理科	家庭	国語	算数	図工	音楽	体育	特別活動
社会的必要	①憲法や教基法を基礎として社会的要求を具体的に示した	○98	○63	21	23	22	18	14	13	14	18
	②学習指導要領の内容を地域との関連において分析	○123	○114	93	○94	81	83	82	81	○77	16
	③人口、産業、自然的条件等土地の一般的事情をしらべている	○62	○104	○71	△54	20	△41	17	13	25	16
	④特別の委員会をもうけている	15	17	5	7	4	2	1	2	7	7
	⑤世論調査によつて課題意識をしらべた	△35	△51	9	24	14	6	3	9	8	16
	⑥新聞の論説や記事を分拆して社会の教育課題をとらえた	26	○65	10	15	11	8	3	4	9	11
	⑦種々の職業における仕事の内容を分析	15	32	12	30	2	6	3	2	4	4
	⑧卒業生の動向から社会の必要をさぐる	13	20	2	17	5	5	4			4
	⑨特別の方法をとつていない	3	3	7	8	15	13	14	19	17	7
	⑩その他	7	8	3	5	5	2	3	2	3	5
児童の問題	①児童の興味経験の調査	○79	○75	△62	△45	22	29	△43	△41	△44	15
	②児童の経験領域のひろがりを見た	○64	○83	△47	△38	23	31	29	16	23	6
	③生活内容を具体的に調査	○75	○89	30	△49	24	27	31	25	○62	20
	④発達段階の調査	△47	29	18	16	△36	△37	17	21	△39	10
	⑤学習能力をたしかめる	○70	△43	31	23	122	122	24	28	△45	5
	⑥教師の観察・意見の交換	○103	○60	△44	△44	△37	△41	△41	△42	△38	20
	⑦特別の方法をとらない	7	9	14	14	7	7	21	24	9	4
	⑧その他	3	6	1	3	1	1	3	1	1	5

註 ① 数字は実数である。 ② ○印70以上（全抽出校の34%以上）△印35以上（全抽出校の17%以上） ③ 60%が最高である。

この表で

全抽出校中多くの学校でやつているものは、社会的必要では文部省の学習指導要領の地域的解釈が断然多く、ついで憲法・教育基本法を基にして考えたもの、地域社会の一般調査をやつた学校である。（この三つのしごとは一連のつながりをもつて一つの学校で三つやつている場合が圧倒的である）なお社会科においては特に新聞等から社会の教育課題を把握しようと努力した学校が65ヶ校ある。数としては多いと言われないが他に比しては多い方である。児童の問題把握では、児童の興味経験の調査、経験領域のひろがり、生活実態調査、学習能力検査、教師の観察・意見の交換が高くなつている。中でも全般的には教師

の
は
か
に
る
当
や
等
の
危
て
い
い
こ
計
上
地
味

の観察・意見の交換が一番多くなっている。こうした調査がなされていることはまことに力強いことであるが、果してどの程度の深さであつたかは、この表からは出てこない。(現地調査にまたなければはつきりしたことは言われない)

教科別にみると、全課程についてやつた学校と社会科をやつた学校が圧倒的に多い。これは教育課程構成上、また社会科の性格上当然のことであると言える。また国語・算数は学習能力をたしかめるしごとが圧倒的であるが、これも当然のことであり、堅実なあり方だと思う。けれどもそれに比して学力低下がやかましいのはなぜだろう。これも現地調査にまたなければならぬ。

少いものとしては

- 特別の委員会をもつて調査した
- 課題意識をしらべた
- 教育課題の分析調査をした
- 発達段階の調査をした

等の項目であつた。しかしこの四つの中課題意識以下のしごととは教育課程構成の手續上根本的なしごとで、これがなされないでは折角の手續も砂上樓閣の危険性がある。しかも教師の観察、意見の交換が多いということを含せて考えて、手續がやや表面的ではなからうかという疑問を抱かせられる。多くやつている調査は広く一般に言われているものであり、「まあ一応やつたことにしないと……」という形式的な考えが存在するとするならば問題である。それともこれは余りにも猜疑心の強いひねくれた疑問であろうか。とにかくこの単純集計であらわれた数字からはその深さが把握されない。いろいろ關係的にみて以上のことが類推されるにしてもそれは断定できないのである。この点さらに現地を實際に調査して、ほんとうの姿をとらえなければならぬ。

3. 単元学習・非単元学習についての単純集計

非単元学習という言葉はないが、「単元学習をやつていない学習」という意味で臨時的約束としてこの言葉を用いた。

また単元学習において

- I …教科の目的や性質からみても現状からみても、単元学習を行うことは困難ではない。
- II …種々の條件が整わないために単元学習を行うのは、現状としては不適當である。
- III …教科の目的や性質からみて単元学習を行うことは不適當である。
- III …単元学習を行うのがよいか、行わないのがよいかわからない。

非常単元学習において

- I …教科の目的や性質からみて単元学習を行うのは不適當である。
- II …種々の條件が整わないために単元学習を行うのは現状としては不適當である。
- III …単元のやり方がよくわからない。

		単元学											
		I				II				III			
		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級	
		%	%			%	%			%	%		
山村 84	社理 国算	55	65.5	6	7.1	13	15.5	3	3.6	0		0	
		50	59.5	3	3.6	16	19.0	2	2.4	1	1.2	0	
		19	22.6	6	7.1	15	17.9	5	6.0	3	3.6	0	
		34	40.5	6	7.1	11	13.1	2	2.4	4	4.8	1	1.2
平山村 26	社理 国算	25	95.2	0		1	3.8	0		0		0	
		18	69.2	2	7.7	0		2	7.7	0		0	
		7	27.0	1	3.8	4	15.4	0		3	11.5	0	
		8	30.8	2	7.7	7	27.0	0		1	3.8	0	
平村 44	社理 国算	34	77.2	1	2.3	6	13.6	1	2.3	0		0	
		23	52.3	2	4.5	8	18.2	2	4.5	0		0	
		5	11.4	1	2.3	9	20.4	0		1	2.3	0	
		6	6.8	2	4.5	8	18.2	1	2.3	0		0	
漁村 12	社理 国算	8	65.7	1	8.3	0		0		1	8.3	0	
		8	65.7	0		1	8.3	1	8.3	0		8.3	
		2	16.7	0		0		1	8.3	0		0	
		6	50.0	2	16.7	0		0		0		0	
町 25	社理 国算	21	84.0	0		2	8.0	1	4.0	0		0	
		18	72.0	2	8.0	3	12.0	2	8.0	0		0	
		4	16.0	3	12.0	5	20.0	1	4.0	1	4.0	8.0	
		8	32.0	2	8.0	3	12.0	1	4.0	1	4.0	1	4.0
市 14	社理 国算	11	78.6	1	7.1	1	7.1	1	7.1	0		0	
		10	71.4	2	14.3	0		1	7.1	0		0	
		6	42.9	0		0		0		0		0	
		5	35.7	1	7.1	1	7.1	0		0		0	
合計 205	社理 国算	154	75.1	9	4.4	23	11.2	6	2.9	1	0.5	0	
		127	62.0	11	5.4	27	13.2	10	4.9	1	0.5	1	0.5
		43	21.0	11	5.4	33	16.1	7	3.4	8	3.9	2	1.0
		74	36.1	15	7.3	29	14.1	4	2.0	6	2.9	2	1.0
特 15	社理 国算	12	80.0	0		3	20.0	0		0		0	
		9	60.0	1	6.7	4	25.7	1	6.7	0		0	
		3	20.0	3	20.0	2	13.3	3	20.0	0		2	13.3
		5	33.3	3	20.0	2	13.3	2	13.3	1	2.7	1	6.7

(低) 学年

習		非 単 元 学 習								
IV		I		II		III				
全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	
	%		%		%		%		%	
0	0	0	0	10	11.9	2	2.4	0	0	
0	1	1.2	0	13	15.5	2	2.4	0	0	
0	0	11	13.1	8	9.5	21	25.0	6	7.1	
0	1	1.2	4	4.8	3	3.6	20	23.8	5	6.0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.2	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	5	19.2	2	7.7	0	0	
0	0	4	15.4	3	11.5	4	15.4	4	15.4	
0	1	3.8	1	3.8	1	3.8	7	27.0	2	7.7
0	0	0	0	3	6.8	0	0	0	0	
0	0	0	0	10	22.7	2	4.5	0	1	
1	2.3	0	7	15.9	3	6.8	16	35.4	5	11.4
0	0	0	4	9.1	1	2.3	15	34.1	3	6.8
2	16.7	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	1	8.3	1	8.3	0	0	
0	0	5	41.7	0	3	25.0	2	16.7	0	0
0	0	1	8.3	1	8.3	2	16.7	3	25.0	
0	0	0	0	0	0	1	4.0	0	0	
0	0	0	0	1	4.0	0	0	0	0	
0	0	3	12.0	4	16.0	5	20.0	3	12.0	
0	0	2	8.0	3	12.0	5	20.0	3	12.0	
0	0	0	0	1	7.1	0	0	0	0	
0	0	0	0	2	14.3	1	7.1	0	0	
0	0	1	7.1	2	14.3	5	35.7	2	14.3	
0	0	0	0	1	7.1	6	42.9	2	14.3	
2	1.0	0	0	14	6.8	3	1.5	0	0	
0	1	0.5	0	32	15.6	8	3.9	0	1	
1	0.5	0	31	15.1	20	9.8	54	26.3	22	10.7
0	2	1.0	12	5.9	10	4.9	55	26.8	15	7.3
0	0	0	0	1	6.7	0	0	0	0	
0	0	1	6.7	1	6.7	1	6.7	0	0	
0	1	6.7	2	13.3	2	13.3	3	20.0	1	6.7
0	1	6.7	2	13.3	2	13.3	0	3	20.0	

		单 元 学											
		I				II				III			
		全 学 級		一 部 の 学 級		全 学 級		一 部 の 学 級		全 学 級		一 部 の 学 級	
		%		%		%		%		%		%	
山 村 84	社 理 国 算	45	54.8	7	8.3	14	16.7	6	7.1	0		0	
		37	44.0	6	7.1	17	20.2	6	7.1	0		0	
		13	15.5	1	1.2	17	20.2	4	4.8	1	1.2	1	1.2
		29	34.5	3	3.6	10	11.9	3	3.6	1	1.2	2	2.4
平 山 村 26	社 理 国 算	22	84.6	1	3.8	2	7.7	1	3.8	0		0	
		15	57.7	3	11.5	2	7.7	1	3.8	0		0	
		5	19.2	0		4	15.4	1	3.8	4	15.4	0	
		6	23.1	4	15.4	5	19.2	2	7.7	2	7.7	0	
平 村 44	社 理 国 算	29	65.9	4	9.1	7	15.9	2	4.5	0		0	
		18	40.9	5	11.4	9	20.4	3	6.8	0		0	
		5	11.4	0		6	13.6	1	2.3	1	2.3	0	
		10	22.7	3	6.8	7	15.9	2	4.5	0		0	
漁 村 12	社 理 国 算	8	65.7	0		2	16.7	0		1	8.3	0	
		9	75.0	0		2	16.7	0		0		0	
		3	25.0	0		0		0		0		0	
		7	58.3	1	8.3	0		0		0		0	
町 25	社 理 国 算	20	80.0	1	4.0	2	8.0	1	4.0	0		0	
		17	68.0	1	4.0	5		1	4.0	0		0	
		4	16.0	5	20.0	6	20.0	3	12.0	1	4.0	1	4.0
		8	32.0	4	16.0	4		2	8.0	1	4.0	0	
市 14	社 理 国 算	11	78.6	2	14.3	0		1	7.1	0		0	
		9	64.3	2	14.3	0		2	14.3	0		0	
		3	21.4	2	14.3	2	14.3	0		0		0	
		4	28.6	1	7.1	2	14.3	2	14.3	0		0	
合 計 205	社 理 国 算	138	66.3	19	7.3	27	13.2	11	5.4	1	0.5	0	
		105	51.2	17	8.3	35	17.1	13	6.3	0		0	
		33	16.1	8	3.9	36	17.1	9	4.4	7	3.4	2	1.0
		64	31.2	16	7.8	28	13.7	11	5.4	4	2.0	2	1.0
特 15	社 理 国 算	13	86.7	0		2	13.3	0		0		0	
		9	60.0	2	13.3	3	20.0	1	6.7	0		1	6.7
		4	26.7	4	26.7	1	6.7	1	6.7	0		1	6.7
		4	26.7	2	13.3	2	13.3	3	20.0	0		2	13.3

(中) 学 年

		習 非 単 元 学 習							
		IV		I		II		III	
級 %		全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級
		%	%	%	%	%	%	%	%
		0	1 1.2	0	0	14 16.7	2 2.4	0	0
		1 1.2	1 1.2	0	0	20 23.8	2 2.4	0	0
1.2		0	0	15 17.9	6 7.1	25 31.0	6 7.1	3 3.6	1 1.2
2.4		0	1 1.2	6 7.1	5 6.0	27 32.1	4 4.8	2 2.4	1 1.2
		0	0	0	0	1 3.8	0	0	0
		0	0	0	0	5 19.2	2 7.7	0	0
		0	0	4 15.4	2 7.7	7 27.0	2 7.7	1 3.8	1 3.8
		0	0	1 3.8	1 3.8	7 27.0	2 7.7	0	0
		0	0	0	0	3 6.8	0	0	0
		0	0	0	1 2.3	10 22.7	4 9.1	0	2 4.5
		1 2.3	0	7 15.9	3 6.8	20 45.4	2 4.5	0	2 4.5
		0	1 2.3	4 9.1	3 6.8	17 38.6	2 4.5	0	1 2.3
		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	5 41.7	1 8.3	3 25.0	1 8.3	0	0
		0	0	1 8.3	1 8.3	1 8.3	2 16.7	0	0
		0	0	0	0	1 4.0	0	0	0
		0	0	0	0	0	2 8.0	0	0
4.0		0	0	4 16.0	1 4.0	7 28.0	1 4.0	0	0
		0	0	3 12.0	1 4.0	6 24.0	0	0	0
		0	0	0	0	1 7.1	0	0	0
		0	0	0	0	3 21.4	0	0	0
		0	0	0	1 7.1	5 35.7	0	0	1 7.1
		0	0	1 7.1	1 7.1	5 35.7	0	0	0
		0	1 0.5	0	0	20 9.8	2 1.0	0	0
1.0		1 0.5	1 0.5	0	1 0.5	39 18.5	9 4.4	0	2 1.0
1.0		0	0	35 17.1	14 6.8	68 33.2	12 5.9	4 2.0	5 2.4
		0	2 1.0	18 7.8	12 5.9	63 30.7	10 4.9	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
6.7		0	0	1 6.7	0	0	1 6.7	0	0
6.7		0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	1 6.7	0
13.3		0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	3 20.0	2 13.3	0	0

		単 元 学									
		I				II				III	
		全 学 級		一部の学級		全 学 級		一部の学級		全 学 級	一部の学級
			%		%		%		%		%
山村 84	社理 国算	44	52.4	7	8.3	16	19.0	7	8.3	0	0
		34	40.5	5	6.0	20	23.8	6	7.1	0	2
		14	16.7	1	1.2	17	20.2	1	1.2	1	1
		29	34.5	2	2.4	9	10.7	4	4.8	1	1.2
平山村 25	社理 国算	23	88.5	0		2	7.7	0		0	0
		15	57.7	1	3.8	3	11.5	0		0	0
		5	19.2	1	3.8	4	15.4	2	7.7	3	11.5
		6	23.1	0		7	27.0	1	3.8	2	7.7
平村 44	社理 国算	27	61.3	5	11.4	8	18.2	3	6.8	0	0
		16	36.4	3	6.8	11	25.0	4	9.1	0	0
		6	13.6	0		6	13.6	1	2.3	1	2.3
		9	20.4	1	2.3	6	13.6	2	4.5	1	2.3
漁村 12	社理 国算	9	75.0	0		2	16.7	0		1	8.3
		8	66.7	1	8.3	1	8.3	2	16.7	0	0
		3	25.0	0		0		1	8.3	0	0
		6	50.0	0		0		0		0	0
町 25	社理 国算	18	72.0	2	8.0	4	16.0	1	4.0	0	0
		14	56.0	2	8.0	7	28.0	2	8.0	0	0
		3	12.0	2	8.0	6	24.0	3	12.0	2	8.0
		5	20.0	5	20.0	4	16.0	4	16.0	3	12.0
市 14	社理 国算		64.3	2	14.3	1	7.1	2	14.3	0	0
			57.1	2	14.3	0		2	14.3	0	0
		3	21.4	0		1	7.1	2	14.3	1	7.1
		3	21.4	1	7.1	1	7.1	2	14.3	1	7.1
合計 205	社理 国算	130	63.4	16	7.8	33	16.1	13	6.3	1	0.5
		100	48.8	14	6.8	42	21.0	16	7.8	0	2
		34	16.6	4	2.0	34	16.6	10	4.9	8	3.9
		58	28.3	9	4.4	27	13.2	13	6.3	8	3.9
特 15	社理 国算	11	73.3	1	6.7	3	20.0	1	6.7	0	0
		8	53.3	1	6.7	5	33.3	1	6.7	0	0
		3	20.0	4	26.7	2	13.3	3	20.0	0	2
		4	26.7	3	20.0	2	13.3	2	13.3	0	2

(高) 学 年

習		非 単 元 学 習													
IV		I		II		III									
全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級	全学級	一部の学級						
	%		%		%		%		%						
0	1	1.2	0	0	15	17.9	5	6.0	0	0					
0	0	0	0	0	20	23.8	4	4.8	0	0					
0	0	14	16.7	3	3.6	31	36.9	5	6.0	2	2.4	1	1.2		
0	1	1.2	9	10.7	5	6.0	29	34.5	5	6.0	0	0			
0	0	0	0	0	1	3.8	0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	7	27.0	1	3.8	0	0	0	0			
0	0	5	19.2	1	3.8	6	23.1	2	7.7	0	0	0	0		
0	0	2	7.7	0	0	8	30.8	1	3.8	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	3	6.8	1	2.3	0	0	1	2.3			
0	0	0	0	0	13	29.5	2	4.5	0	0	1	2.3			
0	0	7	15.9	4	9.1	17	38.6	5	11.4	0	0	2	4.5		
0	0	5	11.4	2	4.5	18	40.9	3	6.8	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	8.3	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	1	8.3	1	25.0	0	0	0	0	0		
0	1	8.3	5	41.7	1	8.3	1	8.3	3	8.3	0	0	0		
0	0	2	16.7	1	8.3	2	16.7	1	4.0	0	0	1	8.3		
0	0	0	0	0	1	4.0	1	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	2	8.0	0	12.0	0	0	0	0	0		
0	0	0	5	20.0	1	4.0	4	16.0	3	4.0	0	1	4.0		
0	1	4.0	3	12.0	2	8.0	5	20.0	1	0	0	0	0		
0	1	7.1	0	0	2	14.3	0	0	0	0	0	0	0		
0	1	7.1	0	1	7.1	3	21.4	1	7.1	0	0	0	0		
0	0	0	0	2	14.3	6	42.9	3	21.4	0	0	0	0		
0	0	0	0	3	21.4	5	35.7	3	21.4	0	0	1	7.1		
0	2	1.0	0	0	22	10.7	7	3.4	0	0	1	0.5			
0	1	0.5	0	1	0.5	46	22.4	9	4.4	0	0	1	0.5		
0	1	0.5	36	17.6	12	5.9	65	31.7	21	10.2	2	6.7	4	2.0	
0	1	0.5	21	10.2	13	6.3	67	32.7	14	6.8	0	0	1	0.5	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	1	6.7	1	6.7	1	6.7	0	0	1	6.7	0	0	0	0	
0	0	2	13.3	2	13.3	3	20.0	0	0	1	6.7	0	0	0	
0	0	2	13.3	1	6.7	2	13.3	3	20.0	0	0	1	6.7	0	6.7

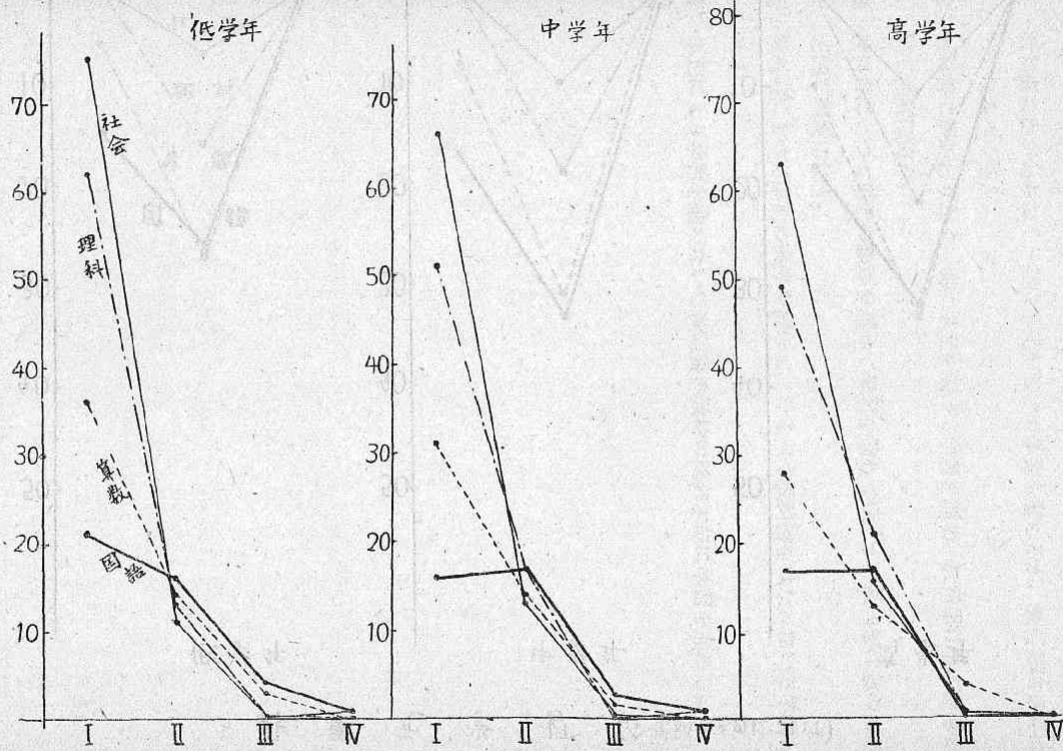
この表で先づ目に着くのは、単元学習・非単元学習共に同学年内で歩調がそろっていない学校が6~7%内外あるということである。これは単元学習のみならず新教育そのものに相当の不安定さがあることを物語っている。「どうしてよいかわからない。いずれがよいのか自信もないし判断もつかない。」という状態が如実に示されていると見てよい。

さらに全学級まとまっている学校について調べてみると、次頁の折線グラフのようになる。低・中・高学年で著しい差はみとめられない。しかし社会・理科算数・国語の四教科について比較してみると、単元学習を全面的に認めているのは社会科であり、次に理科である。国語については否定的といつてよい。やつてはいるが現状では困難とするものは四教科おおよそ似通っているが、中学年から高学年にいくにつれて理科にこの傾向のあらわれているのは、実験材料の不足、理科室の不備、理科の学習内容等の面から一応うなづけることであると共に、教科の学習に対する考え方の不徹底さも散見できる。教科の性質や目的より不適当としているのは国語・算数に僅少にあらわれ、理科・算数では皆無といつてよい。低学年でよいかわるいかわからないとする学校があるが、これに至つては寒心の外はない。

非単元学習は、さすがに国語・算数が断然多い。中でも教科の性質や目的から単元学習を否定しているものは国語・算数であり、社会・理科では皆無である。これは教科内容の性質上、また教科の目的の上から当然のことであつて、むしろこのグラフにおいては国語・算数はここに山があるべきでないかと思う。単元学習はやりたいが、いろいろの条件が整わないのでやれないとするものはやはり、国語・算数に多く理科が次いでいる。国語・算数の山がここにあり、しかも群を抜いているのは、各教科単元学習という教育課程の類型中1型を代表する考え方で、この考え方が本県において30~40%の間にあるということが出来る。

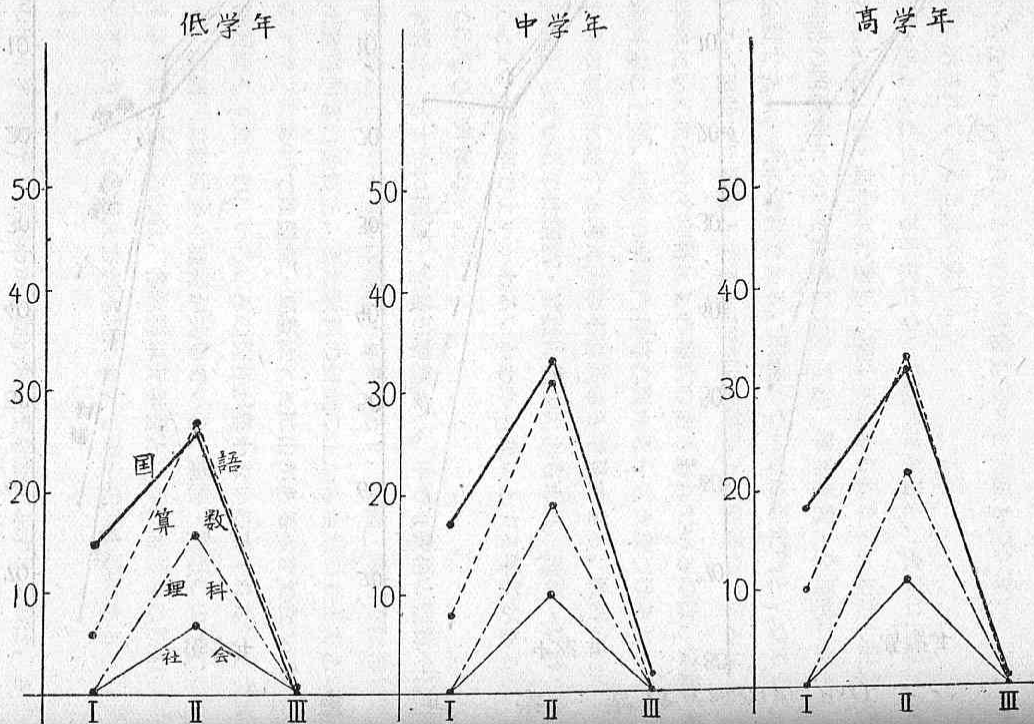
なおⅢの単元学習のやり方がわからないからやらないとするものは、さすがに四教科ともほとんどないといつてよい。

單元學習 (全學級のものをについて)



を考ふるに皆てかあ、思もあ型てが

非單元學習 (全學級のものについて)



4. 教科書使用に関する集計

次に掲げる集計中Ⅰ～Ⅴの内容を説明すると、

- Ⅰ…教科書にかかわらず、別に単元を設けて学習を進めるが、教科書は必要に応じてなるべく使う。
- Ⅱ…教科書にかかわらず、別に単元を設けて学習を進め、教科書は他の参考書と同じ程度に使う。
- Ⅲ…教科書によつて単元の順序を設けて学習を進めてゆくが、教科書は他の参考書と同じ程度に使う。
- Ⅳ…教科書によつて単元の順序を設けて、なるべく教科書をはなれないで学習を進める。
- Ⅴ…単元により学習を進めないで教科書の教材の配列本位に学習を進める。

教科書使用

		低 学							
		I				II			
		全 学 級		一 部 の 学 級		全 学 級		一 部 の 学 級	
			%		%		%		%
山 村 84	社 理 国 算	8	9.5	9	10.7	11	13.1	8	9.5
		7	8.3	7	8.3	4	4.8	4	4.8
		2	2.4	2	2.4	0		0	
		4	4.8	1	1.2	0		2	2.4
平 山 村 26	社 理 国 算	2	7.7	6	23.1	3	11.5	2	7.7
		1	3.8	5	19.2	3	11.5	3	11.5
		1	3.8	2	7.7	0		0	
		1	3.8	1	3.8	0		1	3.8
平 村 44	社 理 国 算	9	20.4	9	20.4	6	13.6	7	15.9
		5	11.4	2	4.5	2	4.5	3	6.8
		1	2.3	0		0		0	
		1	2.3	1	2.3	1	2.3	1	2.3
漁 村 12	社 理 国 算	2	16.7	2	16.7	3	25.0	2	16.7
		4	33.3	0		1	8.3	1	8.3
		0		0		0		0	
		1	8.3	0		0		0	
町 25	社 理 国 算	3	12.0	5	20.0	4	16.0	4	16.0
		0		4	16.0	1	4.0	3	12.0
		2	8.0	1	4.0	0		0	
		2	8.0	1	4.0	0		0	
市 14	社 理 国 算	0		4	28.6	2	14.3	1	7.1
		2	14.3	3	21.4	1	7.1	1	7.1
		2	14.3	0		0		1	7.1
		2	14.3	0		0		1	7.1
合 計 205	社 理 国 算	24	11.7	35	17.1	29	14.1	24	11.7
		19	9.3	21	16.2	12	5.9	15	7.3
		8	3.9	7	3.4	0		1	0.5
		11	5.4	4	2.0	1	0.5	5	2.4
特 15	社 理 国 算	3	20.0	0		3	20.0	3	20.0
		3	20.0	2	13.3	2	13.3	0	
		4	26.7	1	6.7	0		0	
		4	26.7	2	13.3	2	13.3	1	6.7

教科書使用しないもの (社) 104 (50.7)

(理) 87 (42.8)

年											
Ⅲ				Ⅳ				Ⅴ			
全学級		一部の学級		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級	
	%		%		%		%		%		%
2	2.4	1	1.2	6	7.1	3	3.6	1	1.2	1	1.2
2	2.4	5	6.0	15	17.9	13	15.5	2	2.4	1	1.2
0		0		44	52.4	10	11.9	26	31.0	9	10.7
1	1.2	5	6.0	48	57.1	7	8.3	20	23.8	7	8.3
2	7.7	0		0		1	3.8	0		0	
2	7.7	2	7.7	1	3.8	5	19.2	0		0	
0		0		13	50.0	3	11.5	7	27.0	3	11.5
1	3.8	1	3.8	16	61.5	2	7.7	4	15.4	1	3.8
0		0		2	4.5	0		0		1	2.3
0		3	6.8	7	15.9	6	13.6	0		2	4.5
1	2.3	1	2.3	19	43.2	2	4.5	20	45.4	2	4.5
2	4.5	3	6.8	20	45.4	2	4.5	14	31.8	4	9.1
0		0		0		0		0		0	
0		0		1	8.3	0		1	8.3	0	
0		0		7	58.3	1	8.3	2	16.7	2	16.7
2	16.7	1	8.3	5	41.7	3	25.0	1	8.3	1	8.3
0		0		0		0		0		0	
0		2	8.0	2	8.0	1	4.0	0		1	4.0
0		1	4.0	15	60.0	1	4.0	6	24.0	1	4.0
1	4.0	1	4.0	14	56.0	2	8.0	6	24.0	0	
2	14.3	0		0		0		0		0	
0		0		1	7.1	2	14.3	0		0	
1	7.1	0		6	42.9	1	7.1	4	28.6	0	
1	7.1	1	7.1	6	42.9	1	7.1	3	21.4	1	7.1
6	2.9	1	0.5	8	3.9	4	2.0	1	0.5	2	1.0
4	2.0	12	5.9	27	13.2	27	13.2	3	1.5	4	2.0
2	1.0	2	1.0	104	50.7	18	8.8	70	34.1	17	8.3
8	3.9	12	5.9	109	53.2	17	8.3	48	23.4	14	6.8
2	13.3	0		0		0		0		0	
1	6.7	1	6.7	0		0		0		0	
1	6.7	1	6.7	2	13.3	4	26.7	4	26.7	1	6.7
1	6.7	4	26.7	2	13.3	4	26.7	0		4	26.7

教科書使用

		中 学							
		I				II			
		全 学 級		一 部 の 学 級		全 学 級		一 部 の 学 級	
		%		%		%		%	
山 村 84	社 理 国 算	20	23.8	6	7.1	24	28.6	4	4.8
		7	8.3	5	6.0	6	7.1	8	9.5
		1	1.2	0		0		0	
		2	2.4	1	1.2	0		1	1.2
平 山 村 26	社 理 国 算	7	27.0	1	3.8	9	34.6	1	3.8
		0		5	19.2	3	11.5	2	7.7
		0		0		0		0	
		0		0		0		0	
平 村 44	社 理 国 算	18	40.9	5	11.4	14	31.8	4	9.1
		2	4.5	3	6.8	4	9.1	2	4.5
		1	2.3	0		0		0	
		1	2.3	1	2.3	1	2.3	0	
漁 村 12	社 理 国 算	5	41.7	0		5	41.7	0	
		5	41.7	0		2	16.7	0	
		0		0		0		0	
		1	8.3	0		0		0	
町 25	社 理 国 算	8	32.0	2	8.0	8	32.0	0	
		1	4.0	4	16.0	1	4.0	7	28.0
		0		0		0		1	4.0
		0		1	4.0	0		1	4.0
市 14	社 理 国 算	4	28.6	1	7.1	5	35.7	2	14.3
		2	14.3	2	14.3	0		2	14.3
		0		0		0		0	
		1	7.1	0		0		0	
計 205	社 理 国 算	62	30.2	15	7.3	65	31.7	11	5.4
		17	8.3	19	9.3	16	7.8	21	10.2
		2	1.0	0		0		1	0.5
		5	2.4	3	1.5	1	0.5	2	1.0
特 51	社 理 国 算	4	26.7	3	20.0	5	33.3	4	26.7
		2	13.3	3	20.0	2	13.3	3	20.0
		4	26.7	1	6.7	0		1	6.7
		4	26.7	1	6.7	1	6.7	1	6.7

教科書使用しないもの (社) 14 (6.8)

(理) 40 (19.5)

年											
Ⅲ				Ⅳ				Ⅴ			
全学級		一部の学級		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級	
	%		%		%		%		%		%
6	7.1	4	4.8	11	13.1	7	8.3	5	6.0	2	2.4
7	8.3	10	11.9	16	19.0	12	14.3	4	4.8	3	3.6
0		2	2.4	39	46.4	7	8.3	36	42.9	7	8.3
0		0		44	52.4	9	10.7	27	32.1	9	10.7
2	7.7	0		4	15.4	0		0		0	
5	19.2	6	23.1	4	15.4	3	11.5	0		0	
0		0		14	53.8	3	11.5	8	30.8	3	11.5
1	3.8	1	3.8	17	65.4	2	7.7	5	19.2	1	3.8
0		0		2	4.5	1	2.3	1	2.3	0	
0		7	15.9	7	15.9	10	22.7	1	2.3	6	13.6
0		0		19	43.2	3	6.8	20	45.4	2	4.5
0		2	4.5	21	47.7	5	11.4	14	21.8	2	4.5
1	8.3	0		0		0		0		0	
1	8.3	1	8.3	1	8.3	2	16.7	0		0	
2	16.7	0		7	55.9	0		2	16.7	0	
1	8.3	1	8.3	6	50.0	1	8.3	3	25.0	0	
0		0		0		1	4.0	0		0	
0		3	12.0	3	12.0	3	12.0	0		0	
0		0		15	60.0	2	8.0	6	24.0	1	4.0
0		0		15	60.0	1	4.0	6	24.0	1	4.0
2	14.3	0		1	7.1	0		0		0	
2	14.3	0		1	7.1	7	50.0	0		1	7.1
2	14.3	0		9	64.3	3	21.4	0		3	21.4
1	7.1	0		9	64.3	3	21.4	0		3	21.4
11	5.4	4	2.0	18	8.8	9	4.4	6	2.9	2	1.0
15	7.3	27	13.2	32	15.6	37	18.0	5	2.4	10	4.9
4	2.0	2	1.0	103	50.2	18	8.3	72	35.1	11	7.8
3	1.5	4	2.0	112	54.6	21	10.2	55	26.8	16	7.8
1	6.7	0		0		0		0		0	
2	13.3	1	6.7	1	6.7	0		0		0	
1	6.7	1	6.7	1	6.7	3	20.0	5	33.3	2	13.3
1	6.7	2	13.3	2	13.3	4	26.7	2	13.3	3	20.0

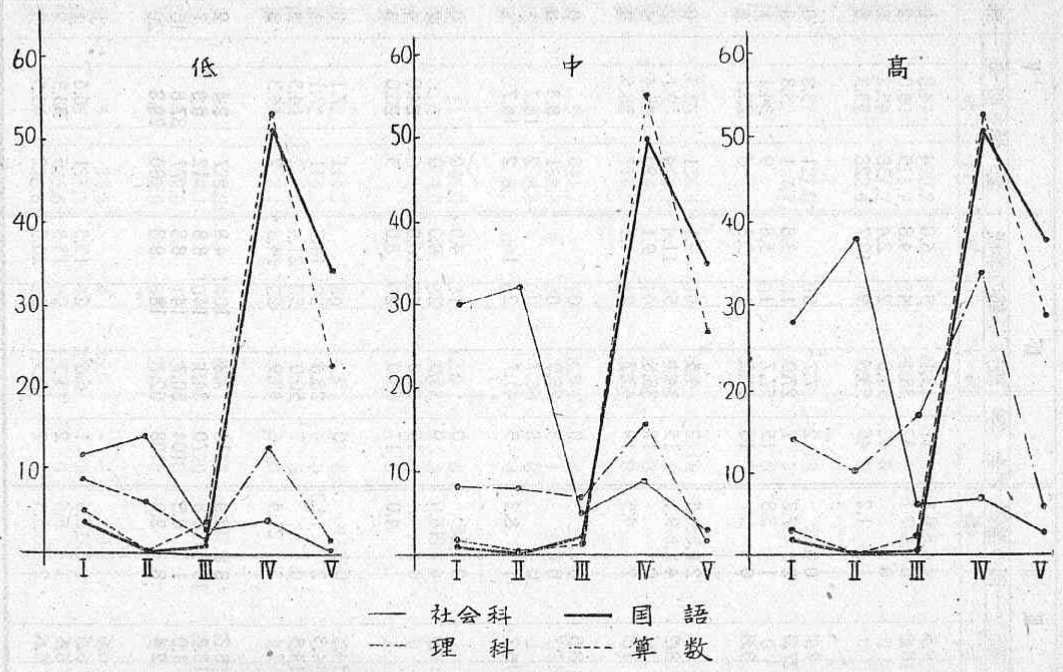
教科書使用

		高 学							
		I				II			
		全 学 級		一 部 の 学 級		全 学 級		一 部 の 学 級	
		%		%		%		%	
山 村 84	社 理 国 算	17	20.2	5	6.0	30	35.7	6	7.1
		10	11.9	3	3.6	9	10.7	4	4.8
		1	1.2	0		0		0	
		2	2.4	1	1.2	0		0	
平 山 村 25	社 理 国 算	7	27.0	0		13	50.0	0	
		2	7.7	2	7.7	5	19.2	2	7.7
		0		0		0		0	
		0		1	3.8	0		1	3.8
平 村 44	社 理 国 算	16	36.4	3	6.8	16	36.4	7	15.9
		5	11.4	2	4.5	3	6.8	3	6.8
		2	4.5	1	2.3	0		0	
		2	4.5	1	2.3	0		0	
漁 村 12	社 理 国 算	5	41.7	1	8.3	4	33.3	1	8.3
		4	33.3	0		1	8.3	0	
		1	8.3	0		0		1	8.3
		1	8.3	0		0		0	
町 25	社 理 国 算	11	44.0	3	12.0	8	32.0	1	4.0
		6	24.0	3	12.0	2	8.0	2	7.0
		0		0		0		0	
		0		0		0		1	4.0
市 14	社 理 国 算	2	14.3	2	14.3	6	42.9	2	14.3
		2	14.3	2	14.3	0		2	14.3
		0		0		0		1	7.1
		1	7.1	2	14.3	0		1	7.1
計 205	社 理 国 算	58	28.3	14	6.9	77	37.6	17	8.3
		29	14.1	10	4.9	20	9.8	13	6.3
		4	2.0	1	0.5	0		2	1.0
		6	2.9	5	2.4	0		3	1.5
特 15	社 理 国 算	5	33.3	4	26.6	4	26.6	4	26.6
		5	33.3	4	26.6	3	20.0	3	20.6
		4	26.6	2	13.3	0		0	
		4	26.6	2	13.3	1	6.6	1	6.6

教科書使用しないもの (社) 12 (5.9)

(理) 6 (2.9)

		年											
		Ⅲ				Ⅳ				Ⅴ			
		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級		全学級		一部の学級	
		%		%		%		%		%		%	
1.1	8	9.5	4	4.8	11	13.1	5	6.0	4	4.8	2	2.4	
4.8	14	16.2	6	7.1	32	38.1	4	4.8	5	6.0	2	2.4	
	0		0		42	50.0	2	2.4	38	45.2	2	2.4	
	0		1	1.2	45	53.6	9	10.7	28	33.3	8	9.5	
	2	7.7	0		2	7.7	0		1	3.8	0		
7.7	7	27.0	2	7.7	7	27.0	1	3.8	1	3.8	0		
	0		1	3.8	15	57.7	1	3.8	9	34.1	1	3.8	
3.8	1	3.8	0		16	61.5	1	3.8	6	23.1	1	3.8	
	0		2	4.5	2	4.5	4	9.1	1	2.3	0		
5.9	8	18.2	4	9.1	15	34.1	5	11.4	4	9.1	2	4.5	
6.8	0		0		17	38.6	4	9.1	20	45.4	4	9.1	
	1	2.3	2	4.5	19	43.2	2	4.5	17	38.6	4	9.1	
	1	8.3	0		0		0		0		0		
	2	16.7	0		3	25.0	0		1	8.3	0		
8.3	0		0		8	66.7	0		2	16.7	1	8.3	
	2	16.7	1	8.3	5	41.7	2	16.7	2	16.7	1	8.3	
	0		0		0		1	4.0	0		0		
4.0	1	4.0	4	16.0	9	36.0	2	8.0	0		2	8.0	
7.0	0		0		15	60.0	4	16.0	6	24.0	4	16.0	
	0		1	4.0	17	68.0	2	8.0	5	20.0	3	12.0	
4.0	0		0		0		0		1	7.1	0		
	2	14.3	2	14.3	4	23.6	2	14.3	1	7.1	1	7.1	
14.3	2	14.3	0		7	50.0	3	21.4	2	14.3	3	21.4	
7.1	1	7.1	3	21.4	6	42.9	2	14.3	2	14.3	3	21.4	
7.1	1	7.1	3	21.4	6	42.9	2	14.3	2	14.3	3	21.4	
	13	6.3	6	2.9	15	7.3	10	4.9	7	3.4	2	1.0	
8.3	34	18.9	19	8.8	70	34.1	14	6.8	12	5.9	7	3.4	
6.3	2	1.0	1	0.5	104	50.7	14	6.8	77	37.6	15	7.3	
1.0	5	2.4	8	3.9	108	52.7	18	9.8	60	29.3	20	9.8	
1.5	5	2.4	8	3.9	108	52.7	18	9.8	60	29.3	20	9.8	
	1	6.6			1	6.6	2	13.3	1	6.6	1	6.6	
26.6	1	6.6	1	16.6	1	6.6	2	13.3	1	6.6	1	6.6	
20.6	1	6.6	1	6.6	2	13.3	2	13.3	5	33.3	2	13.3	
	1	6.6	2	3.3	2	13.3	3	20.0	2	13.3	3	20.0	



① 統計の数字とグラフを検討して言い得ることは

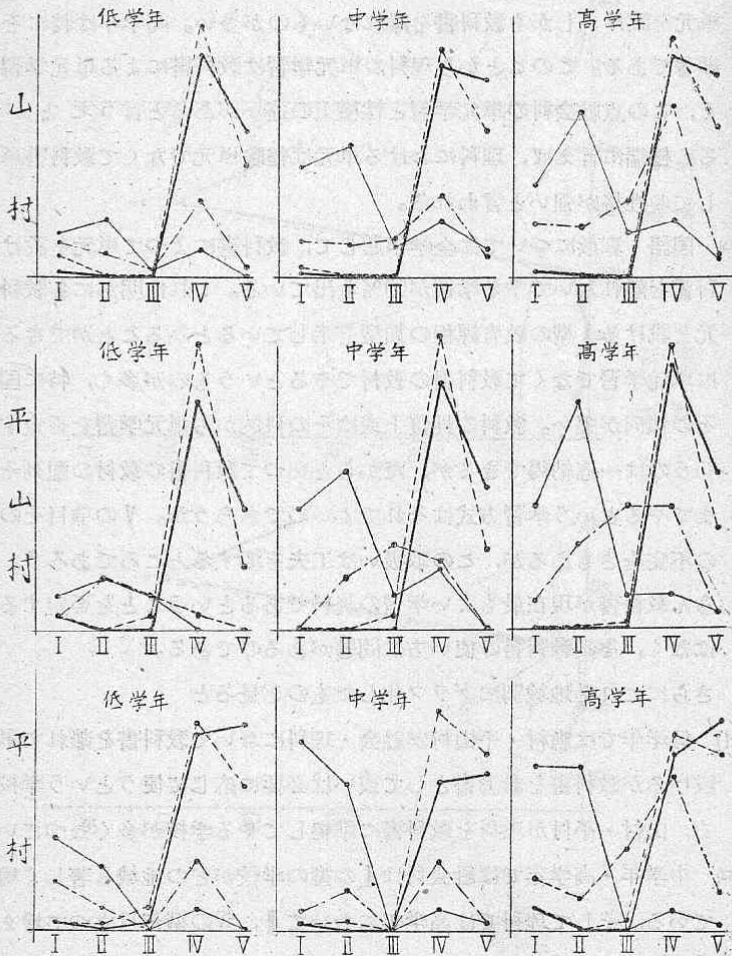
- (イ) 低学年では社会・理科は教科書を使用しないものが圧倒的で、使つても必要に応じて、或は参考書程度というものが多し。ただし理科では教科書によつて単元を設け教科書に準拠してやる学校が13%になつてゐる。
- (ロ) 中学年以上になると、社会・理科共に教科書使用が30%以上に上昇する。しかし社会と理科はその取扱いが異つていて、社会では教科書は参考書程度で単元は教科書と直接関係はないが、理科では教科書によつて単元を設け、しかも教科書を離れないものが多い。高学年は特にそれが顯著である。このことから理科の単元学習は教科書による単元学習が多く、この点社会科の単元学習と性格上の違いがあると言ふことができる。極端に言えば、理科における単元は経験単元でなくて教科書単元としての性格が強いと言われる。
- (ハ) 国語・算数については全学年通じて、教科書によつて単元を設け、教科書を離れないでやる学校が50%を出ている。これは明かに各教科に単元を設けるⅠ型の教育課程の類型を示してゐるとみることが出来る。次に単元学習でなくて教科書の教材でやるというものが多く、特に国語にその傾向が強い。教科の性質上或はその目的から単元学習を否定するというのは一応納得できるが、だからといつて教科書の教材の配列そのままやるという学習方式はそれでよいのであろうか。Ⅴの項目そのものの不完全さもあるが、この取扱いは工夫を要するところであらう。もちろん教科書が現在最もよい学習の資料であるということを否定するのではなく、その教科書の使い方に問題があるのである。

② さらにこれを地域別にグラフ化したものを見ると

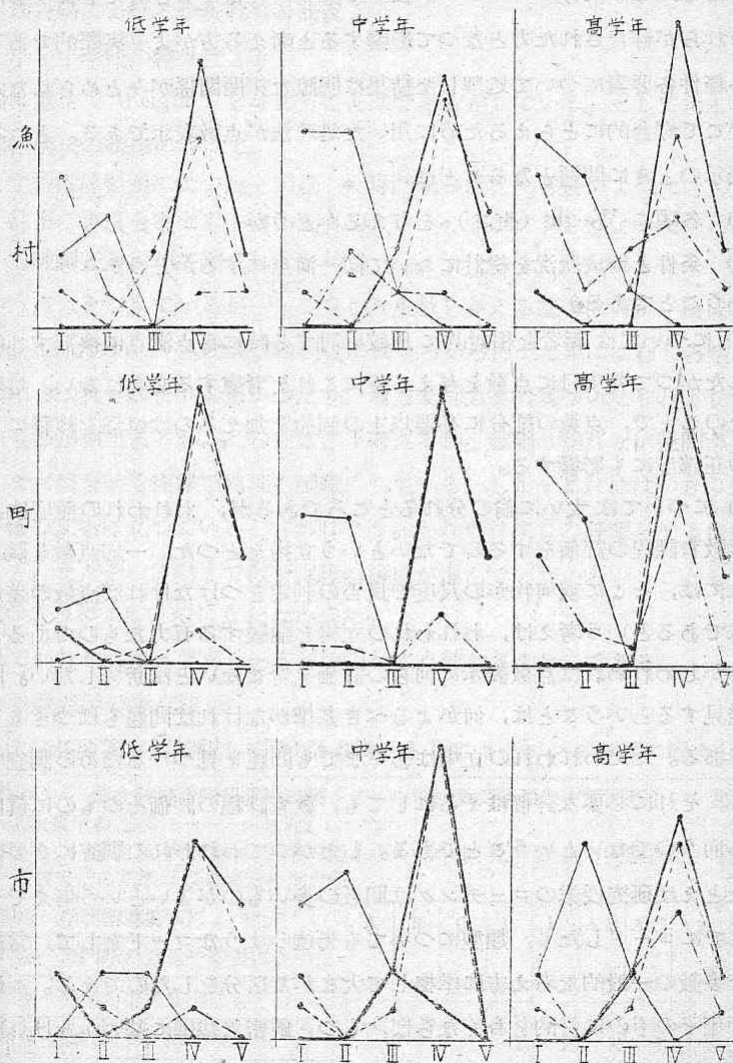
- (イ) 低学年では漁村・平山村が社会・理科において教科書を離れて単元を設けるが教科書を参考書として或いは必要に応じて使うという学校が多く、山村・平村が理科を教科書に準拠してやる学校が多くなつてゐる。
- (ロ) 中学年・高学年では社会科はⅠ型の学校がどの地域も著しく増加している。そして理科では高学年においてⅢ、Ⅳの型が目立つて増えている。

(ハ) 国語・算数についてはどの地域もⅣの型が圧倒的である。

とにかく地域的に見た場合も、ほとんど似た傾向にあり、社会科は教科書を離れて単元を構成し、理科はこの傾向が高学年にいくにつれて乱れて教科書単元の性格を呈してくる。国語・算数は教科書単元が圧倒的で、ただ山村・平村はⅤの型すなわち教材の配列により順序にやつていくとする学校が多いのである。系統的な学習として特に系統を重視して学習を進めるといふ傾向には大まかに考えて二通り（進歩的なものと古い教材カリキュラム）ある



が、そのいづれであるかは判然しない。しかし前述の教育課程の類型と合せ考えて見ると、平村・山村は教科書本位の教育課程が多いという傾向のあらわれではないだろうか。もちろんこれだけで断定することははなはだ危険であつて、この点はさらに深く現地において究明してみる必要がある。



5. 点数表示による処理

① 点数表示の必要とその基本的態度

教育課程の構成運営の実態を明らかにするについては、その各要素を分析して明らかにすると共に、それを総合的に把握することも必要である。構成条件についても、その条件の一つ一つが独立で構成に影響すると考えるよりも、むしろこれらが総合された力となつて影響すると考える方がより实际的である。現に各条件各要素について処理した結果は明瞭な相関関係がみとめられなかつた。そこで総合的にとらえるために用いた処理法が点数表示である。ところで点数表示のときに問題となることは

(a) 各項に Weight (重さ) を与えるかどうか

(b) 条件と構成状況を総計において同一満点にするかどうか
ということである。

(b) については両者を相対的に比較検討する時に百点満点に換算すればよい。したがつて各項目に点数を与える時にこれを考慮する必要はない。処理の都合上のことで、点数の配分に必要以上の制約を加えるのは処理を複雑にし、結果の正確度にも影響する。

(a) については大いに論の分れるところであるが、われわれの態度はあくまでも教育課程の評価をするのでないという立場をとつた。一応点数を賦与するからには、そこに或何物かの尺度で良否の判定をつけなければ点数の差違は無意味であるという考えは、われわれの立場を論駁する有力なものであると思う。しかしわれわれは点数表示に何らの評価を含まないとは断言しない。問題点を発見するということは、何かよるべき基準がなければ問題もはつきりしないのである。ただわれわれの立場はあくまでも問題を見つけるための調査であるから、それに必要な評価はやるにしても、教育課程の評価そのものに真向から立ち向うのでないということである。したがつてわれわれの調査に必要な評価、たとえば研究授業のコーディングは回数が多いものがよいという考えで0から3までにコードしたり、類型についても先述のようなコードをして、常識的にまた多数の一般的な考え方に準拠して大まかな区分をしたのである。これが若し評価そのものに目的をおくならば、もつと厳密な基準に基づかなければならないはずである。

岐
見
の
(イ)
(ロ)
(ハ)
各
教

とい
の
導
く
あ
課
な
て
そ

②
配

(記
三、
(記
三、

A = 3
B = 1
C = 1
D = 1
E = 4

(註27)
 岐阜県の教育課程の調査は直接目的においてわれわれとほとんど変りないとして見てよいが、点数表示にくるとはつきり立場がちがつてくる。すなわち岐阜県の教育課程調査では

- (イ) 望ましいカリキュラムのあり方から
- (ロ) 現段階における学校教育の状況より
- (ハ) 小・中学校の特異性より

各項に重さ (Weight) を与えることはできるとしている。そしてたとえば教育課程構成の根拠において、

- 学習指導要領によつた…30点
- 専門家の意見や著書によつた…10点
- 都市の委員会案にもとづいた…10点
- 他のプランによつた…10点
- 基礎調査を行つて編成した…40点

という点数を与えているが、^(註28) こうした点数を与える基準は何か、構成根拠の要素はこれだけか、基礎調査の程度にはいろいろあつて中にはむしろ学習指導要領によつたものよりも悪かつたり、地方委員会案に基づいたものよりもよくないものが相当あるが、この点はどう考えるか」等割り切れない疑問が多くある。また組合せも複雑で処理を困難にしている。しかもこれははつきり教育課程評価の立場に立つていと言われよう。われわれはこの評価をやる自信がないこと、まだその段階まで教育課程の構成が進んでいないということもあつて先述のようにこの立場に立たなかつた。

それでわれわれは各要素を一応同等視して点数を与えたのである。

② 点数表示の配点法

配点法は各要素を同等視して全部6点満点としてコーディングの順に配点した。

(註27) 国立教育研究紀要第二集「小・中学校教育課程の実態調査」……第九章三、点数表示の基準……149頁

(註28) 国立教育研究所紀要第一集「小・中学校教育課程の実態調査」第九章三、点数表示の基準(イ)点数表示の配点法

A = 30点…学習指導要領によつた	A	B	C	D	E	AB	AC	AD	AE
B = 10点…専門家の意見や著書によつた	30	10	10	10	40	40	40	40	70
C = 10点…都市の委員会案にもとづいた	BC	BD	AB C	AB E	AC E	AD E	BD E	AB CD	AB CD
D = 10点…他のプランによつた	20	20	50	70	70	70	60	60	90
E = 40点…基礎調査を行つて編成した									

0~1とコーディングしたもの……0,6 0,1,2とコーディングしたもの…… 0,3,6

③ 点数表示に基づく一覧表

a 地域別一覧表

教育課程調査・客観的

番号	学校	研究 実験 究校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	一 児 学 級 童	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 訪 事 間	
101	学	0	3	2	6	6	6	4	2	2	2	2	
102		0	3	2	6	6	6	2	2	2	4	2	
103		0	3	6	6	0	0	2	4	2	0	2	
104		0	3	2	6	6	6	2	6	2	2	2	
105		0	6	2	6	6	0	2	2	2	2	2	
106		0	3	2	6	6	6	4	2	4	0	2	
107		0	6	4	6	6	0	2	2	4	4	4	
108		0	3	6	6	6	0	4	2	2	2	4	
109		0	3	0	6	0	6	4	2	6	4	2	
110		0	3	2	6	0	0	4	4	4	2	2	
111		校	0	0	0	6	0	6	4	4	4	4	4
112			0	6	2	6	6	6	4	2	2	6	4
113	0		3	2	6	6	6	2	2	2	6	0	
114	0		3	0	6	0	6	6	2	6	6	2	
115	0		3	0	6	0	6	4	2	6	0	2	
116	0		3	2	6	6	6	2	4	0	6	2	
117	名	0	3	2	6	6	6	0	6	4	2	2	
118		0	3	2	6	6	0	4	0	2	4	2	
119		0	3	2	6	6	6	6	0	2	4	2	
120		0	6	2	6	6	6	4	4	2	2	2	
121		0	6	2	6	6	6	2	2	6	4	2	
122		0	6	0	6	0	0	6	0	6	6	2	
123	省	0	3	0	6	0	6	2	0	2	6	2	
124		0	6	2	6	6	6	0	2	2	0	2	
125		0	6	4	6	6	0	4	2	2	6	4	
126		0	6	0	6	0	6	4	4	2	4	2	
127		0	6	2	6	6	6	4	2	2	4	2	
128		0	6	2	6	6	6	2	2	2	6	2	
129		0	6	2	6	6	6	4	2	2	2	4	
130		0	6	4	6	6	0	2	2	2	0	4	
131	略	0	3	0	6	0	6	4	4	0	6	2	
132		0	3	0	6	0	0	6	0	0	2	2	
133		0	3	2	6	6	6	6	2	2	0	2	
134		0	6	2	6	6	6	2	4	2	4	2	
135		0	3	2	6	6	6	4	2	2	4	2	
136		0	6	2	6	6	6	0	4	2	6	4	
137		0	3	2	6	6	0	2	6	4	6	2	
138		0	3	4	6	6	0	0	4	0	2	2	
139	0	3	2	6	6	6	2	6	6	4	2		
140	0	3	2	6	6	0	0	4	2	2	2		
141	略	0	3	2	6	6	0	6	2	6	6	2	
142		0	6	2	6	6	6	4	6	2	6	4	
143		0	6	2	6	6	6	4	6	2	4	2	
144		0	6	2	6	6	0	4	2	4	6	4	

0,1,2,3とコーディングしたもの …… 0,2,4,6 としたのである。

条件構成状況採点表 (山村)

研授 卒業	公研 開究	地域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計	段 階
2	6	2	45	C	6	4	2	6	6	6	30	B
2	2	0	39	D	4	6	4	6	6	0	26	B
2	0	0	25	E	4	0	4	6	6	0	20	C
4	4	2	47	C	4	2	4	6	6	0	22	C
2	2	0	34	D	4	4	4	6	6	0	24	C
2	4	4	47	C	4	4	2	6	3	0	22	C
2	6	0	45	C	4	4	2	6	3	0	15	C
2	0	2	39	D	4	4	4	6	3	0	21	C
0	0	0	33	E	2	2	0	6	6	6	22	C
4	0	0	31	E	0	4	0	6	6	0	16	D
4	0	0	42	C	4	4	0	6	6	6	22	D
4	0	0	42	C	4	2	2	6	6	0	20	C
4	2	0	41	D	0	4	2	6	6	0	18	D
2	0	0	39	D	2	4	4	6	0	0	16	D
2	0	0	29	D	0	4	0	6	3	0	13	D
2	0	0	39	D	0	2	0	6	6	0	11	E
4	0	0	45	C	4	4	4	6	3	0	21	C
4	0	0	33	E	6	4	0	6	3	0	19	D
4	0	0	41	D	0	4	4	6	3	0	17	D
2	0	2	44	C	4	4	2	6	3	0	19	D
2	4	0	52	B	0	4	0	6	3	0	13	D
2	0	0	34	D	4	6	2	6	3	0	21	C
2	4	0	42	E	6	6	2	6	6	6	26	B
2	4	0	42	C	6	6	2	6	6	6	32	A
4	6	0	50	B	6	4	2	6	3	0	21	C
2	0	0	36	D	4	2	0	6	3	0	15	D
2	4	0	50	B	0	4	2	6	0	0	22	E
2	4	0	44	C	6	4	2	6	6	0	12	C
4	6	0	46	C	4	0	0	6	6	0	16	D
4	6	0	42	C	0	6	2	6	6	0	20	C
2	0	2	35	D	0	2	2	6	3	0	13	D
2	0	2	21	E	0	4	0	6	3	0	13	D
2	4	0	41	D	0	4	4	6	6	0	20	C
2	6	2	52	B	6	4	2	6	3	6	27	B
2	4	2	49	B	4	4	2	6	3	0	17	D
4	6	2	52	B	6	4	2	6	6	6	30	B
2	4	0	43	C	0	4	2	6	3	0	15	D
2	4	2	41	D	6	4	4	6	6	6	32	A
2	4	2	51	B	4	4	2	6	3	0	17	D
2	4	2	37	D	4	2	2	6	6	6	26	B
2	6	2	53	B	2	2	2	6	3	0	15	D
4	6	2	62	A	4	2	2	6	6	0	20	C
2	4	2	50	A	0	2	2	6	6	0	16	D
4	2	2	40	C	0	4	2	6	0	6	18	D

教育課程調查客觀的

番号	学校	研究 校	校 舍	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 兒 学 級 童	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 計 事 間
145	学 校 名 省 略	0	3	2	6	6	6	2	4	2	4	2
146		0	3	4	6	6	6	4	4	2	4	4
147		0	3	2	6	6	6	4	4	4	4	4
148		0	6	0	6	6	0	6	4	2	4	6
149		0	6	0	6	6	0	6	6	4	6	0
150		0	3	2	6	6	6	6	4	6	2	0
151		0	3	2	6	6	6	2	4	4	2	6
152		0	3	2	6	6	6	6	6	4	6	4
153		0	3	2	6	6	0	6	6	2	2	0
154		0	3	2	6	6	6	0	6	2	2	6
155		0	6	2	6	6	6	2	2	2	6	2
156		0	3	2	6	6	6	2	2	4	6	2
157		0	6	2	6	6	6	4	2	2	6	4
158		0	3	2	6	6	6	2	4	2	2	0
159		0	6	0	6	6	0	6	6	0	4	4
160		0	6	0	6	6	0	6	6	2	2	4
161		0	3	0	6	6	0	6	6	2	2	0
162		0	6	0	6	6	0	6	3	6	2	6
163	0	6	2	6	6	6	4	4	2	4	0	
164	0	3	2	6	6	6	0	6	6	2	2	
165	0	3	2	6	6	6	4	4	6	4	2	
166	0	6	2	6	6	6	6	2	6	2	0	
167	0	6	4	6	6	6	0	4	2	2	2	
168	0	6	0	6	6	0	6	6	2	2	4	
169	0	6	0	6	6	0	6	6	0	6	4	
170	0	6	2	6	6	6	6	2	6	6	2	
171	0	3	2	6	6	6	2	2	4	6	2	
172	0	6	2	6	6	6	6	6	2	6	6	
173	0	6	2	6	6	6	2	4	4	4	4	
174	0	3	2	6	6	6	0	4	2	2	2	
175	0	6	0	6	6	0	6	2	0	2	6	
176	0	6	0	6	6	0	6	6	4	4	6	
177	0	6	0	6	6	0	6	4	2	2	0	
178	0	3	0	6	6	0	6	6	0	6	6	
179	0	3	2	6	6	6	0	4	4	2	2	
180	0	3	4	6	6	6	0	2	4	2	4	
181	0	3	2	6	6	6	0	2	4	4	2	
182	0	3	4	6	6	6	6	4	4	2	4	
183	0	6	2	6	6	6	6	2	2	2	0	
184	0	6	4	6	6	6	6	2	6	4	4	
	計	6	363	150	504	360	360	307	250	246	318	174
	平均	0.1	4.3	1.8	6.0	4.3	4.3	3.7	3.0	2.9	3.8	2.1

条件構成状況採点表 (山村) (つづき)

三訪 期間	研授 究業	公研 開究	地域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計	段 階
2	6	4	2	49	B	0	6	2	6	3	6	23	C
4	6	4	2	55	B	0	4	0	6	6	0	16	D
4	2	4	2	51	B	6	4	2	6	6	6	30	B
2	2	0	0	38	D	4	2	4	6	6	6	28	B
0	2	0	0	49	D	0	4	0	6	0	0	10	E
0	2	0	0	43	C	6	4	0	6	6	6	28	B
2	4	2	0	44	C	0	6	0	6	6	0	18	D
2	4	0	0	49	B	4	6	0	6	0	0	16	D
2	4	0	0	31	E	0	4	4	6	6	6	25	B
2	4	0	2	43	C	0	2	4	6	6	0	18	D
2	4	0	0	44	C	0	4	4	6	6	6	25	B
2	4	4	2	49	B	6	6	2	6	3	0	23	C
4	4	6	2	50	B	6	2	2	6	6	6	28	B
0	4	4	0	41	D	0	6	2	6	6	6	26	B
2	2	0	0	36	D	0	4	0	0	0	0	4	E
0	4	0	2	38	D	6	6	0	6	6	0	24	C
0	6	0	0	37	D	6	4	4	6	3	0	23	C
2	2	6	2	41	D	4	6	2	6	0	0	18	D
2	4	2	2	48	C	4	2	0	6	0	0	12	E
2	4	0	0	39	D	0	6	2	6	6	6	26	B
2	6	2	2	53	B	6	4	2	6	6	0	24	C
0	4	2	0	46	C	6	4	2	6	6	6	24	C
2	6	6	0	46	C	2	4	2	6	3	0	17	D
2	2	0	0	36	D	2	6	2	6	6	6	28	B
2	4	4	0	44	C	6	4	2	6	6	0	24	C
2	2	0	0	46	C	0	4	4	6	0	0	14	D
2	4	6	0	49	B	6	4	4	6	3	0	23	C
2	2	2	0	52	B	6	6	4	6	6	0	28	B
4	4	4	0	52	B	4	2	4	6	6	6	28	B
2	4	6	0	43	C	0	4	4	6	3	0	17	D
0	4	0	0	34	D	4	2	2	6	3	0	17	D
0	0	0	0	38	D	0	2	0	6	0	0	8	E
0	0	0	0	32	E	0	4	4	6	3	0	17	D
2	2	4	0	31	E	0	2	0	6	3	0	11	E
2	2	0	0	33	E	6	2	2	6	0	0	16	D
2	2	0	0	35	D	0	2	4	6	6	0	18	D
2	4	4	2	43	C	0	4	4	6	6	0	20	C
2	4	2	2	45	C	0	4	4	6	6	0	20	C
0	2	0	0	40	D	4	6	2	6	0	0	18	D
2	6	2	0	54	B	0	4	4	6	6	6	26	B
174	292	166	64	3580		230	318	178	498	342	126	1692	
2.1	3.5	2.0	0.8	43.5		2.7	3.7	2.1	5.9	4.0	1.5	19.9	

教育課程調査客

観

番号	学校	実験校 究校	校舎	学級数	二部	複式	分教場	一 児 学 級 童	有格 資者	男比 女率	研究費	主計 専門	研授 究業
201	学 校 名 省 略	0	6	2	6	6	6	4	6	2	4	2	4
102		0	3	4	6	6	6	2	2	2	4	2	6
103		0	3	2	6	6	6	4	2	2	6	0	4
104		0	6	2	6	6	6	4	4	2	4	4	4
105		0	6	2	6	6	6	2	4	2	6	2	4
106		0	3	4	0	0	0	2	4	2	6	2	2
107		0	3	2	6	6	6	4	2	4	6	2	4
108		0	6	0	6	0	6	4	4	0	0	2	2
109		0	6	2	6	6	6	2	4	2	2	4	2
110		0	6	0	6	0	6	2	6	2	4	2	2
111		0	6	2	6	6	6	6	6	2	4	2	4
112		0	3	2	6	6	6	2	4	6	4	4	4
113		0	3	4	6	6	6	2	4	4	6	4	6
114		0	3	2	6	6	6	2	2	2	4	2	6
115		0	6	2	6	6	0	2	4	2	2	2	4
116		0	6	2	6	6	0	2	4	2	0	2	4
117		0	6	2	6	6	6	4	6	2	4	4	6
118		0	6	2	6	6	6	6	6	2	4	2	4
119		6	3	4	6	6	0	4	6	2	0	4	6
120		6	6	4	6	6	6	4	6	2	4	4	6
121		0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	2	2
122		0	3	4	6	6	0	0	6	0	4	4	2
123		0	6	0	6	0	6	6	4	4	4	0	4
124		0	6	2	6	6	6	6	4	2	4	0	4
125		0	6	4	6	6	6	0	6	2	6	2	6
126		0	3	4	6	6	6	2	6	2	6	4	6
	計	12	126	62	150	132	128	80	118	58	102	64	10
	平均	0.5	4.8	2.4	5.8	5.1	4.8	3.1	4.5	2.2	3.9	2.5	4.

觀的構成實施狀況探点表 (平山村)

訪問	研授 究業	公研 開究	地域 案	計	段 後 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計	段 階
2	4	4	0	52	B	4	2	2	6	3	6	24	C
2	6	0	0	43	C	0	4	4	6	6	0	20	C
0	4	0	0	41	D	6	4	4	6	3	0	23	C
4	4	6	0	54	B	0	0	0	6	6	0	12	E
2	4	2	0	48	C	4	2	4	6	3	6	26	B
2	2	2	0	27	E	6	4	2	6	6	0	24	C
2	4	0	2	47	C	4	4	6	6	3	6	29	B
2	2	0	0	30	E	0	6	2	6	3	0	17	D
4	2	2	0	44	C	0	6	2	6	6	6	26	B
2	2	0	0	36	D	6	4	4	6	3	0	23	C
2	4	0	0	50	B	6	4	2	6	6	0	24	C
4	4	0	0	47	C	0	4	0	6	0	0	10	E
4	6	4	0	55	B	0	4	4	6	3	6	24	C
2	6	0	2	43	C	0	4	2	6	6	0	18	D
2	4	2	0	38	D	6	4	2	6	3	0	21	C
2	4	2	2	38	D	6	6	4	6	6	0	28	B
4	6	2	2	56	A	6	6	4	6	6	6	34	A
2	4	0	0	50	B	4	2	6	6	6	0	24	C
4	6	2	0	49	B	6	6	2	6	6	6	32	A
4	6	6	0	66	A	6	4	6	6	3	6	32	A
2	2	0	0	44	C	4	4	2	6	3	6	26	B
4	2	2	0	37	D	4	2	6	6	6	6	30	B
0	4	0	0	40	D	0	2	4	6	6	0	18	D
0	4	2	0	43	C	4	6	2	6	6	6	30	B
2	6	6	0	56	A	6	2	4	6	6	0	24	C
4	4	6	0	55	B	6	4	4	6	6	0	26	B
64	106	50	8	1194		94	100	84	153	125	66	625	
2.5	4.1	1.9	0.3	45.9		3.6	3.8	3.2	6.0	4.8	2.5	24.0	

教 育 課 程 調 查 客 觀 的

番 号	学 校	实 驗 校 究	校 舍	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 兒 学 級 童	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 訪 事 間
301	学	0	3	0	6	0	6	4	6	4	2	2
302		0	6	2	6	6	6	0	2	2	0	2
303		0	6	2	6	6	6	2	6	2	6	2
403		0	6	2	6	6	6	4	2	2	6	0
404		6	3	4	6	6	6	0	4	4	0	2
306		0	6	2	6	6	6	4	2	2	4	2
307		0	3	2	6	6	6	0	6	2	2	2
308		0	6	2	6	6	6	0	2	2	4	2
309		0	6	2	6	6	6	2	2	2	6	2
310		0	6	2	6	6	6	4	4	2	4	2
311	校	0	6	4	6	6	6	2	2	2	0	0
312		0	3	2	6	6	6	4	2	2	4	2
313		0	3	4	6	6	6	4	2	4	2	2
314		0	3	4	6	6	6	4	2	2	4	2
315		0	3	4	6	6	6	4	2	2	4	2
316	名	0	6	0	6	0	6	4	4	2	6	2
317		0	3	2	6	6	6	2	4	6	6	0
318		0	3	2	6	6	6	2	4	2	4	0
319		0	6	2	6	6	6	2	2	2	2	2
320		0	6	2	6	6	6	2	4	2	6	0
321		0	3	2	6	6	6	0	2	2	4	2
322		0	6	2	6	6	6	4	4	4	2	2
323		0	6	4	6	6	6	0	4	0	2	0
324		0	3	2	6	6	6	6	2	2	6	0
325		0	6	2	6	6	6	4	2	2	2	0
326	省	6	6	2	6	6	6	2	4	0	6	2
327		0	3	4	6	6	6	4	4	2	2	2
328		0	6	4	6	6	6	2	0	4	4	2
329		0	6	0	6	0	6	4	2	2	6	4
330		0	3	2	6	6	6	4	2	2	2	2
331	略	0	3	2	6	6	6	2	2	2	6	4
132		0	3	2	6	6	6	2	2	0	4	2
133		0	3	2	6	6	6	2	2	2	2	2
334		0	6	2	6	6	6	6	2	2	4	0
335		0	3	4	6	6	6	2	4	0	2	2
336		0	6	2	6	6	6	6	2	2	4	0
337		0	3	2	6	6	6	2	6	2	4	2
338		0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	0
339		6	6	2	6	6	6	4	4	2	6	4
340		0	3	2	6	6	6	2	6	2	4	6
341	0	3	2	0	6	6	4	2	2	6	2	
342	0	3	4	6	6	6	4	4	2	4	4	
343	6	6	2	6	6	0	4	6	2	6	2	
344	0	3	2	6	6	6	2	4	2	4	4	
	計	24	198	102	258	246	258	124	142	90	172	80
	平 均	0,5	4,5	2,3	5,9	5,6	5,9	2,8	3,2	2,0	3,9	1,8

條件構成狀況採点表 (平村)

研授 研業	研公 究開	地域 案	計	段 階	自 校 案	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計	段 階
2	0	2	37	D	0	4	4	6	0	0	14	D
4	2	2	42	C	0	4	4	6	6	6	26	B
2	4	0	45	C	6	6	6	6	3	0	27	B
2	0	2	44	C	0	4	4	6	0	0	14	D
4	4	0	47	C	4	4	2	6	3	0	19	D
2	0	0	42	C	0	6	4	6	6	0	22	C
2	0	0	39	D	4	6	6	6	3	0	25	C
4	2	2	46	C	0	4	4	6	3	0	17	D
4	2	0	46	C	0	2	0	6	0	0	8	E
4	2	0	48	C	4	4	0	6	6	0	20	E
4	0	0	38	D	6	4	4	6	6	0	26	B
4	0	0	41	D	4	4	4	6	6	0	24	C
2	2	0	43	C	0	4	4	6	6	0	20	C
6	4	2	51	B	0	4	0	6	3	0	13	D
4	2	2	47	C	0	6	4	6	6	6	28	B
0	0	2	38	D	0	4	2	6	3	0	15	D
2	0	2	45	C	6	4	2	6	6	0	24	C
4	0	2	41	D	6	4	2	6	3	0	21	C
4	0	2	42	C	4	6	2	6	6	0	24	C
2	0	2	44	C	0	4	2	6	0	6	18	D
4	0	2	39	D	6	4	4	6	6	6	32	A
6	4	2	50	B	4	4	6	6	3	6	29	B
6	4	2	45	C	6	4	2	6	6	6	32	A
2	0	2	43	C	0	2	4	6	6	0	22	A
2	0	2	38	D	4	4	0	6	6	6	20	C
4	0	2	52	B	6	4	4	6	6	0	26	B
6	2	2	49	B	6	4	2	6	6	0	24	C
6	2	2	50	B	0	4	2	6	6	6	24	C
6	6	0	48	B	0	2	2	6	6	6	16	D
4	4	2	45	C	0	4	0	6	3	0	13	D
4	2	2	47	C	4	4	0	6	3	6	23	C
6	2	4	43	C	4	4	0	6	0	0	14	D
4	0	0	39	D	4	4	4	6	0	0	18	D
4	2	2	43	C	4	4	2	6	6	0	22	D
2	4	0	41	D	4	4	2	6	6	0	22	C
2	0	2	44	C	4	4	6	6	6	6	32	A
4	0	0	43	C	0	2	2	6	3	0	13	D
4	0	0	44	C	6	6	6	6	3	6	33	A
4	2	2	60	A	6	6	2	6	6	0	26	B
4	6	2	55	B	6	4	4	6	3	0	23	C
4	0	2	39	D	0	4	2	6	3	0	15	D
6	6	2	57	A	0	4	2	6	6	0	23	D
6	6	2	57	A	6	6	6	6	6	6	36	A
0	0	0	42	C	0	2	6	6	6	6	26	B
162	70	60	1986		124	188	130	264	186	72	964	
3.7	1.6	1.4	45.1		2.8	4.3	3.0	60.0	4.2	1.6	21.9	

教育課程調查客觀的條

番 号	学 校	研 究 校	校 舍	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 兒 学 級 童	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 訪 事 間
401	学 校 名 省 略	0	3	2	6	6	0	4	2	2	4	2
402		0	6	4	6	6	0	0	2	2	2	2
403		0	3	0	6	0	6	4	4	2	4	2
404		0	6	0	6	0	6	6	0	2	4	4
405		0	6	2	6	6	6	6	4	0	6	2
406		0	0	4	6	6	0	2	2	2	6	4
407		0	3	0	6	0	6	6	2	6	0	2
408		0	6	0	6	0	6	6	6	6	4	2
409		0	6	0	6	0	6	4	6	6	6	2
410		0	6	0	6	0	6	2	2	6	6	2
411		0	3	2	6	6	0	4	6	2	4	2
412		0	6	2	6	6	0	6	4	0	6	2
計		0	54	16	72	36	42	50	40	36	52	25
平 均		0	4.5	1.3	6.0	3.0	3.5	4.2	3.3	3.0	4.3	2.3

教育課程調查客觀的條

番 号	学 校	研 究 校	校 舍	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 兒 学 級 童	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 訪 事 間
501	学 校 名 省 略	0	6	4	6	6	6	0	2	2	4	2
502		0	6	6	6	6	6	0	6	2	4	6
503		0	6	2	6	6	6	6	4	0	0	2
504		0	6	4	6	6	6	2	2	2	6	0
505		0	6	6	6	6	6	2	6	0	2	6
506		0	3	4	6	6	6	4	0	2	4	2
507		0	6	2	6	6	6	4	0	0	6	4
508		0	6	2	6	6	6	4	2	6	2	4
509		0	3	4	6	6	6	2	2	2	2	4
510		0	3	4	6	6	0	2	4	2	4	4
511		0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	0
512		0	6	2	6	6	6	4	2	2	4	2
513		0	3	6	6	6	6	0	2	2	6	2
514		0	6	0	6	0	6	6	2	0	6	2
515		0	6	0	6	0	6	4	0	2	0	2
516		0	6	2	6	6	6	0	4	2	4	6
517		0	6	2	6	6	6	6	2	2	4	2
518		0	3	4	6	6	6	2	4	2	4	4
519		0	6	2	6	6	6	2	4	2	4	4
520		0	6	0	6	0	6	4	4	6	6	0
521		0	6	6	6	6	6	0	6	2	0	2
522		0	3	6	6	6	6	0	4	0	4	6
523		6	6	6	6	6	6	0	6	2	6	2
524		6	6	6	6	6	6	2	6	0	4	6
525	0	6	4	6	6	6	0	2	6	2	6	
計		12	132	86	150	132	138	60	86	46	96	80
平 均		0.5	5.3	3.4	6.0	5.3	5.5	2.4	3.4	1.8	3.8	3.2

件実構成況採点表 (漁村)

研究業	公開	地域案	計	段階	自校	プラン	構成	類型	児童会	図書	配時分間	計	段階
2	4	2	39	D	6	4	4	4	6	6	0	26	B
4	0	2	36	D	2	4	0	0	6	0	0	12	E
4	0	2	37	D	0	6	0	0	6	3	0	15	D
4	4	0	42	C	4	2	4	4	6	3	0	19	D
2	0	0	46	C	0	4	4	4	6	3	6	23	C
6	2	0	40	E	4	6	4	0	6	6	6	28	B
2	0	0	33	E	0	4	2	6	6	0	0	12	E
2	2	0	46	C	6	4	4	4	6	6	6	32	A
2	0	0	44	C	4	4	4	4	6	3	0	21	A
6	0	0	42	C	0	6	6	2	6	0	0	14	D
4	0	0	39	D	4	4	4	4	6	6	0	24	C
4	0	0	42	C	6	6	6	4	6	3	0	25	C
42	12	6	486		36	54	32	72	39	18	259		
3.5	1.0	0.5	40.5		3.0	4.5	2.7	6.0	3.2	1.5	20.9		

件実施状況採点表 (町)

研究業	公開	地域案	計	段階	自校	プラン	構成	類型	児童会	図書	配時分間	計	段階
4	0	0	42	C	6	6	6	6	6	6	6	36	A
6	0	0	54	B	6	6	6	6	6	6	6	36	A
6	4	2	50	B	4	4	0	6	6	3	6	29	B
4	2	6	52	B	6	6	2	6	6	6	6	30	B
4	6	0	56	A	4	4	4	4	6	6	6	30	B
4	2	2	45	C	0	6	2	6	6	3	0	17	D
2	2	0	44	C	6	2	2	6	6	6	6	28	B
2	4	0	50	C	4	2	2	6	6	6	6	26	B
6	4	0	47	C	4	2	4	4	6	6	6	28	B
4	2	0	41	D	6	6	4	6	6	6	6	34	A
4	0	2	46	C	4	2	6	6	6	6	0	24	C
4	2	2	48	C	0	4	4	4	6	0	6	20	C
6	4	0	49	B	0	4	2	6	6	6	6	24	C
2	2	0	38	D	4	4	2	6	6	6	0	22	C
2	6	0	34	D	6	6	4	6	6	6	6	34	A
6	4	6	58	A	6	6	2	6	6	0	6	26	B
2	4	2	50	B	0	4	4	4	6	0	0	14	D
4	6	2	53	B	6	6	4	4	6	6	6	34	A
2	0	2	46	C	0	4	4	4	6	6	0	20	C
4	0	2	44	C	6	4	2	6	6	6	0	24	C
2	4	0	46	C	6	4	4	4	6	6	6	32	A
4	6	0	51	B	2	6	4	4	6	6	6	30	B
6	6	0	64	A	6	4	6	6	6	6	6	34	A
4	4	0	62	A	4	4	4	4	6	6	6	30	B
4	6	0	54	B	4	4	2	6	6	6	0	22	C
98	80	28	1,224		100	104	96	150	126	108	684		
3.9	3.2	1.1	43.9		4.0	4.2	3.8	6.0	5.0	4.3	27.4		

教育課程調査

番号	学 校	研究 実験 究校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	一 児 童 級 数	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 等 訪 事 間
601	学 校 名 省 略	0	6	2	6	0	6	2	6	4	6	2
602		0	6	2	6	6	6	4	6	2	6	0
603		0	3	4	6	6	6	2	6	0	4	2
604		0	3	4	0	6	6	2	6	2	4	2
605		0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	2
606		0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	4
607		6	3	6	0	6	6	0	6	0	4	2
608		0	6	6	6	6	6	0	6	0	4	6
609		0	6	2	6	6	6	6	6	2	2	2
610		6	6	6	0	6	6	2	6	4	2	4
611		0	3	6	6	6	6	0	6	0	4	2
612		0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	2
613		6	6	4	6	6	6	0	6	2	2	6
614		0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	6
計		19	72	62	66	78	84	20	84	24	60	42
平	均	1.3	5.1	4.4	4.7	5.6	6.0	1.4	6.0	1.7	4.3	3.0

教育課程調査

番号	学 校	研究 実験 究校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	一 児 童 級 数	有 格 資 者	男 比 女 率	研 究 費	主 訪 事 等 間
1	学 校 名 省 略	6	3	4	6	6	6	4	6	6	6	6
2		6	6	2	6	6	6	4	6	6	6	6
3		6	6	4	6	6	6	4	6	6	6	6
4		6	6	6	6	6	6	0	6	2	0	6
5		6	6	6	6	6	6	0	6	2	2	0
6		6	6	6	6	6	6	2	6	6	2	2
7		6	6	6	6	6	6	0	6	6	2	4
8		6	6	6	6	6	6	0	6	6	2	4
9		0	3	6	0	6	6	0	2	2	6	6
10		6	6	2	6	6	6	2	6	4	4	6
11		6	6	4	6	6	6	2	6	2	4	6
12		6	3	6	6	6	6	0	6	2	4	6
13		0	6	4	6	6	6	0	4	6	2	6
14		6	6	6	6	6	6	0	6	2	4	6
15		6	6	4	6	6	6	2	4	4	2	6
計		78	81	72	84	90	84	24	84	46	56	72
平	均	5.2	5.4	4.8	5.6	6.0	5.6	1.6	5.6	3.1	3.7	4.8

客観の條件構成狀況採点表

(市)

研授 究業	公研 開究	地域 案	計	段 階	自 ブ ラ ン 校	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時配 間分	計	段 階
2	0	2	44	C	0	4	0	6	3	0	13	D
2	0	2	48	C	6	6	2	6	6	6	32	A
4	4	2	49	B	4	4	2	6	6	6	28	B
2	2	2	41	D	6	2	0	6	6	0	20	C
2	6	2	56	A	0	4	2	6	6	6	24	B
2	4	2	56	A	6	2	4	6	6	6	30	D
2	6	2	49	B	4	4	4	6	6	0	24	C
4	2	2	54	B	4	2	6	6	6	6	30	C
2	4	2	52	B	0	2	2	6	3	6	19	D
2	6	0	56	A	4	4	2	6	6	0	22	C
4	6	0	49	B	0	2	0	6	6	6	20	C
2	0	0	44	C	4	4	4	6	3	0	21	C
6	6	0	62	A	4	4	4	6	6	6	30	B
4	0	0	54	B	6	2	6	6	6	6	32	A
40	46	18	714		48	46	38	84	75	54	345	
2.8	3.3	1.3	58.1		3.4	3.3	2.7	6.0	5.3	3.9	24.6	

客観の條件実施狀況採点表

(特)

研授 究業	公研 開究	地域 案	計	段 階	自 ブ ラ ン 校	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時配 間分	計	段 階
6	6	6	77	A	6	6	6	6	6	6	36	A
4	4	6	74	A	6	4	6	6	6	6	34	A
6	6	6	80	A	6	6	6	6	6	6	36	A
6	2	2	60	A	6	4	6	6	6	6	34	A
6	6	0	58	A	6	6	6	6	6	6	36	A
6	6	0	62	A	0	6	4	6	6	6	28	B
6	4	2	64	A	6	6	6	6	6	6	36	A
4	4	2	58	A	6	6	4	6	6	6	34	A
6	6	0	49	B	6	6	6	6	6	6	36	A
6	4	2	65	A	6	6	6	6	6	6	34	A
6	6	2	63	A	6	6	4	6	6	6	34	A
6	6	2	65	A	6	4	4	6	6	6	32	A
6	4	0	52	B	4	2	2	6	6	0	24	C
6	6	0	66	A	6	6	2	6	6	6	28	B
6	6	0	64	A	6	2	6	6	6	6	36	A
86	76	30	963		82	78	74	90	90	84	498	
5.7	5.1	2.0	64.2		5.6	5.2	4.9	6.0	6.0	5.6	33.2	

分 教

教育課程客觀的條件

番号	学 校	研 校 究 実	校 舍	学 級	二 部	複 式	一 兒 童 級 數	有 格 資 者	研 究 費	主 訪 事 間	研 授
1		0	6	0	6	0	6	2	4	2	2
2		0	6	0	6	0	6	4	4	0	2
3		0	6	0	6	0	6	0	4	0	2
4		0	6	0	6	0	6	0	6	0	0
5		0	6	0	6	0	4	2	2	2	0
6		0	6	0	6	0	6	0	2	2	0
7	学	0	6	0	6	0	6	2	2	0	0
8		0	6	0	6	0	6	4	2	0	2
9		0	6	0	6	0	6	0	0	0	0
10		0	6	0	6	0	4	2	2	2	2
11		0	6	0	6	6	6	6	0	0	6
12		0	6	0	6	0	6	2	2	2	0
13		0	3	0	6	0	6	0	0	0	2
14	校	0	6	0	6	0	6	4	6	2	2
15		0	6	0	6	0	6	6	6	0	2
16		0	6	0	6	0	4	2	4	4	2
17		0	6	0	6	0	4	2	2	2	2
18		0	6	0	6	0	6	2	2	0	4
19		0	6	0	6	0	6	0	2	2	6
20		0	6	0	6	0	6	2	4	2	6
21	名	0	6	0	6	0	6	0	4	2	2
22		0	6	0	6	0	4	0	4	2	2
23		0	6	0	6	0	6	0	0	2	2
24		0	6	0	6	6	4	2	2	0	2
25		0	6	0	6	0	6	0	6	2	0
26		0	3	0	6	0	6	0	4	0	2
27		0	6	0	6	0	4	0	0	2	2
28	省	0	6	0	6	0	4	4	4	4	2
29		0	6	0	6	6	0	4	2	2	2
30		0	6	0	6	0	4	2	2	2	2
31		0	6	0	6	0	6	0	0	2	2
32		0	6	0	6	0	6	2	2	0	2
33		0	6	0	6	0	6	0	0	2	2
34		0	6	0	6	0	4	2	4	0	2
35		0	6	0	6	0	4	0	2	0	0
36	略	0	6	0	6	0	2	0	6	2	0
37		0	6	0	6	0	6	0	6	4	6
38		0	6	0	6	0	6	2	2	2	2
39		0	6	0	6	0	2	0	0	0	0
40		0	6	0	6	0	6	2	2	0	2
41		0	6	0	6	0	6	0	2	2	2
42		0	6	0	6	0	6	0	2	2	0
43		0	6	0	6	0	4	6	2	0	0
平 計 均		0.1	5.8	0	6.0	0.4	5.1	1.5	2.6	1.3	1.8

場
構成状況探点表

公研 開究	地域 案	計		自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計	
0	0	28	E	6	4	6	6	3	6	31	B
0	2	32	E	6	6	4	4	0	6	22	C
0	0	26	E	6	6	4	0	0	6	22	C
0	0	24	E	0	2	4	6	0	6	18	D
0	2	24	E	4	2	4	6	3	0	19	D
0	2	24	E	4	2	4	6	3	0	19	D
0	0	24	E	4	4	4	6	3	0	21	C
0	0	26	E	4	4	4	6	3	0	21	C
0	0	18	E	0	4	4	0	3	0	11	E
0	0	24	E	0	4	2	6	3	0	15	D
0	0	36	D	6	6	2	6	3	6	29	B
0	0	34	E	0	2	2	0	3	0	7	E
0	0	17	E	6	2	2	6	3	0	19	D
0	0	32	E	6	4	2	6	3	6	27	B
0	0	32	E	4	2	2	6	3	0	17	D
0	2	30	E	6	2	2	6	6	6	23	B
0	2	26	E	6	2	2	6	3	0	19	D
0	2	23	E	4	2	2	6	6	0	20	C
0	2	30	E	2	2	2	0	0	0	6	E
0	2	34	D	2	2	2	0	0	0	6	E
0	2	28	E	0	4	2	6	3	6	21	C
0	2	26	E	0	4	2	6	0	6	18	D
0	0	22	E	0	4	2	6	3	0	15	D
0	0	30	E	4	4	2	0	0	0	10	E
0	0	25	E	4	6	2	6	6	0	24	C
0	2	23	E	0	4	2	6	3	0	15	C
0	0	20	E	6	2	2	6	3	0	19	D
0	0	30	E	0	6	2	6	3	0	17	D
0	2	30	E	4	2	2	6	3	0	17	D
0	2	24	E	4	2	2	9	3	0	17	D
0	0	22	E	4	2	0	6	0	0	12	E
0	0	24	E	0	2	0	6	3	0	11	E
0	2	24	E	6	0	0	0	0	0	6	E
0	0	24	E	0	0	0	0	0	0	0	E
0	0	18	E	0	2	0	0	0	0	2	E
0	0	22	E	0	0	0	0	0	0	0	E
0	0	34	D	4	4	0	0	0	0	8	E
0	2	28	E	0	4	0	6	3	0	13	D
0	2	16	E	4	4	0	6	0	0	14	D
0	0	24	E	4	0	0	6	3	0	13	D
0	0	24	E	6	2	0	6	3	0	17	D
0	2	24	E	0	4	0	0	0	0	4	E
0	2	32	E	6	2	0	0	0	0	8	E
0	42	1114		132	128	80	174	90	54	658	
0	0.9	25.9		3.6	3.5	2.2	4.8	2.5	1.5	15.3	

b. 構成状況を Z-score で五段階に区分した一覽表

これは点数表示に基づく地域別一覽表を Z-score に換算して五段階に区分したものである。

すなわち

構成の客観的條件においては

M.....(算術平均).....44.707

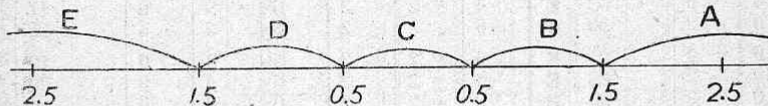
S.D.....(標準偏差)..... 7.225

構成の状況においては

M..... 22.249

S.D..... 6.355

これから $Z = \frac{X-M}{S.D.}$ によつて Z-score を算出したのである。これを



の五段階にきると

・客観的條件では

A.....56点以上 D.....41点~34点

B.....55点~49点 E.....33点以下

C.....8点~424点

・構成状況では

A.....32点以上 D.....19点~13点

B.....31点~26点 E.....12点以下

C.....25点~20点

(点数は点数表示に基づいた配点合計である)

これによつて五段階に区分して一覽表にすると次のようになる。

(五段階別一覽表)

教育課程構成状況 Aクラス一覽表

20校

学番 校号	新 校 校 校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 學 級 数	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計
124	0	6	2	6	6	6	0	2	2	0	2	6	4	0	42	C	6	6	2	6	6	6	32
138	6	3	4	6	6	0	0	4	0	2	2	4	2	2	41	D	6	4	4	6	6	6	32
217	0	6	2	6	6	6	4	6	2	4	4	6	2	2	56	A	6	6	4	6	6	6	34
220	6	6	4	6	6	6	4	6	2	4	4	6	6	0	66	A	6	4	6	6	3	6	31
219	6	3	4	6	6	0	4	6	2	4	4	6	2	0	49	B	6	6	2	6	6	6	32
343	6	3	2	6	6	0	4	6	2	6	2	6	6	2	57	A	6	6	6	6	6	6	36
323	0	6	4	6	6	6	0	4	0	2	0	6	4	0	46	C	6	6	2	6	6	6	32
336	0	6	2	6	6	6	6	0	2	4	0	2	0	2	44	C	6	4	6	6	6	6	32
338	0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	0	4	0	0	44	C	6	6	6	6	3	6	33
321	0	3	2	6	6	6	0	2	2	4	2	4	0	2	39	D	6	4	4	6	6	6	32
408	0	6	0	6	0	6	6	6	6	4	2	2	2	0	46	C	6	4	4	6	6	6	32
523	6	6	6	6	6	6	0	6	2	6	2	6	6	0	64	A	6	4	6	6	6	6	34
502	0	6	6	6	6	6	0	6	2	4	6	6	0	0	54	B	6	6	6	6	6	6	36
518	0	3	4	6	6	6	2	4	2	4	4	4	6	2	53	B	6	6	4	6	6	6	34
501	0	6	4	0	6	6	0	2	2	4	2	4	0	0	42	B	6	6	6	6	6	6	36
521	0	6	6	6	6	6	0	6	2	0	2	2	4	0	46	C	6	4	4	6	6	6	32
510	0	3	4	6	6	0	2	4	2	4	4	4	2	0	41	D	6	6	4	6	6	6	34
515	0	6	0	6	0	6	4	0	2	0	2	2	6	0	34	D	6	6	4	6	6	6	34
614	0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	6	4	0	0	54	B	6	2	6	6	6	6	32
602	0	6	2	6	6	6	4	6	2	6	0	2	0	2	48	C	6	6	2	6	6	6	32
計	30	102	66	120	108	96	42	90	40	68	50	86	52	16	966		118	102	88	120	114	120	662
平均	1.5	5.1	3.3	6.0	5.4	4.8	2.1	4.5	2.0	3.4	2.5	4.3	2.6	0.8	48.3		5.9	5.1	4.4	6.0	5.8	6.0	33.2

備考 学校番号の100台は山村, 200台は山平村, 300台は平村, 400台は漁村, 500台は町, 600台は市, 下以各表同様

教育課程構成状況 Bクラス一覽表

49校

学番 校号	新 校 校 校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 學 級 数	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計
134	0	6	2	6	6	6	2	4	2	4	2	6	4	2	52	B	6	4	2	6	3	6	27
136	0	6	2	6	6	6	0	4	2	6	4	6	2	2	52	B	6	4	2	6	6	6	30
147	0	3	2	6	6	6	4	4	4	4	4	2	4	2	51	B	6	4	2	6	6	6	30
157	0	6	2	6	6	0	4	2	2	6	4	4	6	2	50	B	6	2	2	6	6	6	28
172	0	6	2	6	6	6	6	6	2	6	2	2	2	0	52	B	6	6	4	6	6	0	28

学番 校号	研 究	实 験 校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 學 級 兒 童 數	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 會	図 書	時 間 配 分	計	
173	0	6	2	6	6	6	2	4	4	4	4	4	4	4	0	52	B	4	2	4	6	6	6	28	
184	0	6	4	6	6	6	6	6	4	4	4	2	6	2	0	54	B	0	4	4	6	6	6	30	
101	0	3	2	6	6	6	4	2	2	2	2	2	2	2	0	45	B	6	4	2	6	6	6	26	
150	0	3	2	6	6	6	4	6	2	2	6	0	0	0	0	43	C	6	4	0	6	6	6	30	
155	0	6	2	6	6	6	2	2	2	6	2	2	4	0	0	44	C	0	4	4	6	6	6	26	
102	0	3	2	6	6	6	6	2	2	2	4	2	2	2	0	39	D	4	6	4	6	6	0	26	
140	0	3	2	6	6	6	0	0	4	2	2	2	4	2	0	37	D	4	2	2	6	6	6	0	26
148	0	6	0	6	6	6	4	2	4	6	2	2	2	0	0	38	D	4	2	4	6	6	6	28	
158	0	3	2	6	6	6	2	4	2	2	2	0	4	4	0	41	D	0	6	2	6	6	6	26	
164	0	3	2	6	6	6	0	6	6	2	2	2	4	0	0	39	D	0	6	2	6	6	6	26	
168	0	6	0	6	6	6	6	2	2	2	4	2	0	0	0	36	D	2	6	2	6	6	6	28	
123	0	3	0	6	6	6	2	0	2	2	6	2	4	0	0	31	E	6	6	2	6	6	0	26	
153	0	3	2	6	6	6	0	6	6	2	2	2	4	0	0	31	E	0	4	4	6	6	6	26	
226	0	3	4	6	6	6	2	6	2	6	4	4	6	0	0	55	B	6	4	4	6	6	0	26	
205	0	6	2	6	6	6	2	4	2	2	6	2	4	2	0	48	B	4	2	4	6	3	6	25	
209	0	6	2	6	6	6	2	4	2	2	4	2	2	0	0	44	C	0	6	2	6	6	6	26	
207	0	3	2	6	6	6	4	2	4	6	2	4	0	2	2	47	C	4	4	6	6	3	6	29	
220	0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	2	2	0	0	0	44	C	4	4	2	6	3	6	25	
224	0	6	2	6	6	6	6	6	4	2	4	0	4	2	0	48	C	4	6	2	6	6	6	30	
216	0	6	2	6	6	6	0	2	4	2	0	2	4	2	2	38	D	6	6	4	6	6	0	28	
222	0	3	4	6	6	6	0	0	6	0	4	4	2	2	0	37	D	4	2	6	6	6	6	30	
339	6	6	2	6	6	6	4	4	4	2	6	4	4	2	2	60	A	6	6	2	6	6	0	26	
322	0	6	2	6	6	6	6	4	4	4	4	2	6	0	2	50	B	6	4	6	6	3	6	29	
326	6	6	2	6	6	6	2	4	0	6	2	4	0	2	2	52	B	6	4	4	6	6	0	26	
302	0	6	2	6	6	6	0	2	2	0	2	4	4	0	0	42	B	0	4	4	6	6	6	66	
303	0	6	2	6	6	6	6	2	6	2	6	2	2	0	0	46	C	6	6	6	6	3	0	27	
315	0	3	4	6	6	6	4	2	2	2	4	2	4	2	2	47	C	0	6	4	6	6	6	28	
344	0	6	2	6	6	6	2	4	2	4	4	0	0	0	0	42	C	0	2	6	6	6	6	26	
311	0	6	4	6	6	6	2	2	2	2	0	0	4	0	0	38	D	6	4	4	6	6	0	26	
401	0	3	2	6	6	6	0	4	2	2	4	2	4	2	2	39	D	6	4	4	6	6	0	26	
406	0	0	4	6	6	6	0	2	2	2	6	4	6	2	0	40	D	4	6	0	6	6	6	28	
505	0	6	6	6	6	6	2	6	0	2	6	4	6	0	0	56	A	4	4	4	6	6	6	30	
516	0	6	2	6	6	6	0	4	2	4	6	6	4	6	0	58	A	6	2	6	6	0	6	26	
524	6	6	6	6	6	6	2	6	0	4	6	4	4	4	0	62	A	4	4	4	6	6	6	30	
503	0	6	2	6	6	6	6	4	0	0	2	6	4	2	0	50	B	6	4	6	6	3	6	29	
504	0	6	4	6	6	6	2	2	2	6	0	4	2	6	0	52	B	4	4	2	6	6	6	30	
508	0	6	2	6	6	6	4	2	6	2	4	2	4	0	0	50	B	4	2	2	6	6	6	26	
522	0	3	6	6	6	6	0	4	0	4	6	4	6	0	0	51	B	2	6	4	6	6	6	30	
507	0	6	2	6	6	6	4	0	0	6	4	2	2	4	0	44	B	6	2	2	6	6	6	28	
509	0	3	4	6	6	6	2	2	2	2	4	6	4	0	0	47	C	4	2	4	6	6	6	28	
606	0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	4	2	4	2	0	56	A	6	2	4	6	6	6	30	
613	6	6	4	6	6	6	0	6	2	2	6	6	6	4	0	62	A	4	4	4	6	6	6	30	
603	0	3	4	6	6	6	2	6	0	4	2	4	4	2	2	49	B	4	4	2	6	6	6	28	
608	0	6	6	6	6	6	0	6	0	6	4	6	4	2	2	54	B	4	2	6	6	6	6	30	
計	24	237	132	294	270	246	128	188	100	186	140	180	116	48	2289		194	198	168	294	267	234	1355		
平均	0.5	4.8	2.7	6.0	5.5	5.0	2.6	3.8	2.0	3.8	2.9	3.7	2.4	1.0	46.7		4.0	4.0	3.4	6.0	5.5	4.8	25.6		

学番
校号
142
125
145
156
165
171
104
106
111
112
117
128
130
166
160
181
182
105
108
122
131
160
161
101
109
222
201
211
211
218
201
201
211
201

教育課程構成状況 Cクラス一覽表

68校

学番 校号	研 究	実 験	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	一 学 級	兒 童 数	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計
142	0	6	2	6	6	6	4	6	2	6	4	6	6	6	2	62	A	4	2	2	6	6	0	20	
125	0	6	4	6	6	6	4	4	2	2	4	4	4	4	6	50	B	6	4	2	6	6	3	0	21
145	0	3	2	6	6	6	2	2	4	2	4	2	2	4	4	49	B	6	6	2	6	6	3	6	23
156	0	3	2	6	6	6	2	2	4	2	4	6	4	4	2	49	B	6	6	6	6	6	3	0	23
165	0	3	2	6	6	6	4	4	4	6	4	4	2	6	2	53	B	6	6	4	2	6	6	0	24
171	0	3	2	6	6	6	2	2	2	2	4	6	2	4	6	49	B	6	4	4	6	6	3	0	23
104	0	3	2	6	6	6	2	2	6	2	4	2	2	4	4	47	C	4	2	4	6	6	6	0	22
106	0	3	2	6	6	6	4	4	2	2	4	0	2	4	4	47	C	4	4	4	2	6	6	0	22
111	0	6	0	6	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	0	42	C	4	4	6	0	6	6	6	22
112	0	0	2	6	6	6	4	4	2	2	2	6	4	4	0	42	C	4	2	2	6	6	6	0	20
117	0	3	2	6	6	6	6	6	0	6	6	4	2	4	0	45	C	4	4	4	6	6	3	0	21
128	0	6	2	6	6	6	2	2	2	2	2	6	2	4	4	44	C	4	4	4	2	6	6	0	22
130	0	6	4	6	6	6	0	2	2	2	2	0	2	4	0	42	C	4	0	6	2	6	6	0	20
166	0	6	2	6	6	6	2	2	6	2	4	0	4	4	2	46	C	6	6	4	2	6	6	0	24
160	0	6	0	6	6	6	6	6	0	6	6	4	2	4	4	44	C	6	4	4	2	6	6	0	24
181	0	3	2	6	6	6	0	2	4	4	4	4	2	4	2	43	C	0	4	4	6	6	6	0	20
182	0	3	4	6	6	6	4	4	4	2	2	0	2	4	2	45	C	0	4	4	4	6	6	0	20
105	0	6	2	6	6	6	0	2	2	2	2	2	2	2	0	34	D	4	4	4	4	6	6	0	24
108	0	3	6	6	6	6	0	4	2	2	2	2	4	2	0	39	D	4	4	4	4	6	3	0	21
122	0	6	0	6	6	6	0	6	0	6	6	6	2	2	0	34	D	4	4	6	2	6	3	0	21
133	0	3	2	6	6	6	6	6	2	2	2	0	2	4	0	41	D	0	4	4	6	6	6	0	20
160	0	6	0	6	6	6	6	6	2	2	2	4	0	4	2	38	D	6	6	4	4	6	6	0	24
161	0	3	0	6	6	6	6	6	2	2	2	6	0	4	0	37	D	6	6	4	4	6	6	0	23
103	0	3	4	6	6	6	0	2	4	2	2	0	2	2	0	25	E	4	4	0	4	6	6	0	20
109	0	3	0	6	6	6	4	4	2	6	4	4	2	0	0	33	E	2	2	0	6	6	6	6	22
225	0	6	4	6	6	6	0	6	4	6	2	6	2	6	6	56	A	6	2	4	6	6	6	0	24
201	0	6	2	6	6	6	6	6	6	6	2	4	2	4	0	50	B	2	2	2	6	6	3	6	23
211	0	6	2	6	6	6	6	6	6	6	2	4	2	4	0	50	B	6	4	2	6	6	6	0	24
213	0	3	4	6	6	6	2	2	4	4	4	6	4	4	0	55	B	0	4	4	6	6	3	6	23
218	0	6	2	6	6	6	6	6	6	6	2	4	2	4	0	50	B	4	2	6	6	6	6	0	24
202	0	3	4	6	6	6	2	2	2	2	4	4	2	6	0	43	C	0	4	4	6	6	6	0	20
203	0	6	2	6	6	6	4	4	2	2	2	6	4	4	0	41	D	6	4	4	4	6	3	0	23
210	0	3	0	6	6	6	6	6	2	2	2	4	2	2	0	36	D	6	6	4	4	6	3	0	23
215	0	6	2	6	6	6	0	2	4	4	2	2	2	4	2	38	D	6	4	4	2	6	3	0	21
206	0	3	4	6	6	6	0	2	2	4	2	6	2	2	0	27	E	6	4	2	6	6	6	0	24

学番 校号	研究 校	校 舍	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	見 学 級 数	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 記 分	計
327	0	3	4	6	6	6	4	4	2	2	2	6	2	2	49	B	6	4	2	6	6	0	24
328	0	6	4	6	6	6	2	0	4	2	2	6	2	2	50	B	0	4	2	6	6	6	24
340	0	3	2	6	6	6	2	6	2	4	6	4	6	2	55	B	6	4	4	6	3	0	23
306	0	6	2	6	6	6	2	2	2	4	2	0	0	0	42	B	0	6	4	6	6	0	22
310	0	6	2	6	6	6	4	4	2	4	2	4	2	0	48	C	4	4	0	6	6	0	20
313	0	3	4	6	6	6	4	2	4	2	2	2	2	0	43	C	0	4	4	6	6	0	20
317	0	3	2	6	6	6	2	4	6	6	2	2	0	2	45	C	6	4	2	6	6	0	24
319	0	6	2	6	6	6	2	2	2	2	2	4	0	2	42	C	4	6	2	6	6	0	24
324	0	3	2	6	6	6	2	2	2	6	0	2	0	2	43	C	0	6	4	6	6	0	22
331	0	3	2	6	6	6	2	2	2	6	4	4	2	2	47	C	4	4	0	6	3	6	23
334	0	6	2	6	6	6	6	2	2	4	0	4	2	2	48	C	4	4	2	6	6	0	22
307	0	3	2	6	6	6	0	6	2	4	2	2	0	0	39	D	4	6	6	6	3	0	25
318	0	3	2	6	6	6	2	4	2	4	0	4	0	2	41	D	6	4	2	6	3	0	21
325	0	6	2	6	6	6	4	2	2	0	0	2	0	2	38	D	4	4	0	6	6	0	20
335	0	3	4	6	6	6	2	4	0	2	2	2	4	0	41	D	4	4	2	6	6	0	22
312	0	3	2	6	6	6	4	2	2	4	2	4	0	0	41	D	4	4	4	6	6	0	24
405	0	6	2	6	6	6	6	4	0	6	2	2	0	0	46	C	0	4	4	6	3	6	23
409	0	6	0	6	6	6	6	6	6	6	2	2	0	0	44	C	4	4	4	6	3	0	21
412	0	6	2	6	6	6	0	6	4	0	6	2	4	0	42	C	6	6	4	6	3	0	25
411	0	3	2	6	6	6	4	6	2	4	2	4	0	0	39	D	4	4	4	6	6	0	24
513	0	3	6	6	6	6	0	2	2	6	2	6	4	0	49	B	0	4	2	6	6	6	24
525	0	6	4	6	6	6	0	2	6	2	6	4	6	0	54	B	4	4	2	6	6	0	22
511	0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	0	4	0	2	46	B	4	2	6	6	6	0	24
512	0	6	2	6	6	6	4	2	2	4	2	4	2	2	48	C	0	4	4	6	0	6	20
519	0	6	2	6	6	6	2	4	2	4	4	2	0	2	46	C	0	4	4	6	6	0	20
520	0	6	0	6	6	6	4	4	6	6	0	4	0	2	44	C	6	4	2	6	6	0	24
514	0	6	0	6	6	6	6	2	0	6	2	2	2	0	38	D	4	4	2	6	6	0	22
605	0	6	6	6	6	6	0	6	2	6	2	2	6	2	56	A	0	4	2	6	6	6	24
610	6	6	6	6	6	6	2	6	4	2	4	2	6	0	56	A	4	4	2	6	6	0	22
607	6	3	6	6	6	6	0	6	0	4	2	6	2	6	49	B	4	4	4	6	6	0	24
611	0	3	6	6	6	6	0	6	0	4	2	4	6	0	49	B	0	2	0	6	6	6	20
612	0	6	2	6	6	6	2	6	2	4	2	2	0	0	44	C	4	4	4	6	3	0	21
604	0	3	4	0	6	6	2	6	2	4	2	2	2	2	41	D	6	2	0	6	6	0	20
計	12	303	168	384	336	336	218	244	174	276	142	244	136	58	3031		244	270	188	408	333	72	1515
平均	0.2	4.5	2.5	5.6	4.9	4.9	3.2	3.6	2.6	4.1	2.1	3.6	2.0	0.9	44.5		3.6	4.0	2.7	6.0	4.9	1.1	22.3

教育課程構成状況 Dクラス一覽表

56校

学 校 番 号	研 究 校	実 験 校	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	一 学 級 数	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計
121	0	6	2	6	6	6	2	2	6	4	2	6	4	4	0	52	B	0	4	0	6	3	0	13
135	0	3	2	6	6	6	6	2	2	4	2	2	4	2	2	49	B	4	2	2	6	3	0	17
139	0	3	2	6	6	6	6	2	2	4	2	2	4	2	2	51	B	4	2	2	6	3	0	17
141	0	3	2	6	6	6	6	2	2	4	2	2	4	2	2	53	B	2	2	2	6	3	0	15
143	0	6	2	6	6	6	6	4	6	2	4	2	4	2	2	50	B	0	2	2	6	6	0	16
146	0	3	4	6	6	6	6	4	4	4	4	4	6	4	0	55	B	0	4	0	6	6	0	16
152	0	3	2	6	6	6	6	6	4	6	4	2	4	0	2	49	B	4	6	0	6	0	0	16
107	0	6	4	6	6	6	6	2	2	4	4	4	2	6	0	46	C	0	4	2	6	3	0	15
120	0	6	2	6	6	6	6	4	4	2	2	2	2	0	2	44	C	4	4	2	6	3	0	19
129	0	6	2	6	6	6	6	4	4	2	2	2	2	0	2	46	C	4	4	0	6	6	0	16
137	0	3	2	6	6	6	6	0	2	6	4	6	2	4	0	43	C	0	4	2	6	3	0	15
144	0	6	2	6	6	6	6	0	4	2	4	6	4	2	2	46	C	0	4	2	6	6	0	18
151	0	3	2	6	6	6	6	2	4	2	2	6	2	4	2	45	C	0	6	0	6	6	0	18
154	0	3	2	6	6	6	6	0	6	2	6	2	6	0	2	43	C	0	6	2	4	6	6	18
167	0	6	4	6	6	6	6	0	4	2	2	2	2	6	6	46	C	2	4	2	6	3	0	17
170	0	6	2	6	6	6	6	6	2	6	2	2	2	0	0	46	C	0	4	4	6	0	0	14
174	0	3	2	6	6	6	6	0	4	2	2	2	4	6	0	43	C	0	4	4	6	3	0	17
113	0	3	2	6	6	6	6	2	2	6	0	4	2	0	0	41	C	0	4	2	6	6	0	18
114	0	3	0	6	6	6	6	6	2	6	6	2	2	0	0	39	D	2	4	4	6	0	0	16
119	0	3	2	6	6	6	6	6	0	2	4	2	4	0	0	41	D	0	4	4	6	3	0	17
126	0	6	0	6	6	6	6	4	4	2	4	2	2	0	0	36	D	4	2	0	6	3	0	15
131	0	3	0	6	6	6	6	0	6	4	4	0	6	2	2	35	D	2	2	2	6	3	0	13
162	0	6	0	6	6	6	6	3	6	2	0	2	2	6	2	41	D	4	6	2	6	0	0	18
175	0	6	0	6	6	6	6	2	0	6	2	6	2	4	0	34	D	4	2	2	6	3	0	17
180	0	3	4	6	6	6	6	0	2	4	2	2	2	0	0	35	D	4	2	4	6	6	0	18
183	0	6	2	6	6	6	6	6	2	2	0	2	0	0	0	40	D	4	6	2	6	0	0	18
110	0	3	2	6	6	6	6	0	4	4	2	2	4	0	0	31	E	0	4	0	6	6	0	16
115	0	3	0	6	6	6	6	4	2	6	0	2	0	0	0	29	E	0	4	0	6	3	0	13
118	0	3	2	6	6	6	6	0	4	0	2	4	2	4	0	31	E	6	4	0	6	3	0	19
132	0	3	0	6	6	6	6	0	0	2	2	0	0	2	0	23	E	0	4	0	6	3	0	13
177	0	6	0	6	6	6	6	4	2	2	6	0	0	0	0	32	E	0	4	4	6	3	0	17
179	0	3	2	6	6	6	6	0	4	4	2	2	2	0	0	33	E	6	2	2	6	0	0	16
214	0	3	2	6	6	6	6	2	2	2	4	2	6	0	2	43	C	0	4	2	6	6	0	18
223	0	6	0	6	6	6	6	6	4	4	4	0	4	0	0	40	D	0	2	4	6	6	0	18
208	0	6	0	6	6	6	6	4	4	0	0	2	2	0	0	30	E	0	6	2	6	3	0	17
342	0	3	4	6	6	6	6	4	4	2	4	4	6	6	2	57	A	0	4	2	6	6	0	18
314	0	3	4	6	6	6	6	4	4	2	4	2	6	4	2	51	B	0	4	4	6	3	0	13
304	0	6	2	6	6	6	6	4	0	2	2	6	0	2	2	47	C	0	4	4	6	0	0	14
305	6	3	4	6	6	6	6	0	4	0	2	2	4	4	0	44	C	4	4	2	6	3	0	19
308	0	6	2	6	6	6	6	0	2	2	6	2	4	2	2	46	C	0	4	4	6	3	0	17
320	0	6	2	6	6	6	6	2	4	2	6	0	2	0	2	44	C	0	4	2	6	0	6	18
329	0	6	0	6	6	6	6	4	2	2	6	4	6	6	0	48	C	0	2	2	6	6	0	16
330	0	3	2	6	6	6	6	4	2	2	2	2	4	4	2	45	C	0	4	0	6	3	0	13
332	0	3	2	6	6	6	6	2	2	0	4	2	6	0	4	43	C	4	4	0	6	0	0	14
337	0	3	2	6	6	6	6	2	6	2	4	2	4	0	0	43	C	0	2	2	6	3	0	13

学番 校号	研究 校舎	校舎	学級数	二部	複式	分數場	一學級 兒童數	有資格者	男女比率	研究費	主事訪問	研究授業	公開研究	地域案	計	段階	自校案	手続	類型	児童会	図書	時間配分	計
301	0	3	0	6	0	6	4	6	4	2	2	2	0	2	37	D	0	4	4	6	0	0	14
316	0	6	0	6	6	6	6	6	2	6	2	2	0	2	38	D	0	4	2	6	3	0	15
333	0	3	2	6	6	6	4	2	2	2	2	4	2	0	39	D	4	4	6	6	0	0	18
341	0	3	2	0	6	6	4	2	2	6	2	4	0	2	39	D	0	4	2	6	3	0	15
404	0	6	0	6	0	6	6	0	2	4	4	4	4	0	42	C	4	2	4	6	3	0	19
410	0	6	0	6	6	6	2	2	6	6	2	6	0	0	42	C	0	6	2	6	0	0	14
403	0	3	0	6	0	6	4	4	2	4	2	4	0	2	37	D	0	6	0	6	3	0	15
517	0	6	2	6	6	6	6	2	2	4	2	2	4	2	50	B	0	4	4	6	0	0	14
505	0	3	4	6	6	6	4	0	2	4	2	4	2	2	45	C	0	6	2	6	3	0	17
609	0	6	2	6	6	6	6	6	2	2	2	2	4	2	52	B	0	2	2	6	3	6	19
601	0	6	2	6	0	6	2	6	4	6	2	2	0	2	44	C	0	4	0	6	3	0	13
計	6	243	96	330	228	270	205	166	148	220	114	196	94	58	2374		70	206	110	336	162	18	9021
平均	0.1	4.3	1.7	5.9	4.1	4.8	3.7	3.0	2.6	3.9	2.0	3.5	1.7	1.0	42.4		1.2	3.7	2.0	6.0	2.9	0.3	16.3

学番
校号
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
計
平均

教育課程構成状況 Eクラス一覽表

12校

学番 校号	研究 校舎	校舎	学級数	二部	複式	分數場	一學級 兒童數	有資格者	男女比率	研究費	主事訪問	研究授業	公開研究	地域案	計	段階	自校案	手続	類型	児童会	図書	時間配分	計
127	0	6	2	6	6	6	4	2	4	4	2	4	6	0	50	B	0	4	2	6	0	0	12
163	0	6	2	6	6	6	4	2	2	4	0	4	2	2	48	C	4	2	0	6	0	0	12
116	0	3	2	6	6	6	2	4	0	6	2	2	0	0	39	D	0	2	0	6	3	0	11
149	0	6	0	6	0	6	6	4	6	4	0	2	0	0	40	D	0	4	0	6	0	0	10
159	0	6	0	6	0	6	6	0	4	4	2	2	0	0	36	D	0	4	0	0	0	0	4
176	0	6	0	6	0	6	6	4	4	6	0	0	0	0	38	D	0	2	0	6	0	0	8
178	0	3	0	6	0	6	6	0	2	6	2	2	4	0	31	E	0	2	0	6	3	0	11
204	0	6	2	6	6	6	4	4	2	4	4	4	6	0	54	B	0	0	0	6	6	0	12
212	0	3	2	6	6	6	2	4	6	4	4	4	0	0	47	C	0	4	0	6	0	0	10
309	0	6	2	6	6	6	2	2	2	6	2	4	2	0	46	C	0	2	0	6	0	0	8
402	0	6	4	6	6	0	0	2	2	2	2	4	0	2	36	D	2	4	0	6	0	0	12
407	0	3	0	6	0	6	6	2	6	0	2	2	0	0	33	E	0	4	2	6	0	0	12
計	0	60	16	72	42	60	48	32	38	50	22	34	20	4	498		6	34	4	66	12	0	122
平均	0	5.0	1.3	6.0	3.7	5.0	4.0	2.7	3.2	4.2	1.8	2.8	1.7	0.3	41.5		0.5	2.8	0.3	5.5	1.0	0	10.2

教育課程構成状況 特別抽出校一覽表

学番 校号	研 究 校 校 号	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 数 場	見 学 級 一 学 級	有 資 格 者	男 女 比 率	研 究 費	主 事 部 門	研 究 授 業	公 開 配 究	地 域 案	計	段 階	自 ラ ブ ン 校	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計	段 階
1	6	3	4	6	6	6	4	6	6	6	6	6	6	6	77	A	6	6	6	6	6	6	36	A
2	6	6	2	6	6	6	4	6	6	6	6	6	4	6	74	A	6	4	6	6	6	6	34	A
3	6	6	4	6	6	6	4	6	6	6	6	6	6	6	80	A	6	6	6	6	6	6	36	A
4	6	6	6	6	6	6	0	6	2	0	6	6	2	2	60	A	6	4	6	6	6	6	34	A
5	6	6	6	6	6	6	0	6	2	2	0	6	6	0	58	A	6	6	6	6	6	6	36	A
6	6	6	6	6	6	6	2	6	2	2	2	6	6	0	62	A	0	6	4	6	6	6	28	B
7	6	6	6	6	6	6	0	6	2	4	4	6	4	2	64	A	6	6	6	6	6	6	36	A
8	6	6	6	6	6	6	0	6	2	4	0	4	4	2	58	A	6	6	6	6	6	6	34	A
9	0	3	6	0	6	6	0	2	2	6	6	6	6	0	49	B	6	6	6	6	6	6	36	A
10	6	6	2	6	6	6	2	6	4	4	6	6	4	2	66	A	6	4	6	6	6	6	34	A
11	6	6	4	6	6	6	2	6	2	4	6	6	6	2	68	A	6	6	4	6	6	6	34	A
12	6	3	6	6	6	6	0	6	2	4	6	6	6	2	65	A	6	4	4	6	6	6	32	A
13	0	6	4	6	6	6	0	4	6	2	2	6	4	0	52	B	4	6	2	6	6	0	24	C
14	6	6	6	6	6	6	0	6	2	4	6	6	6	0	66	A	6	2	2	6	6	6	28	B
15	6	6	4	6	6	6	2	4	4	2	6	6	6	0	64	A	6	6	6	6	6	6	36	A
計	78	81	72	84	90	84	24	84	46	56	72	86	76	30	963		82	78	74	90	90	84	498	
平均	5.2	5.4	4.8	5.6	6.0	5.6	1.6	5.6	3.1	3.7	4.8	5.7	5.1	2.0	64.2		5.5	5.2	4.9	6.0	6.0	5.6	33.2	

④ その処理と解釈

(a) 各項目の平均点一覽表

各項目に配点した層別及び段階別の一覽表から、さらにその統計及び平均点だけを取り出して一覽表をつくつてみると次のようになる。

これは先の層別及び段階別の配点一覽表を相互に比較検討したり、一見して総合的に把えたり、及びプロフィールを作成して比較したりするに便利であるという理由からである。こうすることによつて各地域間の相違やAの段階のものは何が優れているか、B・C・D・Eではどうか等の総合的な検討が可能になる。

点数表示による各項目の層別平均点一覧表 (各層それぞれの項の平均は6点満点)

層別 (校数)	研究 校数	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 児 学 級 数	有 資 格 率	比 率	男 女 率	比 率	研 究 費	主 事 等 間	訪 問	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	平 均	百 分 率	自 ラ ン 校	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計	平 均	百 分 率
山村 (84)	総点	6	363	150	504	360	360	307	250	246	318	174	292	166	64	3560	43.5	51.9	230	318	178	498	342	126	1692	20.1	55.0		
	平均	0.1	4.3	1.8	6.0	4.2	4.3	3.7	3.0	2.9	3.8	2.1	3.5	2.0	0.8	2.7	3.7	2.1	5.9	4.0	1.5	3.6	3.8	3.2	6.0	4.8	2.5	625	24.0
平山村 (26)	総点	12	126	62	150	132	126	80	118	58	102	64	106	50	8	1194	45.9	54.6	94	100	84	156	125	66	625	24.0	66.8		
	平均	0.5	4.8	2.4	5.8	5.1	4.8	3.1	4.5	2.2	3.9	2.5	4.1	1.9	0.3	3.6	3.8	3.2	6.0	4.8	2.5	3.6	3.8	3.2	6.0	4.8	2.5	625	24.0
平村 (44)	総点	24	198	102	258	246	258	124	142	90	172	80	162	70	60	1986	45.1	53.7	124	188	130	264	186	72	964	21.9	60.6		
	平均	0.5	4.5	2.3	5.9	5.6	5.9	2.8	3.2	2.0	3.9	1.8	3.7	1.6	1.4	2.8	4.3	3.0	6.0	4.2	1.6	2.8	4.3	3.0	6.0	4.2	1.6	964	21.9
漁村 (12)	総点	0	54	16	72	36	42	50	40	36	52	28	42	12	6	486	40.5	48.2	36	54	32	72	39	18	251	20.9	58.0		
	平均	0	4.5	1.3	6.0	3.0	3.5	4.2	3.3	3.0	4.3	2.3	3.5	1.0	0.5	3.0	4.5	2.7	6.0	3.2	1.5	3.0	4.5	2.7	6.0	3.2	1.5	251	20.9
町 (25)	総点	12	132	86	150	132	138	60	86	46	96	80	98	80	28	1224	48.9	58.2	100	104	96	150	126	108	684	27.4	76.1		
	平均	0.5	5.3	3.4	6.0	5.3	5.5	2.4	3.4	1.8	3.8	3.2	3.9	3.2	1.1	4.0	4.2	3.8	6.0	5.0	4.3	4.0	4.2	3.8	6.0	5.0	4.3	684	27.4
市 (14)	総点	18	72	62	66	78	84	20	84	24	60	42	40	46	18	714	58.1	69.2	48	46	38	84	75	54	345	24.6	68.3		
	平均	1.3	5.1	4.4	4.7	5.6	6.0	1.4	6.0	1.7	4.3	3.0	2.8	3.3	1.3	3.4	3.3	2.7	6.0	5.3	3.9	3.4	3.3	2.7	6.0	5.3	3.9	345	24.6
計		72	945	478	1200	984	1008	641	720	500	800	468	740	424	184	9164			632	810	558	1224	893	444	4561				
平均		0.3	4.5	2.3	5.8	4.8	4.9	3.1	3.5	2.4	3.9	2.2	3.6	2.0	0.8	44.7	53.2	3.0	3.4	2.7	5.9	4.3	2.1	22.2	61.6				
特 (15)	総点	78	81	72	84	90	84	24	84	46	56	72	86	76	30	963	64.2	76.3	82	78	74	90	90	84	498	33.2	92.5		
	平均	4.2	5.4	4.8	5.6	6.0	5.6	1.6	5.6	3.1	3.7	4.8	5.7	5.1	2.0	5.5	5.2	4.9	6.0	6.0	5.6	5.5	5.2	4.9	6.0	6.0	5.6	498	33.2
分教場 (43)	総点	6	252	0	258	18		220	68		114	56	80	0	42	1114	25.9	30.9	132	128	80	174	90	54	658	15.3	42.5		
	平均	0.1	5.8	0	6.0	0.4		5.1	1.5		2.6	1.3	1.8	0	0.9	3.6	3.5	2.2	4.8	2.5	1.5	3.6	3.5	2.2	4.8	2.5	1.5	658	15.3

点数表示による各項目の段階別平均点一覽表

	学 番 校 号	研 究 校 舎	実 験 室	校 舎	学 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 児 童 級 数	有 格 資 者	男 比 率	研 究 費	主 訪 事 等 間	研 究 業	公 研 開 究	地 域 案	計	自 校 案	手 続	類 型	児 童 会	図 書	時 配 間 分	計
A ク ラ ス (20)	計	30	102	66	120	108	96	42	90	40	68	50	86	52	16	966	118	102	88	120	114	120	662	
	平均	1.5	5.1	3.3	6.0	5.4	4.8	2.1	4.5	2.0	3.4	2.5	4.3	2.6	0.8	48.3	5.9	5.1	4.4	6.0	5.8	6.0	33.2	
B ク ラ ス (49)	計	24	237	132	294	270	246	128	188	100	186	140	180	116	48	2289	194	198	168	294	267	234	1355	
	平均	0.5	4.8	2.7	6.0	5.5	5.0	2.6	3.8	2.0	3.8	2.9	3.7	2.4	1.0	46.7	4.0	4.0	3.4	6.0	5.5	4.8	25.6	
C ク ラ ス (68)	計	12	303	168	384	336	336	218	244	174	276	142	244	136	58	3031	244	270	188	408	333	72	1515	
	平均	0.2	4.5	2.5	5.6	4.9	4.9	3.2	3.6	2.6	4.1	2.1	3.6	2.0	0.9	44.5	3.6	4.0	2.7	6.0	4.9	1.1	22.3	
D ク ラ ス (56)	計	6	243	96	330	228	270	205	166	148	220	114	196	94	58	2374	70	206	110	336	162	18	9021	
	平均	0.1	4.3	1.7	5.9	4.1	4.8	3.7	3.0	2.6	3.9	2.0	3.5	1.7	1.0	42.4	1.2	3.7	2.0	6.0	2.9	0.3	16.3	
E ク ラ ス (12)	計	0	60	16	72	42	60	48	32	38	50	22	34	20	4	499	6	34	4	66	12	0	122	
	平均	0	5.0	1.3	6.0	3.7	5.0	4.0	2.7	3.2	4.2	1.8	2.8	1.7	0.3	41.5	0.5	2.8	0.3	5.5	1.0	0	10.2	

以上の表から一見してわかることは、特別抽出校はさすがに平均点がよく、分教場ははなはだしく見劣りすることがわらう。僻地教育の振興が本県の教育振興計画の中で重点的に考えなければならないことがこれからはつきり言われるのである。もちろん僻地教育振興策は単に教育課程だけのものではないことは言うまでもないが、教育課程の構成面でこのような状況では、この学校で学ぶ児童の将来はゆゆしい問題であると言わなければならない。緊急の問題として大いに考慮されなければならない。

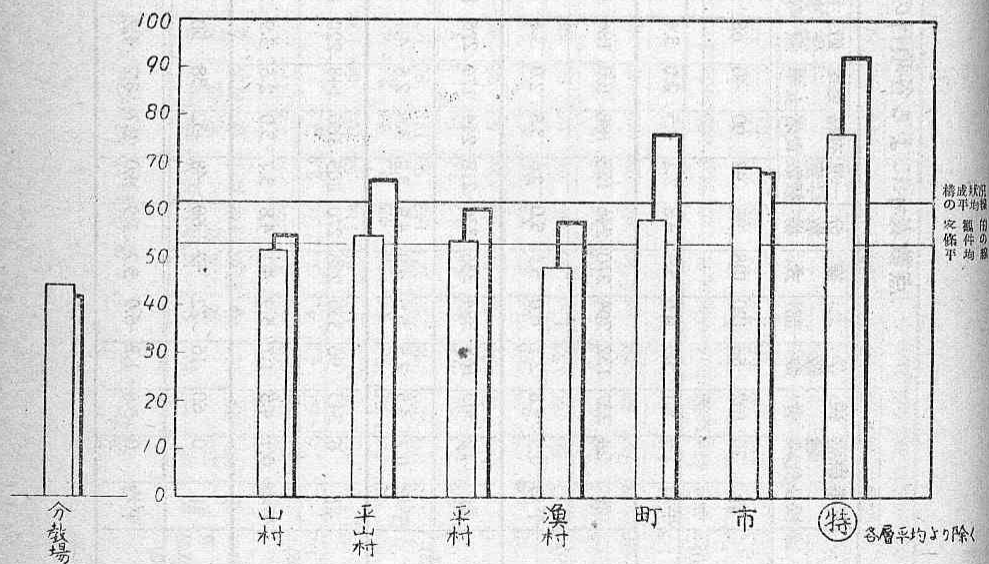
では他の地域の状態はどうか。先の表から客観的條件及び構成状況の総平均をとつて棒グラフに表わしてみると次のようになる。

(b) 客観的條件と構成状況についての比較

新潟県小学校 層別客観的條件比較 (細線)

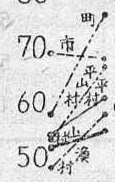
カリキュラム調査 層別構成状況比較 (太線)

(昭和25年9月)



さらにこれらの関係を百点満点に換算して比較すると次のようになる。これから言い得ることは、特別抽出校は別として他の六地域において、教

条件	(状況)
100	100
90	90
80	80
70	70
60	60
50	50
40	40
30	30
20	20
10	10
0	0



育課程構成の客観的條件においては市が一番優れ、町がこれに次いでいる。ところが構成状況では町が断然優れて市と平山村がせり合っているのである。漁村・山村は条件も状況も共にそれぞれの平均線を下回っているという現状である。地域的にみた場合、予想通り山村・漁村の教育は劣勢にあり、今後教育行政面においても大いに考慮しなければならない問題であろう。また平村が予想に反してよくないのであるが、これは算数の学力検査の結果からもこのことが立証されているのであるけれども、大いに考えさせられるのである。(このことはさらに後でふれる)

次に条件と状況の両者を組合せて比較すると、市だけは条件はよいが状況が悪いのである。教育的条件に恵まれながらその状況が悪いというのは何に原因があるのであるか。この問題はさらに市のみについてあらゆる角度から検討にみる必要がある。

(百点満点)

(c) 五段階区分による度数分布表

さらに地域の比較を五段階区分による度数分布表を作成して処理してみた。

客観的條件の度数分布表

	山村	平山村	平村	漁村	町	市	合計
A	1	3	3	0	4	4	15
B	20	7	6	0	9	6	48
C	26	8	24	6	9	3	76
D	26	6	11	5	3	1	52
E	11	2	0	1	0	0	14

状況
平均線
的の線
編
作
地

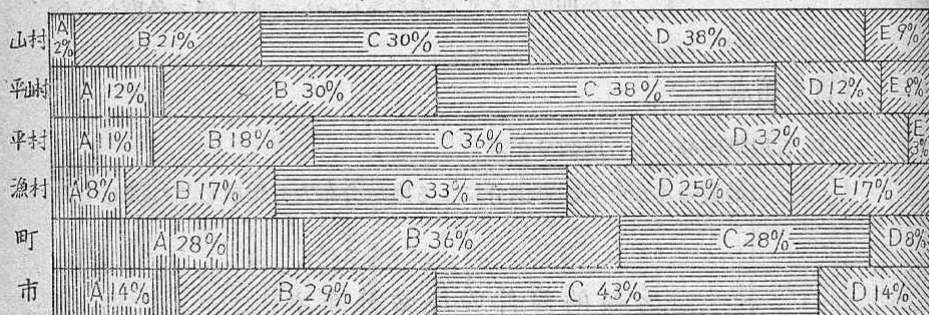
文

構成状況の度数分布表

	山村	平山村	平村	漁村	町	市	合計
A	2	3	5	1	7	2	20
B	18	8	8	2	9	4	49
C	25	10	16	4	7	6	68
D	32	3	14	3	2	2	56
E	7	2	1	2	0	0	12

客観的條件の度数分布は(b)で述べたことと較べてみれば、この関係はよくわかる。構成状況の度数分布を帯状グラフにしたのが次の表であるが、これも(b)で述べたことをこの表でも照し合せてみるとさらにはつきりする。

地域別教育課程構成状況 (段階別にみた)



次はA~Eの段階別を中心に、地域の含まれている割合をみたものである。すなわち各段階に含まれる各地域の比率を同一条件において比較したものである。方法としてはA~Eに分布する数を各地域毎に100を基準に換算して、その換算した数値をもとに各段階毎に比率をだし、パーセントイルになおしたのである。

こうして帯状グラフをつくってみると、次のようになる。

Aの段階では



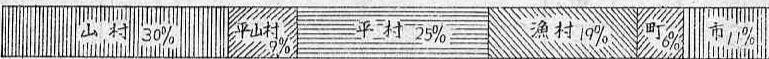
Bの段階では



Cの段階では



Dの段階では



Eの段階では



これからみると、構成状況を(b)でみた時平山村が町に次いでよかつたのであるが、Eの段階にはなお22%の割合で含まれていることがわかり、優れているものとよくないものの差が大きいということになる。そして悪いと言われた平村はEの段階は少なく、Dの段階が多いのだということになる。町や市にはEの段階はなく、市ではCの段階が一番多い。これに比較して町はAから順に含まれる割合が遞減してEでは0になつていたので、六地域のうち最も優秀な分布状態を示しており、漁村は全くこの反対の現象にあることがはつきりする。このグラフで地域別の比較はさらに明瞭化したのである。

次に客観的條件と構成状況とを組合せてその度数分布を見ると、次のようになる。

客観的條件、構成況狀の五段階区分による度数分布表

狀況 修件	山 村					平 山村					平 村					漁 村					町					市					合 計					特別抽出数					
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	
A			1			2	1				1	1	1									1	3				2	2				4	6	4	1		1	1	2		
B		7	5	7	1	1	1	4		1	2	3	1									2	4	2	1		1	2	2	1		4	16	16	10	2	1	1			
C	1	3	11	10	1	5	1	1	1		3	4	8	8	1	1	3	2				2	2	4	1		1	1	1			8	14	28	23	3					
D	1	6	6	9	4	2	3	1			1	1	5	4		2	1	1	1	2	1					1					4	11	17	15	5						
E		2	2	6	1	1	1													1												2	3	7	2						

これを左のように組み合わせてさらにⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの段階にしてみると、条件・状況を総合した姿をとらえることができる。

条件構成	A	B	C	D	E
A	(I)				
B		(II)			
C			(III)		
D					(VI)
E					

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
山村	0	17	41	26
平山村	3	11	7	5
平村	2	12	25	5
漁村	0	1	8	3
町	6	10	9	0
市	3	7	4	0
合計	14	58	94	39
特別抽出数	14	1	0	0

この表から言い得ることは、特別抽出校が全然他と異つた曲線を描いており、Ⅰのクラスにほとんど集中していてその優秀さを示している。

・山村・漁村・平村が似た曲線

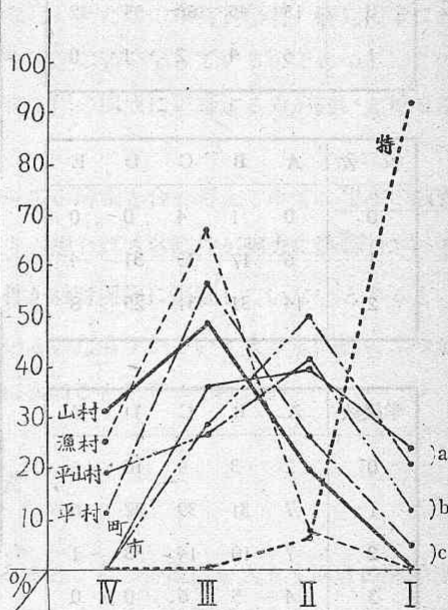
を示している。この中では平村がよい。…………… c グループ

・町と市がやや近似した曲線である。…………… a グループ

・平山村が b グループ、c グループの中間的な存在である。…… b グループ

すなわち条件と状況を総合してみても、やはり特別抽出校はさすがに飛びはなれてよく、次に町と市であり、漁村、山村が一番劣っている。

町がよいのは、町の学校がほとんど地区的な中心校として、その周辺の学校に対して指導的な立場にあること、町は一町一校的学校としてまとま



りがあること、などが大きな原因となつているようである。平山村については、一村一校のまとまりや学校の規模等に大いに関係があるようにも考えられる。

(b) 五段階別の構成状況と二・三の条件との関係

研究 実験校	A	B	C	D	E
0	15	45	66	55	12
1	5	4	2	1	0

有 資格者率	A	B	C	D	E
0	1	2	4	6	2
1	4	15	29	25	4
2	4	17	18	17	6
3	11	15	20	8	0

校 舎	A	B	C	D	E
0	0	1	4	0	0
1	6	17	33	31	4
2	14	31	31	25	8

職 員性別	A	B	C	D	E
0	2	9	6	5	1
1	17	32	45	36	6
2	0	6	9	7	2
3	1	2	8	8	3

学 級数	A	B	C	D	E
0	2	3	9	16	5
1	7	31	39	32	6
2	7	10	14	8	1
3	4	5	6	0	0

主 事等 訪 問	A	B	C	D	E
0	4	5	11	43	3
1	9	24	45	6	7
2	5	14	10	7	2
3	2	6	2	0	0

研 究 費	A	B	C	D	E
0	4	5	6	3	1
1	2	11	9	14	1
2	10	17	30	21	6
3	4	16	23	18	4

公開研究	A	B	C	D	E
0	7	14	33	33	7
1	5	15	15	7	2
2	3	14	9	8	1
3	5	6	11	8	2

研究授業	A	B	C	D	E
0	0	1	1	4	1
1	5	15	22	18	5
2	7	24	35	22	6
3	8	9	10	12	0

この結果はやはりはつきりしない。ただこの中有資格者、研究授業において、AとEを比較してみるとやゝ逆の姿を呈しているのであつて、この点この両者は他の条件よりも教育課程の構成に影響する力が強いと見ることが出来る。

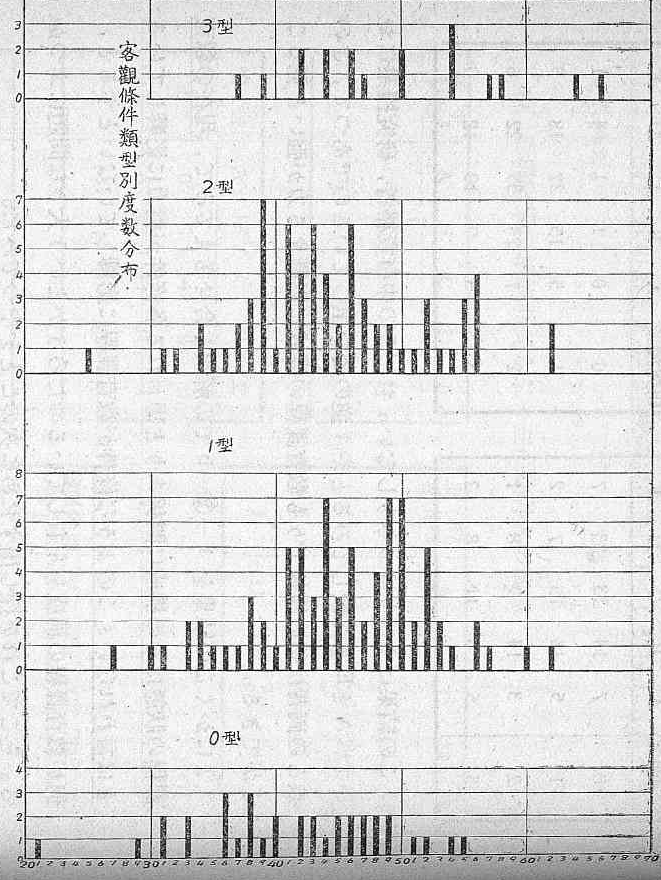
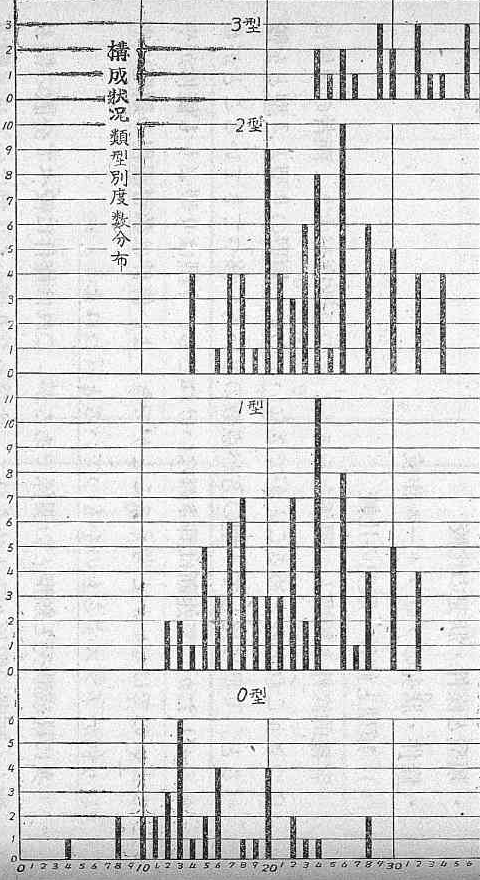
とにかくこの結果を1—②—bでの解釈と合せ考えてみて、現在の教育課程の状態はその構成に関係ありと思われる各条件が強力に影響しているとは言われない。このような条件が教育課程に影響していないとすると、何が教育課程の構成を左右しているのだろうかという大きな問題にぶつかる。そこでこれを探し出すために次のことをやつてみた。

- ・ 類型と条件・状況の比較
- ・ 条件・状況のプロフィール作成

(e) 類型と条件・状況の比較

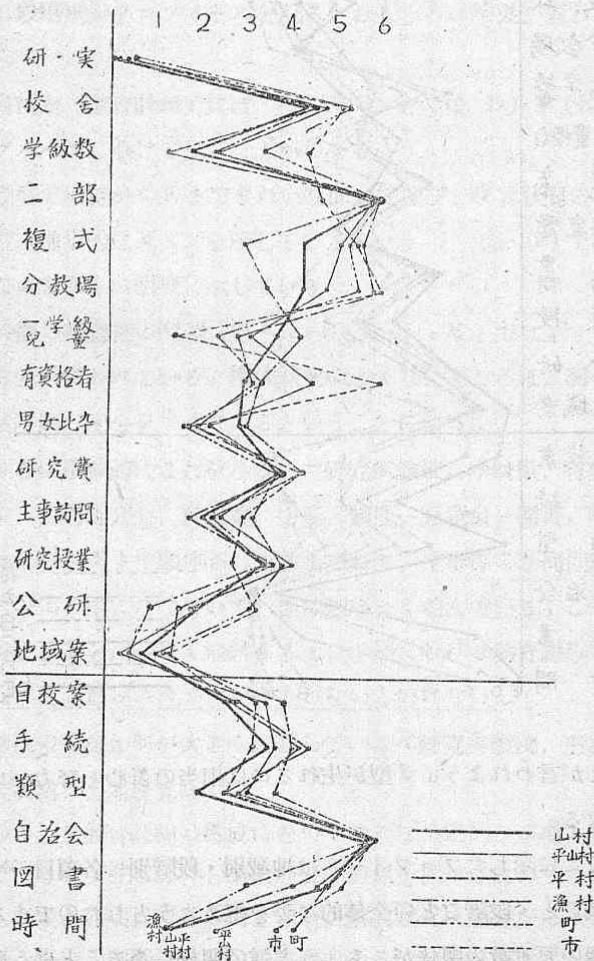
客観的條件と類型との関係を見ると、その分散度が大きく両者の関係ははつきりこれを見とめることができない。しかし類型の0型と3型とを比べると、0型に比して3型の方が点数の多い方に移つてきていることがわかる。したがつて速断は許されないけれども、3型は0型よりも条件がやゝよいのではないかと考えることができ、よい条件は教育課程の類型にやはり何かプラスするものをもつていると言われよう。

次に構成状況と類型との関係であるが、これは条件に較べて分散の幅も狭く、両者の関係がみとめられる。すなわち0型から3型にいくほど構成状況の山は右の方(点数の多い方)に移つているのである。このことから

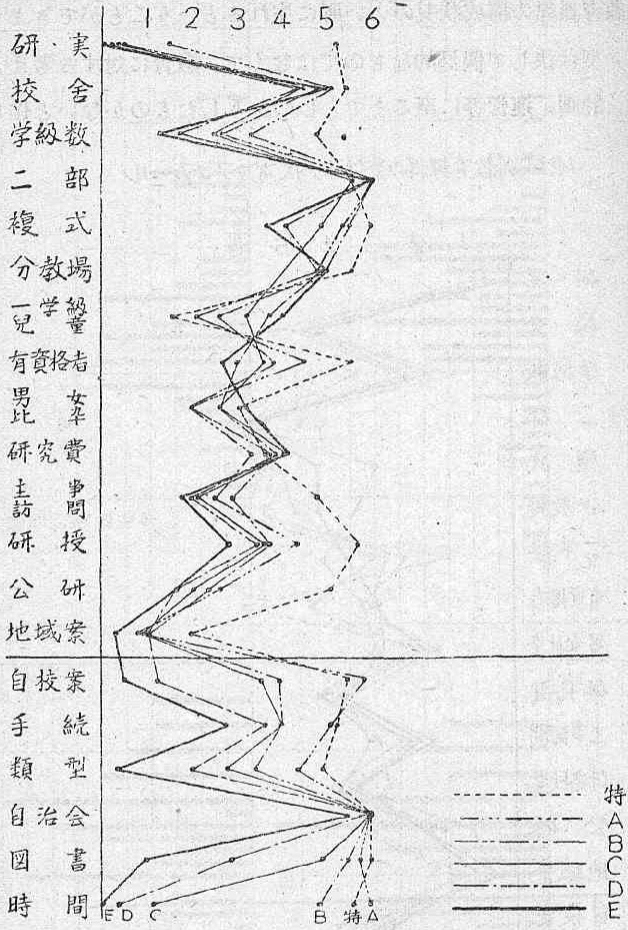


進歩的な教育課程であるとみた3型ほどその構成の状況はよく、3型の類型は教育課程の構成状況のよい所に生れるということができよう。したがって3型は決して偶然的なものではなくて、教育に対する考え方からその手続、計画、運営等に至るまで、しつかりしたものがないと作られないと

地域別教育課程の条件及び状況のプロフィール



段階別教育課程構成の条件及び状況のプロフィール



ということが言われよう。3型が生れるには相当の苦心と努力がいるということになる。

次にここに示したプロフィールは地域別・段階別に各項目の平均点を結んで地域ごと・段階ごとの全体的な姿を捉えようとしたのである。学級数と一学級の児童数の関係が、ちょうど逆の関係にあることは、両方の表の

上からもはつきりみとめることができる。地域別の方をみると平山村が有資格者、研究授業回数において他地域に優れていること、市部が有資格者においては一顧地を抜いているが二部授業が多く、また対外的な公開研究会の多い割に校内の研究授業回数が少なかつたり、手続のような全員で努力しなければならないしごとに見劣りが表われているのは市の教育課程の実態と合せ考えてうなづけることからである。(94~96頁参照)

次に段階別のプロフィールを見るとおもしろい結果が表われている。すなわち

(4) 自校案(教育計画)には(特、A、B)と(C、D)と(E)という三つのグループに分けて見ることができる。

(5) 類型では特からEまできれいな間隔で並び、構成状況のよいものほど類型は進歩的なタイプを示しているという3-④-(E)で明らかにされたことをさらに明瞭に示している。

(6) 時間の機動性の問題は特・A・BとC・D・Eとでは余りにもはつきりした差が表われている。構成状況のよくないところほど画一的固定的な生活時間の配分をやつているということになる。

(7) さらに全般的にこれを見ると、研究実験校、学級数、有資格者、研究授業、公開研究会、自校案、手続、類型、児童会、図書、時間配分等が大体特からEまで順序正しく並んでおり、主事等の訪問回数の項目が一部(AとB)逆になつていて、他は順序よく並んでいる。このことから、条件と状況を注意深く検討すると、学校における教育課程の構成は

- ・ 或程度教員のスタッフがそろわないといけない。

- ・ 学校の熱意如何が大きく影響している(研究実験校、主事等訪問、研究授業、公開研究会)

(7)のことが教育課程の構成にとって大きな決定的な事項としてくまに浮きでできた。先に条件と構成状況の関係を探つてはつきりしたものが把握されず、各項目以外の何ものかが構成状況に影響がある。それは何であろうという疑問にぶつかつたのであるが、それがここで曙光をみえた

したのである。

(例) そこでこのことについて、さらに確める意味において、学校の熱意に深い関係のある要素と見られるもの(研究実験校、学級数、有資格者、主事等の訪問、研究授業、公開研究会)を取り出して、それらの点数の合計と教育課程の構成状況との相関係数を出して検定してみた。

(教育課程構成の状況と
学校の熱意との関係)

熱意の要素	状況				
	E	D	C	B	A
29~32					3
25~28			6	2	1
21~24	1	5	4	8	4
17~20	1	9	9	11	2
13~16	5	20	29	18	6
9~12	4	16	15	9	3
5~8	1	4	2	1	1
1~4		2	3		

r=0.279247

その結果相関係数は 0.79247 となり、母相関係数 $\rho=0$ なる仮説のもとで検定したのである。そうすると、

F_0 を算出すると自由度 $n_1=1, n_2=203$ で

$$F_0 = \frac{0.279}{1-0.279^2} (205-2) = 17.1355$$

しかるに

$$F_{\frac{n_1=1}{n_2=200}} (0.01) = 6.70$$

故に

$$F_0 > F_{\frac{n_1=1}{n_2=200}} (0.01)$$

故に $\rho=0$ なる仮説は捨てられる。

すなわち両者の間に相関がないとは言

われないことになる。

したがって学校の熱意に深い関係のある要素の総合されたものと構成状況との間には相関がないと言われないという結論がここから生れてくる。

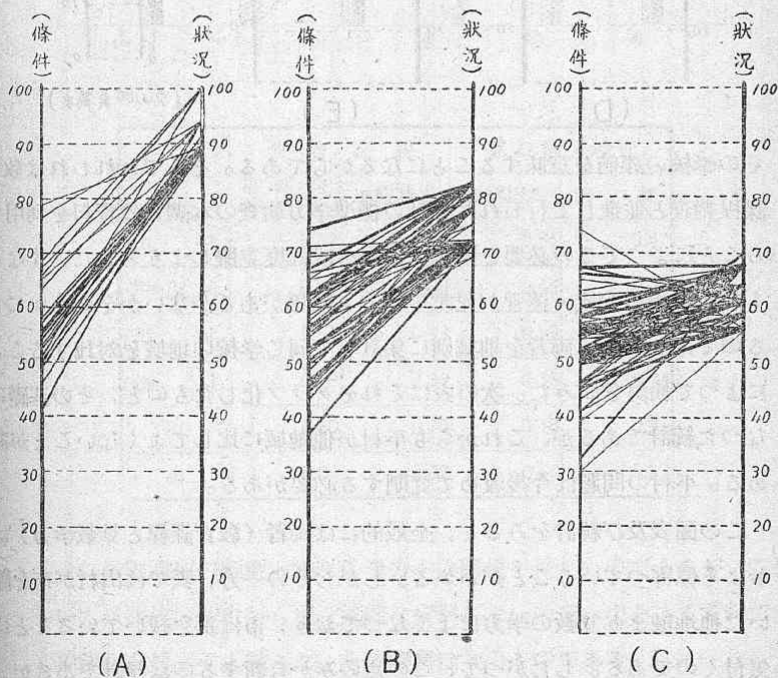
しかしここで熱意の要素を取り上げたけれども、それは一応どの学校にも通ずる客観的な要素としてあるものについてであつて、必ずしもこの要素がそろうついても、それらが総合されて教育課程の構成に意識的に働くとは限らない。それが熱意となつて燃え上がり働きかけたときにはじめてこれらの要素が構成にプラスしていくのである。したがって現在教育課程構成に影響しているものは何かということ突き止めるため

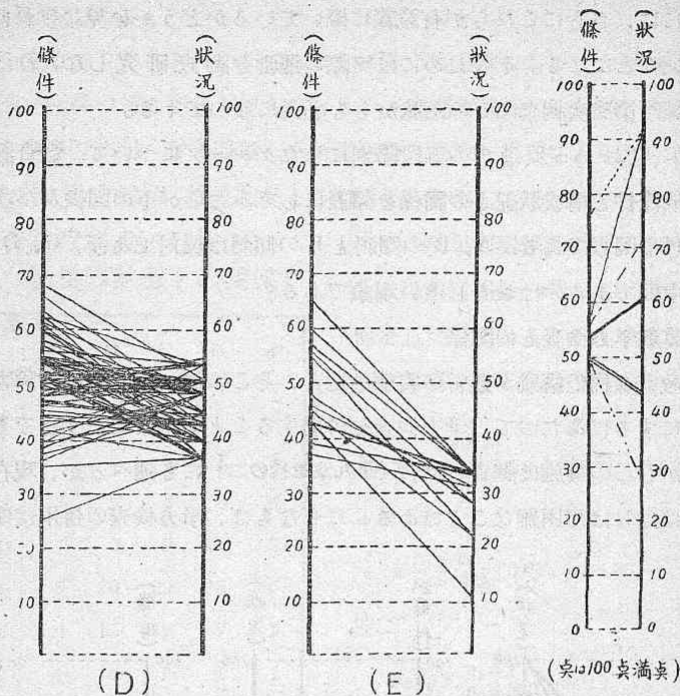
には、さらにこれらが有意義に働いているかどうかを見なければならぬことになる。そのためには実際の運営を調査研究しなければならない。第三次調査はこの意味からも必要になってくる。

(附) なお A～E までの五段階別にしたグループについて、教育課程の構成条件と構成状況との関係を図表にしてみたのが下の図表及び次頁における図表である。A、B の傾斜と E の傾斜は反対であり、C、D はその中間であるのはおもしろい現象である。

⑤ 算数学力検査との関係

教育課程の構成・運営の実態を把握し、そこに横たわる問題や障害を明らかにするにあたって、学力検査を併用することの必要は言うまでもない。しかしこの実施は調査の反省(第九章総括の二)にも述べるが、現在の段階でははなはだ困難なことである。なぜならば、学力検査の併用は明らかに

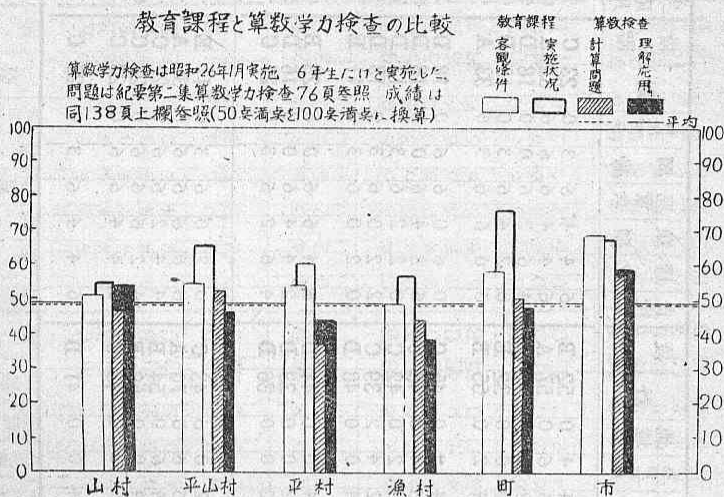




その学校の評価を意味することになるからである。そこでわれわれは教育課程調査と並進して行われた算数の標準学力検査の本調査の資料を利用することによつてこの必要と困難の矛盾を或程度克服しようとした。すなわち教育課程の構成・運営が児童の学力と関係があるかないかを明らかにするのであるから、両者を地域別に集計して同じ学校の地域を対比することによつて検討を試みた。次の表はそれをグラフ化したものと、その基礎になつた統計であるが、これからも平村が他地域に比してよくないことが読める。平村の問題は今後改めて究明する必要がある。

この図表及び統計をみると、全般的には両者（教育課程と算数学力）はおよそ似寄つていることがわかる。しかしその一方、表では山村が市を除いた他地域より算数の学力はよくなつており、市は郡を抜いていることに気付くのである。したがつて、この点のみから断ずるのは早計であるが、

教育課程の構成状況がよくないところは算数の学力も劣つていないことには言われないことになる。



層	教育課程		算数学力検査	
	客観的 条件	実施状況	理解応用	計 算
山 村	0.52	0.55	0.51	0.47
平 山 村	0.60	0.63	0.46	0.49
平 村	0.51	0.53	0.39	0.37
漁 村	0.49	0.35	0.38	0.44
町	0.60	0.70	0.48	0.51
市	0.54	0.62	0.59	0.57

次に教育課程の類型と算数の学力との関係を見たいのであるが、これについては先述の理由から現在適確な資料がないので、現在ある資料で一応この関係を見ようと試みた。その資料は次のものである。

教育課程と算数学力検査の比較表

層	学校番号	研究 試験 校舎	校 級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 学 級 数	有 資格 者	男 女 比 率	研究 費	主 助 事 等 開	研 究 授 業	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計	段 階	算 数			
																									算 用	計 算	平 均	
山 村	1	0	6	2	6	6	6	4	4	2	6	2	4	4	0	52	B	6	4	4	6	3	0	23	C	55	43	49
	2	6	3	4	6	6	4	4	2	2	6	4	6	0	57	A	6	4	4	6	6	6	6	32	C	63	64	63
	3	0	6	2	6	6	6	2	2	2	0	0	0	0	40	D	4	6	2	6	0	0	18	D	45	44	44	
	4	0	6	4	6	6	6	2	2	2	0	2	2	2	32	E	0	2	4	6	3	0	15	D	42	45	44	
	5	6	3	2	6	6	6	4	2	2	2	6	4	2	55	B	6	6	4	6	6	6	6	33	A	49	39	44
	6	0	3	2	6	6	6	2	4	2	6	2	4	2	0	45	C	0	6	0	6	6	0	18	D	35	38	37
	7	0	6	4	6	6	6	0	2	4	4	4	6	4	0	46	C	6	2	4	6	0	0	18	D	46	42	44
	8	0	6	2	6	6	6	6	6	2	2	0	4	2	0	42	C	0	2	2	6	3	0	13	D	74	61	67
	9	0	3	2	6	6	6	0	2	2	4	2	2	4	2	39	C	2	2	0	6	3	0	13	D	31	29	30
	10	0	6	2	6	6	6	6	4	2	4	2	4	2	48	D	0	2	0	6	6	3	0	11	E	52	52	52
平 山 村	11	0	3	2	6	6	6	2	4	0	2	4	0	0	41	D	6	4	6	6	0	6	28	B	63	54	58	
	12	0	3	0	6	6	6	2	6	6	2	2	0	0	41	D	2	4	6	6	0	6	16	B	59	61	60	
	13	0	6	2	6	6	6	0	6	6	2	2	0	0	36	D	4	6	2	6	3	0	21	C	44	53	48	
	14	0	3	4	6	6	5	0	6	2	0	2	2	6	43	C	0	2	0	6	3	0	11	E	48	61	55	
15	6	6	4	6	6	6	4	6	2	6	6	6	6	0	70	A	6	6	6	6	6	6	36	A	44	34	39	
16	6	4	6	6	6	0	2	6	2	6	6	4	6	0	70	B	4	4	2	6	6	6	22	A	46	54	50	
17	0	6	2	6	6	6	6	6	2	4	2	4	2	50	B	4	2	6	6	6	6	0	24	C	67	61	64	
18	0	3	4	6	6	6	2	2	2	4	2	6	0	43	C	0	4	4	6	6	6	0	20	C	35	34	35	
19	0	3	2	6	6	6	4	2	2	6	0	4	0	0	41	D	6	4	4	6	3	0	23	C	39	41	40	

層	学校番号	研究 校	校 舎	学級 数	二 部	複 式	分 教 場	一 学 級 数	有 賞 格 者	男 女 比 率	研究 費	主 訪 事 等 間	研 究 撰 案	公 開 研 究	地 域 案	計	段 階	自 校 案	構 成	類 型	児 童 会	図 書	時 間 配 分	計	段 階	算 数		
																										応 用	計 算	平 均
平 村	20	0	6	4	6	6	6	0	4	0	2	0	6	4	2	46	C	6	6	2	6	6	6	32	A	43	45	44
	21	6	6	4	6	6	6	2	4	0	2	2	4	6	0	46	C	4	4	4	6	6	0	26	B	41	39	40
	22	0	3	2	6	6	6	2	4	4	0	2	2	4	0	39	D	0	4	2	6	0	0	12	E	43	51	47
	23	0	6	2	6	6	6	2	2	2	2	2	2	4	0	40	D	6	4	2	6	3	0	21	E	49	38	44
	24	0	6	2	6	6	6	2	2	4	4	2	2	4	0	42	C	6	2	4	6	0	0	18	D	38	38	38
	25	0	6	2	6	6	6	6	0	2	2	0	0	4	2	40	D	0	2	0	6	3	0	11	E	37	33	35
26	0	6	2	6	6	6	6	6	2	6	0	2	2	0	46	C	2	2	2	6	3	0	15	D	43	36	40	
漁 村	27	0	6	4	6	6	0	0	2	2	2	2	4	0	2	36	D	2	4	0	6	0	0	12	E	39	47	43
	28	0	6	4	6	6	0	4	2	4	2	2	2	2	6	46	C	0	2	2	6	3	0	13	D	35	36	35
町	29	0	6	4	6	6	6	2	4	2	4	2	4	2	2	50	B	2	4	4	6	3	0	19	D	37	36	37
	30	6	6	2	6	6	6	4	6	2	0	2	2	2	6	60	A	0	4	6	6	3	6	25	C	52	60	56
	31	0	6	2	6	6	6	6	2	6	2	2	2	4	0	48	C	2	4	0	6	6	6	15	D	54	36	45
	32	0	6	6	6	6	6	6	4	2	0	4	4	4	0	48	C	6	6	6	6	6	6	36	A	57	54	56
	33	0	6	6	6	6	6	0	6	2	4	6	6	6	0	54	B	6	6	6	6	6	6	36	A	43	49	46
	34	0	6	6	6	6	6	6	2	4	0	0	2	6	4	50	B	6	6	6	6	6	0	30	B	43	48	46
35	0	3	4	6	6	6	6	0	6	2	4	2	6	2	47	C	0	4	2	6	6	6	24	C	46	43	45	
36	0	3	4	6	6	6	6	4	0	2	4	2	4	2	45	C	0	6	2	6	3	0	17	D	37	49	44	
市	37	6	6	6	6	6	6	0	6	0	0	2	4	4	0	52	B	2	6	4	6	6	6	30	B	57	55	56
	38	0	3	6	6	6	6	0	6	0	4	2	4	6	0	49	B	0	2	0	6	6	6	20	C	54	67	61
	39	0	6	6	6	6	6	0	4	0	0	2	6	0	0	42	B	6	4	6	6	3	6	31	B	42	44	43
	40	0	6	2	6	6	6	6	6	2	2	2	2	4	2	52	B	0	2	2	6	3	6	19	D	66	70	68
	41	0	6	4	6	6	6	6	0	6	0	2	4	0	0	40	D	0	2	2	6	6	0	16	D	69	68	68
	42	6	0	4	6	6	6	6	0	6	0	0	0	0	2	36	D	0	2	2	6	6	0	16	D	36	37	37
43	0	3	4	6	6	6	6	2	6	0	0	2	4	4	45	C	4	4	4	6	6	0	24	C	45	42	43	

この表は算数学力検査における本調査の結果についてのものである。すなわち算数学力検査の標準化のための検査実施校43校について、その学校の教育課程の実態と算数学力検査の結果を比較したものである。(但し算数学力検査は児童を対象に本県を代表するように抽出したので、その学校の平均値はその学校の学力平均を表わさない場合も含まれている。)この表によつて教育課程の構成状況、類型は算数学力の平均値とほとんど関係がないことがわかつた。

もちろんこの学校は教育課程調査を目的に抽出された学校でない。(教育課程調査を目的に抽出された学校と一致しているものは14校あり、その一つ一つについて検討した時も同じ結果が得られた)したがつて、上記の表よりの解釈を全般に及ぼすという速断は理論的には到底許されない。しかし両者の関係を見るためには、現在教育課程の調査と学力検査の併用が困難な状況において利用できるものはこれをおいて他にはない。このような条件においてこの表の解釈を利用したのである。とにかくこの表の解釈を、一応以上の立場から全般的な傾向を予想する資料に利用することが許されるとせば、教育課程の類型は教育課程構成の優劣が教師の熱意に左右されるという現在の状況においては、学力の優劣に特別関係がないようである。(厳密には学力の問題を算数の力のみから類推すること自体にも問題があると思うが)

したがつてこの予想に大きな誤りがないとすれば、学力低下の問題は教育課程の類型から速断されるべきでないことが言い得る。このことはさらに第三次調査の結果を総合すると一層明瞭になつてくる。

二 第二次調査の処理とその解釋

第二次調査はむしろ第三次調査の予備的な意味において、現場で悩んでいる問題を学校訪問によつて把えようとしたものであることはすでに述べたとおりであり、その問題の作成及調査の実施経過も第三章第四章及び第六章に詳しく述べてあるとおりである。

さてこの調査はわれわれが一応考えた調査仮設（第四章）に対して、現場の声はどうかということを実問・話し合いをとおして把え、調査仮設と対応させることによつて処理した。予算面や時間的な制約から、抽出校全体について当ることができず、地域的にかたよりのないよう考慮して数ヶ校を選んだのである。したがつて、この調査対象校が全県834ヶ校を代表するかどうかは多分に疑問として残るところである。しかしこの学校は一応地域別にも、学校の大きさからそれぞれ各層にわたるようにえらんだものであるから、これらの学校での問題が同質のものであるとすれば、この問題は各校で何らかの姿において悩んでいる問題と考えて差し支えなからう。しかもこの問題は第一次調査から集約される問題と照し合せて、第三次の問題作成をするのであるから、この意味において大きな誤謬をおかすことなく、むしろ第一次調査から出る問題の吟味という点で意味があると考えらる。

1 現場の声

とにかくこの調査から把えられた現場の声は次のようなものであつた。

- ① 教育課程の作成については、現職教育を兼ねて全職員から努力してもらつているが、次の理由でうまくいかない。
 - ・よい指導者がいない
 - ・時間の不足
 - ・資料の不足
 - ・職員の疲労
 - ・教育課程委員会の運営が困難だ
- ② 教育課程委員会は必要を認める。しかし事実上やれない。その理由は
 - ・スタッフに欠陥がある
 - ・委員の疲労が甚だしい
 - ・一般教師との懸隔がひどくなる
 - ・原理的指導者がいない小さい学校では委員会の必要なしとする学校が多くあつた。
- ③ 基礎調査も必要と思うが事実上なかなかやれない。机上でデッチ上げ

るか、他を参考として漸次訂正していく方法がせいぜいである。

④ 地域教育課程委員会の必要性。

しかし、会の持ち方、中・小学校の連絡、複式学校、各学校への報告の徹底、リーダーシップ、内容、計費、時間等に問題がある。

⑤ 教育課程の運営は各教師の力が不足している。

⑥ 単元の意味がはつきりしない。

⑦ 基礎学習の理解が不十分である。

⑧ 地域文化の遅滞現象について、学校の先進性(地域社会に対する)をどのように教育課程に組み入れるかについての考え方が不足している。

⑨ 児童会等の諸活動は考えがまちまちだ。

- ・ 単元学習と結びつける
 - ・ 自由研究としてやる
 - ・ 課外活動としてやる
- } 三つに分けることができる

2 その解釋

これをまとめると

① 教育課程の構成について、どんな組織でどんな手順でやつたらよいかについて悩みが多い。……1における①、②、③、④、⑧

② 教育課程の類型は各校でちがっているが、県の教育課程構成運営の模範校と目される学校は3型を望みつつ2型を実施し、その改造に努力している(これは問題として提示されたものでないが、話し合いの中から調査員が把えたことである)

③ 単元学習の意味がはつきりしていない。したがって単元学習の数を第一次で数的に処理しても正確性は疑わしいことになる。

④ 基礎学習の理解が不十分であり、いろいろの考え方で実施しているようである。第一次調査で把えられない内容的な問題が伏在しているようである。

⑤ 児童会等の諸活動も単に児童会をやっているかどうか、その組織はどうかという第一次調査では把えられない面がある。たとえば、他教科と

の関連や具体的運営については現場をみないとわからぬ問題が多い。

以上の解釈を第一次から集約された問題と照し合せて、第三次の現地調査の視点を確立したのである。

結局この調査で得た確信は、教育課程の構成・運営について、それぞれ問題は多少の違いはあるが、それらの問題の生ずる根本的な焦点（基底的な問題）はいずれも同じであるということである。したがってこのことから基本的な問題は大ていの学校においては変りがない。表面的にいろいろな問題は存在するが、その生ずる根底は同じである。この帰すべき根底を究明すれば、各学校の問題は把えられるということである。

三 第三次調査（現地調査）の処理とその解釋

第三次調査の目的・計画・実施等については、すでに第二章以下に章を追つて述べてきたのであるが、どんな経緯でこのようになされたかについて簡単にふれてから、ここで取り上げた調査の処理と解釋にはいりたい。なぜならば第三次調査のねらいを明確にして、或る視点からの角度づけをしないと、その焦点がぼけるおそれがあるからである。

第一次調査の結果処理と解釋を見てわかることは、教育課程構成の条件と構成の状況との関係は判然とせず、このことから教育課程の構成はその客観的条件が敏感に影響するとは言われないということ、及び教育課程の構成はその学校の熱意如何と深い関係があるということである。

そこで果してそうなのかどうかを実際についてたしかめる必要がある。

これが第三次調査がどうしても取り上げられなければならなかつた大きな原因である。

さらに第一次調査の結果から、もつと突込んで調査をしないとその判断に客観性科学性が薄くなると思われるものが相当あつて、第三次調査が取り上げられたということである。すなわち

1 第一次調査から集約された問題

- ① 平村がどうも教育課程の構成が予想外によくはないが、その原因は果し

て何であろうか。他地域と比較して劣勢なものは何か。

- ② 教育課程の手続きは一応やっている学校が多いが、類型・教育計画との関係は余り見られなかつた（特別抽出校には深い関係が見とめられる）。このことから手続きが果してその学校の教育にプラスしているかどうか疑わしく、手続きそのものの仕方やしかし方をもつと突込む必要がある。
- ③ 手続きの内容に問題がある。
- ④ 教育課程の類型は調査にあらわれたものと実際との間に食いちがいが予想される。
- ⑤ 学校の熱意如何と最も密接な関係のある教育課程の改善意欲については実際にあたってみないとどうも断定でき兼ねる。いわゆる学校内の雰囲気というもの調査票の上からは感じ取ることができない。
- ⑥ 単元学習の単純集計を見たり、学校の生活時程を照合したりして感ずることは「単元とは何をいうか」ということに対して教師の理解のし方が不統一であるということである。この点をもつと単元学習を實際参観したり、教師の考えをきいてみないと明確にならない。
- ⑦ 基礎学習については調査項目の不完全さから正しいものがとらえられなかつた。
- ⑧ 教科書の使用法は社会・理科・国語・算数で大体の傾向は把握できたが、この際理科の教科書使用が問題である。それは理科の単元が教科書使用の状況と照合してみると、どうも教科書単元でないかと思われるふしがあるといふことである。
- ⑨ 学校の熱意は教師のスタッフと関係があるように資料からもうかがわれるが、果してどうか。

以上の点を、第二次調査の問題点と照合して見ると（第二次調査の結果処理とその解釈参照）その間に表現は違つているが、内容的に一致している事実を読みとることが可能である。

その結果決定したのが第三次調査における調査視点である。（第四章調査項

目の作成(21頁参照)この視点には直接平村の実態を究明するとか、学校の熱意・スタッフをしらべる等のことは表明されていないが、調査する際に調査員が十分注意し、調査全体を通して感得するように心掛けたのである。

2 各項目の処理

① 集計一覽

調査の処理であるが、第三次調査は調査票でなく、直接現地の視察による調査のため、その読み取り方に主観がはいつたり、また幾人かの調査員の質問の仕方や読み取り方に個人差があつたりして、その科学性・客観性に大きな制約が加つてくるのである。この調査に客観性を持たせるためには調査項目の検討・質問法の検討と練習・調査員の見方考え方及び調査にのぞむ態度等によほどの慎重さと練習を重ねなければならぬ。

この点は時間と予算の許される範囲内に最大限に実施し、練習の結果判断がほぼ一致する程度(約82%~90%が一致する)までの見透しがついでから実施に移つた。しかも実施中も最初の六ヶ校(各グループ二ヶ校宛)は三つのグループに分けて演習も兼ねながらやつたのである。

したがつて、ここに出て來た結果は或程度客観性があると判断してもよいという自信がある。

しかしそれでもまだ不安だつたので、判断の根拠となつた資料をくわしく書いてもらい、それをもとにして調査後における調査員の話し合の会合を持ち、修正を加えてこの不安の除去につとめたものである。

その結果まとまつた判断の集計は次の通りである。

(教育課程構成の手續について)

	(+2) A	(+1) B	0 C	(-1) D	(-2) E
①構成手續が学校として組織をもつて研究されているか。	14	2	8	5	23
②それは教師の経験や観察が主となっているか。	33	3	7	1	8
③それは科学的客観的な研究にもとづいているか。	1	6	6	7	32
④地域の教育課題が何等かの方法でとらえられているか。	21	3	10	10	8
⑤児童の発達の特性が何等かの方法でとらえられているか。	9	0	13	12	18
⑥社会的必要や児童の特性が教育の全体計画に生かされているか。	5	3	13	11	20
⑦学習指導の中で社会的必要や児童の特性が生かされているか。	7	6	7	15	17

(教育課程改善について)

②教育課程改善への努力がなされているか。	29	5	5	4	14
----------------------	----	---	---	---	----

(単元学習について) (但し単元学習 基礎学習について下黒川校は調査せず)

①教師は単元学習に対して明確な考え方で採用しているか。	4	8	11	7	22
②教師が取り上げた学習課題は社会的必要と深い関係があるか。	14	5	12	10	10
③その課題は児童の自主的活動によつて解決されようとしているか。	2	6	11	7	25
④学習内容は地域的特色が配慮されているか。	12	6	8	7	18
⑤児童の問題解決が児童の生活問題に深い関連をもっているか。	7	5	10	5	24
⑥児童はその問題に対して自覚と見透しをもつて活動しているか。	6	2	13	7	23

	(+2) A	(+1) B	0 C	(-1) D	(-2) E
⑦教師は学習を刺激し、児童の自主的な学習を促進するような指導をしているか。	9	7	11	10	14
⑧学習は一貫した共通の目的でつらぬかれているか。	6	5	10	6	24
⑨児童の発達の特徴が考慮されているか(具体化の程度)	5	7	5	11	23
⑩問題解決に適切な教材が用意されているか。	16	3	14	7	11
⑪問題解決に適切な教材が豊富に用意されているか。	3	2	7	4	35
⑫問題解決に適切な環境が設定されているか。	7	4	11	10	19
⑬児童に適した新しい経験と知識が得られるように配慮されているか。	8	6	16	5	16
⑭能率的な学習が進められるように配慮されているか。	2	2	11	8	28
⑮教科書中心の学習が行われているか。	11	3	7	6	25

基礎学習(国語・算数)について

①教師は基礎学習に対して明確な考えのもとに実施しているか。	6	8	8	8	22
②その教材設定は生活に基礎を求めているか。	13	4	8	5	21
③児童の生長を意識して教科書の組替えをしているか。	7	3	3	7	31
④教科書の教材に学習の手がかりをもとめ、その発展を考えて教科書を取り上げているか。	12	5	6	7	21
⑤学級内に能力別グループをつくり、そのグループに適した教材の練習を意図しているか。	3	0	6	2	40
⑥ドリルの時間は課外に特設しているか。	3	0	7	1	40
⑦教材は当該学年の教科書にこだわらず児童の発達に適したのもをもつてきているか。	2	0	7	5	37

	(+2) A	(+1) B	0 C	(-1) D	(-2) E
⑧教材の応用練習はその教科の時間のみならず、単元学習や自治会等の活動の場でも取り上げているか。	9	4	8	8	22
⑨応用練習のための時間と教材を課外に特設しているか。	0	0	2	0	49
⑩教材は教科書に取材して練習しているか。	34	2	11	1	3

(児童会等の活動について)

①学校における日常生活が組織化されているか。	21	8	14	2	7
②自治組織のなかには各部があつて実践的に活動しているか。	15	8	10	8	11
③それは教師の指導のもとに自主的に運営されているか。	20	6	11	7	8
④それは学校生活の実質的な経営改善について積極的に活動し得るようになってきているか。	10	4	11	9	18
⑤自治会その他の活動と他教科の学習との関連が考えられているか。	9	3	10	11	19
⑥教師はこうした活動について明確な概念をもっているか。	12	12	8	8	12
⑦この活動で社会生活におけるしつけが積極的に考えられているか。	17	5	14	6	10

(以上52カ校—特別抽出校6カ校は除く)

上の表の数字は第三次調査の対象校の実数である。ところでこの数字はそのまま県下の実態を代表するものではない。しかし一応この数字から県下全般のおよその傾向をとらえることができる。このことについては第四章調査対象校の抽出のところでも明らかにされておりである。

② 以上のことからこの表を見ていい得ることは、

- a 教育課程構成の手続については、第一次調査の結果と照合して、やはり形式的には一応何か調査を実施しているが、それがはつきりした目的や構造を持っていないために、折角のものが教育の計画や学習指導

に生かされていないのである。たとえばこの点を質問すると「さあ、一応調査したりして社会児童の問題はとらえたんですがね。……その点になると……」といった答が多かつた。第一次調査で計画と手続との間に相関が見られなかつたのも、ここへくると明瞭になる。

b 学校は社会の要求・児童の問題を把えてその上に教育課程を構成しようとして意図してはいるが、職員のスタッフの問題や時間的な制約・激務による疲労等から、それがやれないでいる。また委員会を組織することは六学級以下の学校では困難である。したがって、構成手続等の基本的な大まかなものは、果または地域委員会等をつくつて示してもらいたいと要望している。

c そのために社会の要求や児童の問題の把え方は教師の経験・観察によるものが大部分で、科学的客観的な研究はなされていない。

d 特に児童の発達の特徴は把えるのが困難で、余りやつていない学校が多い。

e 教育課程改善への努力は半数以上の学校において十分感得できたのである。この点は本県小学校教育界の前途に明るい見通しが持てた。しかし努力は見られてもそれが能率的になされているかどうかという点になると、数はさらに半分くらいに減少する。しかもその学校に優秀な指導力をもっている教師がいると、その向上は顕著であり、そうでないところは努力の割に効果が上つていない現象が明らかに感得された。職員のほとんど大部分が高いレベルにまでなつており、かつその力が積極的に教育課程の改善発展に結集されている学校は、特別抽出校に数多く見ることができた。また職員全体から見るとそう高いレベルにはないが、この推進力となつている人に有力な指導者がいる学校もよい状態を示している。こうしたことから学校の熱意の問題は二三の有力指導者の存在如何に深い関係があると言ひ得る。このことは第一次調査での予想が適中していたということの立証とも見られよう。

f 単元学習については第一次調査の時に問題になった「単元の考え方がまちまちではないか」という疑問はそのままここで立証された。すなわち単元については

(イ) 児童の現実生活における切実な問題に対する意味ある解決のための経験の系列

(ロ) 学習経験の単なるまとめり（この意味ではまとめりでなく、雑炊式の寄せ集め）

(ハ) 知的教材のまとめり（つめこみが主となる）

(ニ) 各教科毎の教材のまとめり

(ホ) 教科書教材のまとめり

等さまざまな考え方があり、しかも一つの学校の内部においてさえも、この考え方に統一がないという状態が往々にして見受けられた。

g したがって新しい教育の立場から明確に単元概念規定をしている学校が比較的少く、またそれが方法的にも一貫している学校は少ない。すなわち、たとえ概念規定は一応しつかりなされているにしても、実際授業では児童の自主的な問題解決になつていないとか、地域性に立脚した児童の切実な生活問題が取りあげられてないとか、一貫した共通目的が自覚されていないとかいう現象が多い。

h 単元学習は児童の反省的思考も協同的計画的な思考が働かなければならないと思うが、そのための豊かな教材や適当な環境が設定されていない。また教師のその単元に対する明確なねらいやその学習への準備・事前研究があるそかになつている。そのために押し付けやつめ込み（インドクトリネーション Indoctrination）が多くなり、教師優位の問題解決学習となつている場合が多いのである。これは授業記録からもはつきりあらわれていたし、教師の反省にも「どうも児童が動かないので教え込んでしまう」という声が出ています。

i 学習の能率化ということについても、その学習の目的的な立場から、また指導技術の立場から、もつと突込んだ教師の研究の必要が痛感さ

れた。

j 理科は半数以上が教科書に従つてやり、教科書にとられている単元をそのまま単元としている。(第十五の項目)したがつて理科の学習では一時間一時間の学習には興味を示しても、児童が計画的に学習を發展させ進めていくという態度が社会科の場合よりさらに薄い。

k 基礎学習に対しては、教育の全体計画の中に明確に位置づけて、これを取り扱つている学校が少ない。とにかく必要なだから教科書にしたがつてやろうという傾向が強い。したがつて、教科書教材の系列は尊重するとしても、その内容の組替えや個別的な能力別グループによる教材の工夫はあつてしかるべきのものが、一向行われていないなどはこの立証と言われよう。

l 能力別指導はその指導法のむすかしさからこれを行つていない。中にはこうしたことに一向無頓着な学校もかなりの数にのぼつている。

m 練習教材はその授業時間内に配慮されている学校が大部分である。このことはこれで問題はないとしても、この練習教材が毎日多少の時間をこれに当てて継続的に、しかも反覆練習をするという形態におかれているかどうかについては疑問が残された。それは質問に対しては毎日少しづつやつていると答えられる学校が多いが、第一次の調査票の生活時程のところではそれが余りはつきり見受けられなかつたからである。しかし学力低下の叫ばれている今日、各学校でこの点について努力している事実は十分感得できた。少くともこれが世評にこたえて彌縫的に実施されるというのでなく、本質的に考えられ、明確な考えのもとに実施されることがのぞましいのである。

n 単元学習や日常の学校生活と基礎的技能の学習との関係が十分考えられ、その適用の場として、或は学習のきっかけとして単元学習や日常の学校生活を位置づける努力が不足しているように思われる。

o 児童会等の諸活動については、その組織化は多くの学校で眞剣に考えられていることは喜ばしい。しかしこれが単元学習や基礎的な学習の

基盤として位置づけられているかどうかという点では、ややその努力が足りないと言わないわけにはいかない。

とにかく児童会等の諸活動は他の四つの視点から見た内容に比較してどこの学校もよくやっていた。これは第一次の調査票による処理でもこの結果がでている。たゞ第一次の調査からはほとんど大部分が児童会の運営を考えて努力しているように見えたが、実際ではその努力や実施の内容に多少の差があることが明瞭になった。

以上のことは、現地調査における細かい質問や授業参観記録の結果を整理するために、いくつかの項目に分けて判断したものの集計についての解釈である。ところでこの判断はさらにはじめ確立した五つの視点（教育課程構成の手続・類型・単元学習・基礎学習・児童会等の諸活動）について、それぞれ総合的に判定するときの目安として設けたものである。すなわちどんなに細く質問して調査したとしても、それをいきなり一つの視点にまとめて判定する場合には、その判定のための資料を整理しない限り、主観が強くなり込んだり、一方に偏向する危険性が多い。そこでこの判定をできるかぎり客観化するために、目安としての中間的な判断の項目を設けたのである。

3 調査視点に対する総合判定の結果

五つの視点に集約して総合判定した結果はどうであろうか。この点については次の表をみて頂きたい。

現地調査における総合判定

各学校別集計

地 域	学校 番号	第一次 調査に よる構 成状況	構成 手続	教育課程の改善			児童 会等	単元 学習	基礎 学習	備 考
				現在の 類 型	改善の 努 力	将来の 類 型				
山 村	104	2 C	0	1	D	1	1	1	1	
	111	2 C	1	1	A	1	1	1	1	
	118	0 D	2	1	A	1	2	2	1	
	113	1 D	0	0	E	1	0	0	0	
	124	1 A	0	0	C	1	1	0	0	

地 域	学校 番号	第一次に 調べる構 成状況	構成 状況	教育課程の改善			児童 会等	単元 学習	基礎 学習	備 考	
				現在の改善 類型	の改善の 努力	の将来の 類型					
山 村	130	1 C	1	1'	A	2	1	0	0		
	127	1 E	0	1'	C	2	0	1	0		
	139	1 D	0	1	D	1	1	1	1		
	137	1 D	1	1	A	2	2	2	1		
	136	1 B	0	1	A	1	1	2	1		
	146	0 D	0	1	E	不明	1	1	1		
	155	2 B	0	1'	E	1	0	1	0		
	149	0 E	0	1	A	2	1	1	1		
	164	1 B	0	0	E	1	1	0	0		
	166	1 C	0	1	A	2	0	1	0		
							(に近い)				
	171	2 C	0	1'	D	1	1	1	0		
	174	2 D	0	1'	D	不明	0	0	0		
	176	0 E	0	1'	E	0	0	1	0		
	182	2 C	0	1'	E	0	0	0	0		
	180	2 D	0	1	B	1	0	1	0		
	184	2 B	1	2	B	2	1	2	1	(21)	
	平 山 村	204	0 E	0	0	E	無	0	0	0	
		206	1 C	0	1	C	1	1	1	1	
219		1 A	1	2	A	3	1	2	2		
216		2 B	1	1	A	2	1	1	1		
222		3 B	0	1'	A	2	1	1	1		
225		2 C	1	2	A	2	1	3	1	(6)	
平 村	306	2 C	0	1	B	2	1	1	1		
	305	1 D	0	1'	E	1	0	1	0		
	310	0 C	1	1	A	2	1	1	1		
	308	2 D	0	1	C	不明	1	1	0		
	332	0 D	0	1'	E	不明	0	1	0		
	319	1 C	0	1	E	1	1	1	1		
	326	2 B	2	2	A	2	2	2	1		
	320	1 D	0	1'	E	2	0	1	0		
	343	3 A	2	3	A	3	2	3	2		
	339	1 B	0	0	C	1	0	0	0		
	344	3 B	1	2	A	2	0	2	0	(11)	

教育課程現地調査

地域	学校 番号	第一次 調査に よる成 況	構成 状況	教育課程の改善			児童 会等	単元 学習	基礎 学習	備考
				現在の 類型	改善の 努力	将来の 類型				
漁村	402	0 E	0	0	E	0	0	1 (0に近い)	0	この上では整って いるが学習意欲で は不安(無理) (3)
	410	1 D	1	3	B	3	1	2		
	412	2 C	0	1	E	1	0	2	0	
町	502	1 A	2	1	A	1	2	2	1	
	505	1 D	0	1	E	不明	0	1	0	
	508	1 B	0	1	A	2	1	2	1	
	509	2 B	2	1	A	3	2	2	1	
	511	3 C	0	1	A	1	1	1	1	
	515	2 A	0	1	A	2	1	2	0	
	519	2 C	0	1	B	1	1	2	1	
市	608	3 B	1	2	A	3	1	2 (社~3)	0	(4)
	610	1 C	1	1	A	1	2	3	1	
	611	0 C	1	1	A	1	2	2	1	
	613	2 B	1	1	A	3	2	2	1	
特別抽出	9	3 A	2	3	A	3	1	3	2	2 Bに近づいている
	8	2 A	1 (2に近い)	2	A	2	2	3	2	
	15	3 A	2	2	A	3	2	2	1	
	4	3 A	2	3	A	3	2	2	2	
	6	2 B	2	3	A	3	2	3	2	
	7	3 A	2	3	A	3	2	2	2	

(凡例) 判定基準

構成状況	類型	児童会	単元学習	基礎学習
0..教師の経験や観察で一応考えた	0型..教科書教育のみ	0..従来の補充的課外活動	0..教科書教育	0..教科書教育
1..地域の課題や発達の特性がある組織のもとでとらえられている	1'型..社単元他は教科書	1..新しい自主的な生活全体の組織化の考え方が見られる	1..単元をつくつてやっつけているが問題解決になつていない	1..教科書中心に経験的な学習法を取込んでいる
2..それが更に全体計画や学習指導に生かされている	1型..各教科単元とする	2..それが運営面にも明確にわかる	2..教師優位の問題解決である	2..基礎的技術の習得という立場で取上げている
	2型..社理を生活単元		3..児童の自主的な問題解決である	
	3型..単元基礎等の明確な領域を考えて経験の統合			

改善の努力の欄におけるA.B.C.D.E.は五段階に一応評価したものである

現地調査における総合判定の集計

構成手続	教育課程改善方向	児童会等	単元学習	算数国語
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の経験や観察で一応考えた ・ 地域的課題や発達の特性がある組織のもとでと ・ それが全体計画や学習指導に生かされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明 ・ 教科書教育の教育課程 ・ 各教科単元による教科別教育課程 ・ 単元基礎等に明確に領域を考えた経験教育課程 ・ 社理中心に生活單元他は一応関連を考えた(非單元)教科別教育課程 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従來の補充的課外活動 ・ 新しい自主的な生活全体の組織化の考え見られる ・ それが運営面にも明確にわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書教育 ・ 単元はつくつてはいるが問題解決になっていない ・ 教師優位の問題解決である ・ 児童の自主的な問題解決である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的技術の習得という立場でとり上げている ・ 教科書中心に経験的な学習法が入り込んでいる ・ 教科書教育
六三・五% 二六・九% 九・六%	一一・五% 五・八% 四〇・四% 三〇・八% 一一・五%	三二・七% 五〇・〇% 一七・三%	一五・三% 四六・二% 三二・七% 五・八%	四六・二% 五〇・〇% 五・八%

この表で地域的に比較検討することは、次の理由でやらなかつた。すなわち、第三次調査は予算その他いろいろの制約のために、205校について全部の現地調査が不可能となり、地域・教育課程の構成状況・類型等の条件を附してグルーピングし、そこから52校を有意抽出したものについて実施した。したがって、52校が厳密にそれぞれ各地域の代表として、地域別に処理することは困難である。ただし第一次調査から生れた問題の実証的究明(裏付けと掘り下げ)は、県全体の立場からは一応傾向としては把握することができるという理由からである。

① その処理と解釈

次にこの表からは次のことが言える。

- a 教育課程の類型は第一次調査の結果と第三次調査の結果に相当の開きがある。今類型を百分率にして第一次調査と第三次調査を比較してみ

ると次の通りになる。(もちろん厳密に言つて第一次調査と第三次調査は、抽出の方法も異なり、調査校の実数にも大きな開きがあるため、この百分率を同断することはできない。しかしおよそその傾向として把えて解釈するのである。)

	0 型	1' 型	1 型	2 型	3 型
第一次調査	16.59%		39.52%	34.15%	9.76%
第三次調査	11.54%	28.85%	46.15%	9.62%	3.85%

第一次調査のところでも述べたのであるが、教育課程の類型は調査票によると、No.2及No.3とNo.6(小)とで食いちがいのあるものがあり、どうも正確な数字としては疑問を懐かざるを得なかつた。そのため第三次調査で現地の実地の運営を見てそれを確かめようとした。その結果あらわれた数字が上表第三次調査の百分率である。したがつてこの表から、教育課程の類型は最初懐いた予想はそのまま証明され、実際には2型・3型とも調査票にあらわれたものよりも少なく、10%以内の僅少な数になつてゐることが言える。

また第一次調査の上からは判別することのできなかつた1'型が、実際には30%近くの数字を示している。このことは第三次の現地調査を通さないと出てこない型である。すなわち、社会科・理科は教科書を使うが、一応単元学習をやつており、他の教科は教科書によつて進めているという類型である。

以上教育課程の運営においては、2型・3型は案外少なく、各教科別に単元を設けてそれぞれのコースで指導する教科別教育課程と教科書中心の教科別教育課程が、数において絶対度数を占めているということが出来る。分教場をはじめ僻地と言われるところに特に多い。したがつて本県の教育課程の実際は全般的に多くの学校が進歩的な類型で構成され運営されているとは言い難いということになる。

b しかし教育課程研究については高い意欲を示しており、各学校の指導的地位にある教師は高い水準に達しているということは、「教育課程改善への努力」についての集計からも、また現地からうけた印象や提供された資料からも十分察知することができた。

また教育課程改善の方向についての集計からも1型が40.4%、2型・3型が42.3%を占めており、大体の傾向として進んだ類型に一步一步着実に進まうとしている。このあたりに越後型の地味な姿をうかがうことができる。

c その他構成手続・児童会・単元学習・基礎学習については先に述べた解釈と同じ結果が数字の上からうかがわれる。児童の充実せる発展に対する努力と工夫はこの面からはきわめて少ない。

d 地域プランは第一次調査実施と第二次調査実施との間にその処理や計画のため約七ヶ月の間隙があつたため、第一次調査の時はできてなかつたが、第三次調査の時は完成していた地域があつた（西頸城郡）。

全般的に地域プランは各学校の教育計画に生かされてないところが多く、「地域プランをどう生かしたらよいか悩んでいる」という告白が相当あつた点は注目を要する。また自校の計画のできていない理由として、「地域プランができたならそれを基礎としてつくる」という学校も一・二ヶ校でなかつたのであるが、これと第一次調査の集計とを合わせ考える時、これは相当の学校について言われることのように思われる。もしそれが事実であり、しかもそれが相当数あるとすれば、地域プランにも重大な責任があるし、学校管理の上にも大きな問題があることになる。

② 現地調査を通じての総合的な印象

以上第三次調査の処理とその解釈について一応結論的に述べたのであるが、全体を通じて現地を訪問した際に受けた印象は

a 各学校共に教育課程の構成運営について深い関心と意欲をもち真剣な研究がなされている。

- b しかし指導者に有力な者を得ないと、理論は空転し、実践は深まらない。そのために非能率的な時間と労力の空費が相当見受けられる。
- c 小さい学校は事務的にも研究面においても一定の限度まではほとんど大学校と変わりなく、そのために教師の時間的・労力的な負担は非常に多く、これが教育課程の成果の上に大きな影響をしている。しかしこれが第一次調査の上ではつきりあらわれなかつたのは、結局指導者の存在の有無がより大きな条件としてこれを被つてしまつてゐる結果である。すなわち有力な指導者のいる学校は小さくても教育課程の構成に大きな成果を上げているし、存在しない学校は大学校でも理論が空転し実践が深まつていないのである。
- d 各学校で持つてゐる問題は、地域的に或は学校の大きさによつて大した差異はなく、本質的には同じ問題を持ち同じ隘路に悩んでいる。ただ複式をもつ学校・分教場等の僻地地方や小さい学校に悩みは深刻である。
- e 県或は都市・町等で一応の基準的な資料を整えてやらないと、教育課程の改善は能率的に進まない。それほど教師には時間的余裕もなく、研究資料もなく、そして教師は迷つてゐる。
- f 単元学習・基礎学習を通じて、児童の学力を充実し、眞の意味での経験の発展を期する努力と工夫が足りない。学力低下の問題は此処に大きな原因が存在すると思われる。

第八章 調査に要した用費

総額	340,655円
内訳	
1 会合費	2,000円
	本調査について所員、兼任所員全体会議2回に要した費用。
2 調査旅費	96,510円

第二次並に第三次調査に要した調査員の旅費総額。

第二次調査	12,425円	
調査員 3名		
第三次調査	84,085円	
予備調査 3名 3回	12名 1回	1,633円
本調査 11名 (58校)		82,452円
3 研究連絡費		26,496円
国立教育研究所との諸連絡。		
東京連絡旅費	2人 2回	
4 消耗品費		2,290円
集計整理用紙	グラフ用紙	新潟県白地図等。
5 印刷製本費		213,359円
調査用紙	整理カード	報告書等に要する経費。
第一次調査用紙		10,564円
整理カード		1,295円
中間報告書		1,500円
報告書		200,000円 (予定)

費用総額34万余円の中、報告書の費用20万円を除くと14万余円となり、それが本調査に要した費用である。14万余円の中9万6千余円が調査旅費であるが、その大部分は第三次の現地調査の費用である。研究連絡費の2万6千余円は第一次調査が、国立教育研究所の調査と同じであつた爲に、その結果処理についての打合せ、第三次の現地調査についての連絡等の爲である。其の他の費用の比較的僅少であるのは、調査計画並に調査諸準備、調査結果の処理等を主として教育課程研究室で行つたからで調査の規準・内容が小さいのでないことは、今まで述べてきたところで諒解されるとおりである。

第九章 総括

一 要約

これまで各調査毎にその処理の結果について、われわれの解釈を述べてきたが、これらを要約してみると次のようになる。

1 教育課程の管理上から

- (1) 地域的に教育課程の構成状況を見た場合、山村、漁村が一番低調で、平村がこれに次ぐ。また平山村は平村よりよく、市は構成条件の割によくなつていない。したがって町が地域的に見た場合一番進んでいる。
(第七章一を参照)
- (イ) 山村・漁村は学校も小さいし、教師の質にも問題がある。その上地域の文化的な遅滞現象が教育課程に大きく影響しているようである。
(第一次・第三次調査より)
- (ロ) 平村については、校舎・教師の質等も平山村より見劣りがする。構成状況はEの段階に属するものは少ないが、Dの段階が多いために全般的にならずと悪くなつていく。(第七章一参照)
- (ハ) 平山村は全体で平村より良くなつていくが、部分的に見るとA・BとEの段階が多く、Dが少ない。すなわち良いものも多いが、一番悪いものも多いという状態で、平村と比較すると逆になつていく。
(第七章一・三参照)
- (ニ) 町がよいのは、学校がおおむね一町一校とまとまつており、しかもその郷の中心校的立場の学校の多いことが、学校の刺戟となり大きく影響しているように言える。(第七章一参照)
- (ホ) 市の場合をこの度の調査の結果からのみ言えば、一学級の児童数が非常に多いこと、対外的の行事や雑務が多く、そうした事柄に追われ勝ちであること等のことが考えられる。しかし条件が他地域に比して優れているに反して構成状況の余りよくないのは、以上の事項のみか

ら速断すべきではなく、もつといろいろの角度から総合的に特に調査しなければ明らかにされないことであろう。(第七章一参照)

- (2) 教育課程の問題や隘路は教育課程研究の内容面の他に、教師の配置・現職教育・研究組織・研究時間・資料面等の管理上にも大きく存在しておろ、しかも地域的な差は認められない。

(第七章……一の2.5, 二の三の2.3を参照)

- (3) 教育課程の構成には、現在のところ客観的條件が敏感に影響するといふことは言われない状態である。このことは特別抽出校と一般の抽出校との間に、教育課程の構成上に大きな差のあることでもはつきりわかる。こうしたことから、教育課程の構成は学校の熱意如何が大きく影響していることがわかる。(第七章の一参照)

- (4) 学校の熱意如何の問題は、さらに資料によつて検討すると、校長はじめ有力な指導者の二・三がいるかないかにかかっている。

(第七章一の5及三の3参照)

有力な指導者をもち、しかも熱心な学校は、教育課程の構成がよいと言うのは一面当然の結論ではあるが、これは必ずしもそのまま承認されない問題である。なぜならば、多くの教師の素質が平均して向上しているならば、構成状況は客観的條件にこそ大きく影響されても、教師の異動で盛衰を生ずる不安定さは無くなるはずで、これがより望ましい姿であろう。

- (5) しかし、教育課程の研究改善は全般的に関心があり、旺盛な意欲を認めることができる。ただ指導者に適当な人がないために、実践の深まりが足りなかつたり、理論が空転している事實は、先に述べたことと関連して重大な問題である。(第七章二及三参照)

- (6) 教育課程の類型については、進歩的な類型と保守的な類型とが同一地域に同居していて、地域的な差は認められない。概して三附屬及びその他の中心的な学校を核心として交通路等に沿いながらその影響力が延びており、伝播経路もうかがえる。(第七章一及三参照)

- (7) 地域プランを勸奨し指導してきた教育委員会の実績は着々上げられて

いる。ただ次の二点に問題がある。(第七章三参照)

(イ) 地域プランを各学校の具体的教育計画への生かし方

(ロ) 地域プランの完成を待つて、自校の計画を控えている学校がある。

- (8) 教育用語における概念上の混乱もあり、全般的に「どうしてよいかわからない」という混乱に悩んでおり、なんとか県で基準になるものを示してほしいと言う要望が強い。(第七章二及三参照)

2 教育課程の内容面について

- (1) 教育計画については、社会科は一応単元の設定から指導計画等について完成している学校が60%余りで、全体計画についてはできていないというところが多い。(第七章一の1参照)

以上のことから、社会科については新しい教科である上に教科書もなかつたため計画もつくつたが、他教科は省みる機会が全般的に少なかつたと言われよう。——学力低下の原因に対する或一面がうかがわれる。

- (2) 教育課程構成の手続きは組織的・科学的な手法が採られていない学校が大部分である。社会的必要や児童の問題を把える調査等についても、もつと計画的・構造的でなければならないし、教育計画の上から重点的に行われなければならない。思いつきとか、単なる主観的な経験や観察とかでは、真に児童の成長発展のための教育計画はつくられないと言つてよいであろう。全体的に児童のレイネスを把えるための努力が十分なされる必要がある。

- (3) 教育課程の類型では、2型・3型が合計して10%前後であり、各教科単元学習と言う1型が非常に多い。この点はその後文部省の考えも変つてきているし、実際実施してみてもの強い反省もあり、十分自校の実践について反省検討し、他校の声にも注意深く耳を借して創意工夫をすべきである。なお僻地と言われる地方になると、教科書通りにやつている学校も少くなく、これは十分注意しなければならない問題であろう。

(第七章一及三参照)

- (4) 教育課程の内容的改善のために、研究授業は焦点をはつきりさせて、

その研究の本質に突込み、眞の意味での研究に役立つように計画され運営されなければならない。そうした時に類型の改善も、この面から推進されるようになるであろう。このことは研究授業の回数と類型との間に相関関係のないことや、教育課程の構成・運営の実際から立証される。(第七章一及三参照)

- (5) 単元学習については、単元概念規定が明確でなく、学校内部においてさえばらばらなところがある。(第七章三参照)
- (6) 理科においては特に教科書単元が多く、児童の問題は直接解決されるように計画されていない場合が多い。(第七章一及三参照)
- (7) 一般的に問題解決のための単元学習は、児童の自主的自発的な動きが低調で、インドクトリネーション (Indoctrination 教え込み) による知識の伝授が多い。この点は大いに反省され検討される必要がある。(第七章三参照)
- (8) 基礎的技能を身につける国語・算数については、その教科の性質や目的から本質的に検討されている学校が少く、教科書に依存している場合が多い。また学習指導法にも能力別指導とか、反復練習の機会や指導とかについて、特別の工夫が考慮されている学校が僅少であるが、学習指導計画も教育の全体計画の上から正しく明確に位置づけられる必要がある。(第七章三参照)
- (9) 教科書使用は国語・算数の場合は一般的に圧倒的で、理科は中・高学年がぐんと多くなっている。(第七章一参照) この際教科書を使用する或は使用しないということは問題ではない。たゞもつとその使用に計画性と機能的な位置づけがほしい。一般に教科書があるから使用するという傾向が見受けられる。(第七章三参照)
- (10) 一般的に学習指導において、教師の事前準備と教材の研究が不足しているのは大きな欠陥である。(第七章三参照)
- (11) 児童会その他の諸活動は、児童の自主的な生活全体の組織化をねらって努力している点はよく見受けられるが、実践はなかなかそこまで深ま

つていない。(第七章三参照)

以上管理面・内容面からその要約を試みたが、全般的に教育課程の構成・運営について各学校・各教師の眞剣な努力が見受けられたことは、本県教育の向上のために喜ばしく力強く感じられた。しかしさらにこれを有効に推進するためには、考えなければならない幾多の面があると言われよう。今この要約をさらに総合して見るならば次のように言われよう。

- ・新教育の徹底は或一部の熱心な研究的な学校において見受けられるが、多くの学校においてはまだその滲透度が薄く、知的教材主義的教育が多く行われている現状である。
- ・教育課程の構成・運営は進歩的な類型の学校が全般的によいと言い得る。そして教育課程の研究は進歩的な類型をもつ学校が全般に積極的である。
- ・教育課程の構成運営は学校の熟意如何に深い関係がある。
- ・「子供のよりよき成長」は、表面的でなく本質的な究明と実践が行われる必要がある。
- ・教育課程の問題はまだ一人一人の教師の問題として自覚されていない。
- ・そのことは結局、教育課程の構成・運営は学校行政管理の面に根本的な問題があると言うことになる。
- ・さらに算数の学力検査を一方でやつて、地域的に比較検討した結果、第七章で述べた条件のもとでは、算数の学力は教育課程の構成、或はその中の類型に対して深い関係をもつていないという予想が成立する。この予想は第三次調査の結果と合わせ考えると、必ずしも速断の予想でなく或程度立証される。
- ・したがつて学力低下の問題は、教育課程の類型からは何ら結論的なものは出ていない。
- ・新教育と学力低下は別の問題で、学力低下はもつと他の角度から総合的科学的な究明がなされる必要があるろう。
- ・教育課程の研究改善には、もつと教師の自主的積極的な態度が要請され、方法的には実証的科学的なそして客観的な手法が必要である。

二 調査の反省

この教育課程の実態調査は第一次・第二次・第三次にわたり、その開始から処理完了まで約十ヶ月を要し、報告書の作成までいれて総計費は三十数万円を要したものである。報告書作成の出版印刷費を除けば十数万円で、岐阜県におけるものよりも要した費用は少なく規模も小さい。しかしねらっている内容は決して小さいものではなく、そのために多少無理をした点があつたのは見逃せない事実である。またこうした調査は本県としては最初のことであり、多くの困難が伴つたのである。今調査を終えてこれを反省してみるといろいろのことに気付くのであるが、その主なるものについて项目的に記して参考に供したい。

1 調査の方法

- (1) 調査対策は県下小学校 834 校で、第一次調査では層化無作為抽出法によつて 205 校を抽出し、他に参考として抽出からもれた学校から特に実績を上げている有名校 12 を選び、それに新潟・長岡・高田の三附属小学校を加えて特別抽出校とした。この無作為抽出校については、産業構造・有資格者・性別（複式・分教場についても）等で検定し、これを県全体と抽出校について全数に対する比率を比較すると、その誤差はいずれも 1% 内外であつた。この点第一次調査の抽出は成功したものとつてよい。たゞし第二次・第三次調査においては予算の関係から数が限定され、有意抽出によらなければならなかつた。この抽出にあつては調査の角度を明確にして、それに必要最少限の制約条件を附して選んだのであるが、52 校では地域別にそれぞれの代表と見るには余りにもその数が少く、県全体の立場からおよその傾向を把握することにしか有効でなかつたのは遺憾であつた。
- (2) 第一次調査は調査票による紙上調査であるために、どうしてもそれを確かめ且深めるためには現地調査が必要なのであつて、この点最少限ではあつたが予算の獲得ができて実施し得たのは成功であつた。しかも第

三次の現地調査が予算の上から数に制限があるので、果して何ヶ校について実施した時におよその傾向が把握されるか、その見透しを立てる必要があり、その如何では予算の上から現地調査も不可能になるかもしれない。ところが第二次調査としてその問題の種類や所在について予備的な問題調査を実施することにより、50ヶ校前後でおよそ所期の目的達成は最少限できるという見透しが得られたことは、第三次調査を実施するに当つて大きい安定感を得られた。しかも第一次調査からの問題がこの第二次調査で立証された点も、第三次調査の調査視点に客観性を与える重要な資料となつたのである。

- (3) 本調査実施にあつて学力検査は有力な資料となることは言うまでもない。本県では本調査と並行して算数について学力検査を実施した。しかし最も有効なのは本調査実施校に同時に学力検査を実施してみることなのであるが、それは県下の実情として到底やれなかつた。なぜならば、学力検査を実施することによつて、学校評価の色彩が濃くなり学校の協力は得難くなる。そこで学力検査については実施校について地域的に集計し、教育課程構成の地域別集計について同じ地域のものに対比して検討することにした。
- (4) 第三次調査の調査員ははじめ指導主事も含めて二十数名を予定したのである。しかし指導主事は東北七県の小学校幼稚園教員のワークショップその他の用務多忙のため全面的に参加が不可能となつた。その結果調査員は十一名にせざるを得なくなつた。
- (5) 調査結果を全く一致させることは甚だ困難であつた。ある事柄をこの十一名で判定するとき、その判定がほとんど一致する確率にまで引上げるためには、もつと早くから計画的に演習を重ねる必要があつた。しかしそれはそれぞれ用務をもっている関係上到底不可能なことである。理想的にはこの仕事を担当した牧田・日浦、両所員で時間をかけて全部調査すれば完全になつたことである。
- (6) 第一次調査は九月第四週で、第三次調査が翌年の五月であつた。これ

は予算の都合上からも、処理が前記の二所員で人数が僅少である点からも止むを得なかつたことであるが、できれば同じ年度内にやるべきであつた。年度がちがひ時間的に相当のずれがあつたために、第三次調査では相当修正する必要にせまられた。第三次調査でその正確性・客観性を期すために、調査終了後調査員の話し合をもつて、判断の調整をはかつたこと、調査票に判断の根拠となる事項を具体的に記入してもらつたこと、授業の細かい記録をとつてきて、後でこれについて検討が加えられたこと、調査校の全職員から授業案を提出して頂いたことは、非常に効果があり、後で疑問になつたり問題を生じた時の有力な資料となつて活用されたのは成功であつた。

- (7) 第三次調査の授業参観は社会・算数を主としてそれぞれ1時間、理科を十分間見ることにした。しかも特質の最もよくあらわれるものとして高学年を選び、一応学校を代表すると思われる教師に壇上に立つて頂いた。そのため職員一覧表と全職員の授業案の提出を求めた。これは多少の誤解がないでもなかつたが、全調査校が本調査の趣旨を了解して協力してくださつた点は感謝のほかはない。こゝで問題となるのは社会と算数のみで単元学習と基礎学習をおさえられるかどうかの問題であるが、われわれは、後の質問で理科・国語の問題にふれていけば大丈夫扱えられるという態度をとつた。この点は少くとも大して間違つてはいなかつたと思う。ただ高学年といつても学校を代表すると思われる教師ということになると、事情によつていきおい中学年・低学年にまで下らなければならぬ場合もあり、このバランスは甚だむすかしかつた。また低・中学年になると高学年の授業形態と多少ちがつているところもあり、学年によつて高・中・低学年と教育課程の形態を異にしているところもあり、時間が許せたら高・低学年位を見せてもらつたらよかつたように思う。そして一学校二日づつくりとすると、よい調査ができたと思う。しかしこれは理想論で現実には予算とか日時の制限、学校側の事情で甚だ困難である。この点をもつと工夫する必要がある。

2 調査問題

- (1) 第一次調査の調査票は国立教育研究所の作成したものをそのまま利用した。これはわれわれが県基準案作成の資料として県下教育課程の実態を把握し、そこに横わる問題や阻止的條件を究明する必要に迫られていた矢先に、国立教育研究所の調査に接したので、そのままこれを利用し、本県独自の立場で調査を進めようとした。したがって折を見て時々国立教育研究所（特に馬場四郎氏・矢口新氏・青山博次郎氏）と連絡は取つたが、調査項目に対する構造的な把握が不十分であつた。そのため処理にあつては国立教育研究所のやり方と食いちがいがかなりあると思われる。
- (2) われわれとしては国立教育研究所の調査項目に対して、われわれなりの意味づけをして処理したが、どうも不備な項目が見受けられた。この調査票は教育課程の構成条件・構成状況及び運営の実際等あらゆる事項について一応わたつてゐるが、運営面はこの票から把握することはかなり無理があると思われた。殊に教育課程構成手続に関する実際運営や基礎学習・児童会等の諸活動は不可能といつてもよい位であつて、われわれとしてはどうしても第三次の現地調査を実施せざるを得なかつたのである。その他研究費・主事等の訪問・公開研究会・単元・教科書使用等については先に述べたとおりである。特に教科書使用について、分けた五つの項目はどうしてもはつきりしない。保護者の学歴については参考程度にしか役立たなかつた。
- (3) こうした調査に必ずある困難な問題は、記入者の受け取り方の不統一である。これは手引を設けて或程度防げるのであるが、それがなかつたし、われわれもそれをする余裕がなく、その結果やゝ明瞭を欠くところもできて遺憾であつた。
- (4) 時間的・人的な不足と予算面の制約から第一次調査の全項目について徹底的に処理できず、第三次調査の見透しから主として教育課程構成の条件及び構成状況について処理した。

5) 教育課程の類型は一応0型～3型まで四通りを想定したが、それぞれの型には相当の幅があり、その分類に困難を感じた。これは類型を判定する資料が不十分であつたことにも原因がある。とにかく類型は分析すればいくらか細かくなる。われわれは一応一般的に認められると思われ
る四通りに大きく分けたのである。あとで考えともう少し細く分けてもよかつたように思う。

6) 第二次調査はあくまでも第三次調査の予備的なものであつた。本来ならこれは第二次調査と銘を打つべきでなく、予備調査とすべきであつた。したがつてそのもつ意味の重要さは第一次・第三次調査よりは軽い、(しかし第三調査は第二次調査で問題を確かめたので、自信をもつて実施できたことは事実であるが) そのためこの問題を決定するにあたり特別委員会をもつ等の十分な検討がされなかつたきらいがあつた。

7) 第三次調査の問題は五つにその観点をしぼつたが、これは国立教育研究所で現地視察調査において設定した調査視点と、ほとんど似通つたものになつた。この点、問題のしぼり方について、第一次調査の処理の方向が国立教育研究所のものと凡そ同一方向をたどつたことになる。

8) 第三次調査の問題作成は、全くわれわれ独自のものを考えたのである。われわれ自身こうした調査問題作成には不馴れであるため、問題に構造をもたせることに多くの努力を払つたが、完全に満足のいくものにはならなかつた。たとえば質問の項目などについては、時々調査校が返答に迷うようなことがあつた。したがつて質問はできるだけ平易にして、しかも自然に問題の核心にふれるような工夫が必要である。そのためにはもつと時間をかけて質問項目の予備調査をやらなければならなかつたのである。

3 調査組織

(1) この調査は内容的にはかなり大規模な調査であり、この結果が県基準案の重要な資料となるため、県教育政策上見逃せないしごとなのである。したがつて教育委員会としては指導課・調査課・研究所が一体とな

つて委員会組織をつくつてやることにした。しかしその組織はそれぞれの用務多忙のため本格的にこれに取りかゝられず、結局当研究所が中心になつて、他はこれに協力するという態勢に切り替えられた。そこで指導課・調査課では兼任研究所員が委員となり、合同所員会議がこの調査の委員会議となつた。本来ならば各委員がそれぞれ手分けをする等もつと組織的に運営されるべきであるが、研究所は他に学力検査、僻地教育調査がこれと並行して進められていたためにそれが不可能であり、度々の合同所員会議の討議を重ねることによつてこれを補つた。このような調査組織のために意外に日時を要する結果となつた。

(2) 調査員の演習については調査方法のところ述べたのであるが、十一名の調査員が数回にわたる研究及び打合せ、現地演習を行つて個人的な偏差をなくするように努力した。しかし何度も繰り返すが、十一名全部が長い時間をこのしごとに費やすことが不可能なため、はじめこのしごとの中心になつている三名が何回か合同で予備調査をやつて見方考え方を統一し、全員の合同現地演習は一回しかやらなかつた。あとは三グループに分けてグループ別の現地演習を本調査実施中に行い、約96%位の確率の時に個々に分れて出かけた。もちろん、グループ別の現地演習の時は質問のし方等についても研究し演習した。したがつて一見甚だ危険のようであつたが、案外効果的であつた。

(3) この種の調査は場合によれば、指導課と摩擦を生ずる危険性があるのであるが、本県では指導課はむしろ歓迎し積極的な態度で協力を惜しまなかつた。この調査組織の中で指導課は絶えず指導課の立場からの資料の提供や問題の検討、調査方法に対する提案等、実際の調査には直接参加できなかつたが本調査に対して果たした役割は大きかつた。

4 結果の処理

(1) この調査は教育課程の構成・運営上における種々の問題や障害を具体的に明らかにし、その阻害的條件の克服、除去についての解決を如何にするかという点の究明にねらいをおいた。引いては県基準案作製への手

がかりと資料を得ようとしたが、この点要約にもあるように或程度の目的を達成し得たと見てよい。

- (2) この調査から、教育課程の構成・運営はその客観的な諸条件によつて優劣の差や地域的な差を生じる段階に達していない。また児童の学力の問題もこれと余り関係がなく、学校の熱意如何に深い関係を持つことが明らかにされた。ところで熱意の程度は統計数理的尺度で計測することは甚だ困難であり、できるだけ客観的な資料でその程度を釈解したが、主観的な要素が全然はいらなかつたと言いつけることはできない状態である。
- (3) このような段階において、教育課程の実態を地域・産業構造・学校の規模によつて層化し統計的な処理をすることが適當かどうかは大きな問題で、結論的には時機尚早であると言われよう。この度の調査は問題や障害発見のための調査があるから、或程度許せるとしても教育課程評価を目的とした調査は現在の段階では無理だということになる。
- (4) 点数表示による集計処理はこの場合必要な処理であつたが、その際の点数の与え方は前述(第七章一ノ五)の通りであつた。しかし点数を与えるということはすでに評価を意味するものであつて、この六点満点法はその意味で今後再検討を要することであろう。
- (5) 調査票による調査と実際現場で観察する調査の結果ではどうしても違いを生ずる(第七章～三 第三次調査及び本章～一要約2 調査問題の(1)を参照)したがつてこの種の調査ではどうしても現地調査を実施しなければならない。
- (6) 本調査の結果の処理は終始牧田・日浦両所員でやり、必要に応じて他の委員の協力を仰いだのであるが、時間をかけてもなるべく少ない者が一貫した角度で処理にあたり、その角度から結論を出していくことは、調査の問題点を分散させないという点ではよかつたと思う。

三 今後の問題

1 この結果から新潟県教育委員会として特に考慮されるべき問題

- (1) 教育課程の構成並に運営は学校の熱意如何にかかり、それも二・三の有力な指導者の有無に大きく左右される現状は、県教育委員会において十分認識されるべきであり、このことについて次の事項が配慮されなければならない。
 - (イ) 山村・漁村等の比較的都市より遠隔の地にある、いわゆる僻地においては教員の配置を十分考慮しなければならない。
 - (ロ) 平村は従来交通も便利であり、条件がよいという先入的觀念から、案外教師の充実もよくないし、教育課程に対する熱意の低調が眼につく。或意味において教育行政上盲点的存在になつていのでないかとさえ思える。
 - (ハ) とにかく以上のこと等から全般的に教師の配置に十分意を用い、教育課程の構成及び運営を正しい軌道にのせる工夫が必要である。
 - (ニ) 教育課程の構成・運営は二・三の教師の専有に委ねるべきではなく、この点教師の現職教育にあらゆる努力を盡すべきであろう。現在指導課は研究指定校を設定してその向上に意を用いている点は、この意味においてまことに望ましいことである。さらに五・六ヶ校ばかりづつの学校ブロックをつくり、休暇を利用する等の工夫で実質的のワークショップをやることなども効果的な方法と思われる。形式的な現職教育の時代は去つて、今や実質的な深まりこそ緊急のしごとである。
 - (ホ) 教師が眞剣に教育課程研究に取り組み、その改善に努められるために、職員の負担する雑務をできるだけ軽減したり、研究費その他これに必要な適宜の措置が構ぜられることが必要である。
 - (ヘ) 委員会は各学校に校長を中心として全職員が自校の教育計画に参画し、この管理に関する責任ある研究実践の体制を速やかに整え、さらにその改善に積極的に努力する必要があることを指示することが望ましい。
- (2) 教育委員会において昭和24年度以來勅奨し指導してきた地域プラン

は、郡市或は学校ブロックで完成或は作成中で着々進行している。しかしまだ地域プランの完成を待つている学校も相当あり、これが促進に一層意を用いる必要がある。なお地域プランは地域教育計画の基準案であろうが、どんなものがよいのか、その性格についての方向づけも必要と思う。

さらにこの地域プランの各学校における生かし方に問題があり、多くの学校はこの問題に悩んでいる。この点についても考慮が必要と思う。

- (3) 指導課は一層教育課程の構成運営に対して各学校が積極的に努力、その研究が正しい軌道にのよう指導助言を強化すること。そのためには指導主事をはじめ指導の任にある主事の雑務負担を軽減するとか、学校訪問の回数を増すとか、必要な措置が考慮されるべきである。
- (4) しかし一方各学校は據るべき県の基準を要望している。委員会としては学習指導要領作成について法的な責任もあるので、この点は速やかに適當の措置を講ずべきであろう。
- (5) P・T・A、父兄に対する教育課程改善に関する啓蒙宣伝を行うことも必要な措置であろう。

2 各学校に提案したい事項

- (1) 教育課程は他人のものではなく、あくまでも教師一人一人のものでなければならぬ。したがってその構成・運営は他人に委ねて省みられないということではならぬ。この点全教師が教育課程研究に自主性と積極性を持つよう心掛けるべきではなからうか。それは男女や資格の有無に拘らず、いやしくも次代を背負う児童の成長発展に対して責任をもつ教師の全員にあてはまることからであろう。
- (2) 児童調査等教育課程の構成運営並に改善に必要な調査がやや思いつきの感がある。少くもこうした調査はそのねらいが確立し、見透しを持ち、その上ねらいの角度からの構造化が必要である。調査の組織と構造はもう一度考慮されることが望ましい。
- (3) 研究授業の回数が教育課程の改善に余りプラスしていないように思わ

れる。研究授業はそれが研究である以上、研究のための視点が明確であることが必要であろう。少くとも科学的な究明がその授業の本質に向つて鋭くなされるような研究会が持たれるように、授業者も参観者も心掛けることが必要でなからうか。こうした授業研究を通して単元学習・基礎学習・児童会等の諸活動はその本質的な性格から究明されなければならないだろう。

- (4) 学習指導にあつて事前の教材研究・児童研究・社会研究が上滑りしていることがあるのではなからうか。このことが学習の流れをつまみかしたり、皮相的にしたりしている。学力低下の問題は類型の如何にあるのでなく、実はこのところに原因していると思われるがどうであろうか。
- (5) 教師が雑務に追われ、教育課程の研究に専念できないことは事実であるが、一方十分この困難な問題を克服している学校もある。全般的に教師の学校における生活時程を再考慮し、その再編成を試みる工夫が必要ではなからうか。

3 研究所として取り上げる問題

- (1) 教育課程の研究を阻害し停滞させている一つの大きな要因は教育用語や概念の混乱である。概念規定は学者にも責任があるが、研究所としても十分研究する必要がある。
- (2) 教育課程構成の手続きが組織的・科学的になされるためにはどうしたらよいか。この内容や方法について実証的な究明をし、各地域の学校の手引きとなるものを示すことは教育課程の改善・向上の上にぜひ必要のことである。
- (3) 教育課程の類型は県内においても分析すると常非に多くの類型が存在する。もちろん教育課程の類型には唯一絶対の類型はないので、その学校の状態や教師の能力に応じていろいろ考慮さるべきであるが、本県の全般的な状態から、或は地域的に見てどんな類型が望ましいかの研究は当然実証的に試みられるべきである。この点今後実験学校の設置等適宜な措置を考慮して研究を深めなければならない。

- (4) 児童会等の諸活動についても、その組織的運営が実践の場を通して究明されるべきである。
- (5) 学習指導法もその究明が一通なされている程度で、児童の発達段階等からその限界や方法がもつと深く研究されるべきである。この掘り下げがなされない限り、学習指導は浅薄であつたり、円滑さを欠いたりして児童の成長発展が十分なされないだろう。そして学力低下のそしりはこの面からも避けることができない。実験学校による研究はこの点でも研究所の大きな課題であろう。
- (6) 教育課程の構成運営にあつて、本県としての標準学力が把握されない限り、教師はいつまでも学習指導の評価基準がたえず安定感を得られない。研究所としてはこの標準学力を早く把えて各学校に提示する必要がある。
- (7) 教育課程の実態把握は今回で終つたものではない。今後も数年毎に引続いて実施し、県内の教育課程の研究実践の実態を把握し、その改善向上に資する心構えが必要である。その際この種の調査における統計数理的処理がどの程度に可能かの限界についても十分検討究明されるべきである。(むしろ研究所のしごとはこの調査結果後におけるこれからの実証的研究にある)
- (8) 地域プランについては、さらにその構成組織その運営及びプランの内容について検討を要する。この点研究所としては実験的な研究の機会を把えて、できるだけ早く一応の目安をつけなければならない。
- (9) 平村における教育課程の構成運営並に学力低下の問題は先に述べたように単にこうした人的配置等の問題でなく、もつと深い根源的なものが、学校の熱意の問題にも影響し、学力の問題をも左右しているように思われる。この点の究明はこの度の調査にそれを求めるのは無理であり、改めてこの問題——平村の低調の原因——を主題として地域的にこの角度からの抽出が行われ、社会学、心理学、教育学等必要なあらゆる要素を総合して科学的に徹底的な調査が実施されなければならない。この点も研究所としては残された今後の大きな問題であろう。

お わ り に

報告書を整理し終えてこの調査をふりかえつてみる時、いろいろのことか思いおこされる。ほとんど未開拓といつてよいこの調査に、未経験のわれわれがいきなり突込んだために、その調査の組織・内容・方法それに結果の処理等不十分な点かはなはだ多かつた。しかし誰れかが手がけて開拓しなければ、いつまでも「開かずの扉」の奥にひそんでしまうであろうこのしごとに、不完全な、しかも力及ばないものであつたけれども、手をつけたというところに意味を見え出し、大方の批判と指導をお願いしたい。もしわれわれのやつたこのささやかなしごとが、今後志を同じくする機関やその他において少しでも参考にするところがあれば幸甚と思う。

調査の結果によると教育課程の研究意欲は全般的に旺盛であるが、まだほんとうに教師の一人一人に教育課程のしごととはかえつていない。教育課程の構成、運営が学校の熱意と深い関係があることは望ましいが、だからといつて教師の轉勤によつてその学校の教育課程の構成、運営に盛衰があり、学校の熱意に強弱が生ずるようでは、健全な教育実践の姿であるとは言い難い。教育課程の構成、運営は実にその土地の「兒童の幸福な成長發展」のためにのみ意味があるべきはずである。

こうした意味からさらにそれぞれの立場において今一段の努力が必要である。そしてこのような実態は本県のみのものではなく、全国的な実態であり、ここにとりあげた問題は全国的な問題ではなからうか。

県下の小学校に対しては大変厄介なお願いをして御迷惑をかけながら、その結果が何か欠点めいたものだけを暴露したようで申訳ないが、意のあるところを理解して頂きたい。本調査は一まず県下教育課程の構成、運営上の問題や障害を明らかにし、その隘路をきり開く糸口を見つけ出すところにねらいをおいた。しかし教育課程の調査研究 (Research) の本質的なしごとはむしろこれからにある。今後の協力を切望してやまない。

— 1951.8 —

参 考 文 献

一 教育課程調査方法及び実施に関するもの

社会調査の理論と実際	民族文化調査会	昭和23年
教育調査概説	増田幸一	1950年
小中学校教育課程の実態調査	国立教育研究所	昭和25年
教育課程実態調査報告書〔1〕	岐阜県教育委員会	昭和25年
教育調査法概説	文部省調査普及局	昭和25年
学校調査の方法	国立教育研究所	昭和25年
教育課程査の集計及分析	国立教育研究所	昭和25年

二 統計及抽出に関するもの

学校調査の方法	国立教育研究所	昭和25年
学力検査問題の作成についての標準調査法		
	新潟県教育研究所	昭和26年
標準調査法入門	畑村又好 奥村忠一	1949年
標準調査の設計	斎藤金一郎 浅井 晃	昭和26年
推計学の話	増山元三郎	昭和24年
推計学への道	東大協組出版部編	1950年
サンプリング調査法	水野 坦 林巳知夫 佐藤良一郎	昭和26年
社会現象の統計数理	松下嘉米男 水野 坦 林巳知夫	
	青山博次郎	昭和26年
統計学の認識	北川 敏 男	昭和25年

三 教育課程の内容に関するもの

学習指導の基本問題	青木誠四郎	昭和23年
-----------	-------	-------

社会調査の理論学実際		昭和23年
教育課程	教師養成研究会	昭和24年
新教育課程	石 三 次 郎	昭和24年
教育課程概論	海 後 勝 雄	昭和25年
学校と教育計画	講座学校教育 東京大学教育学教室	昭和25年
教育課程	講座学校教育	昭和26年
学級活動	講座学校教育	昭和26年
教育課程	教育大学講座 東京教育大学教育学 研究室	昭和25年
生活指導	教育大学講座	昭和25年
教育方法論	教育大学講座	昭和25年
学習指導	教育大学講座	昭和25年
社会科教育	教育大学講座	昭和25年
小学校教育	教育大学講座	昭和25年
理科教育	教育大学講座	昭和25年
数学教育	教育大学講座	昭和25年
社会科の本質	馬 場 四 郎	昭和22年
社会科の地方計画	倉 沢 剛	昭和24年
地域教育計画	大 田 堯	昭和24年
新教育計画	伊藤忠彦 成田克矢	昭和24年
新カリキュラム	山 田 栄	昭和24年
新教育課程論	末 吉 悌 次	昭和25年
カリキュラムとガイダンス	全国指導主事協会編	昭和24年
コア・カリキュラム	梅 根 悟	昭和24年
近代カリキュラム	倉 沢 剛	昭和24年
コア・カリキュラムの本質	梅 根 悟	昭和24年
生活カリキュラムと算数学習	徳 永 吉 晴	昭和24年

生活カリキュラムと理科学習	金子 惇 一	昭和24年
新教科カリキュラムの構想	広島高師附属小学校	昭和25年
児童の発達とカリキュラム	アーサー・T・ジャーシルト 依田 依田正木長島訳	昭和24年
日本のカリキュラム	城戸 幡 太郎	昭和25年
ガイダンス	小見山 栄 一	昭和24年
単 元	梅 根 悟	昭和26年
単元学習の基本問題	馬 場 四 郎	昭和25年
教 育 課 程	広 岡 亮 藏	昭和25年
新教育運動の発展	小 村 虎 五 郎	昭和24年
アメリカの教育科学	中央教育研究所	昭和23年

Cook, Lloyd Allen, "Community Backgrounds

of Education" 1938 Copy 1,2

Gwynn, J. Minor, "Curriculum Principles

and Social Trends" 1948

Joint Committee on Curriculum, "The Changing

Curriculum" 1939

Otto, Henry J. "Elementary School Organization

and Administration" 1944 Copy 1,2

Olsen, Edward G. "School and Community" 1945

Reed, Homer B. "Psychology of Elementary

School Subjects" 1938

Wofford, Kate V. "Teaching in Small Schools" 1947 Copy 1,2

四 辞 典

- | | | |
|------------------|---------------------------------------|------|
| 体系教育学大辞典 | 岩 崎 书 店 | 1950 |
| 教育百科辞典 | 小 村 澄 兄 | 1951 |
| 大英和辞典 | 富 山 房 | 昭和六年 |
| Oxford | "The Concise Oxford Dictionary" | 1929 |
| | "Poket Oxford Dictionary" | |
| AMerriam-Webster | "Webster's Students Dictionary" | 1945 |
| Rivlin, Harry N. | "Encyclopedia of Modern
Education" | 1943 |

正 誤 表

印刷所の都合で仕事がつつかりおくれ、そのため印刷及び校正を非常にいそいだ。その結果、誤りも多く、刷上りにも不備があり、杜撰なものになったのは甚だ遺憾であると共に申訳なく思っている。

次に掲載した訂正はその中、主なる誤りについてのものであり、当用漢字等で意味のおおるものについては、いちいち掲載するのを省略したのであるが、御諒承を得たい。

頁	行	誤	正
目次 2	11	第一項	第一次
5	上 13	教育課程の構成及び運営の情況	教育課程の構成及び運営の状況
7	(註5), 5	Education	Education
	(註6), 6	Po et	Pocket
10	上 5	いちぢるしい	いちじるしい
16	上 11	指導主事, 調査課員の研究所員の……	指導主事, 調査課員, 研究所員の……
17	(註18)	教育調査概説	教一字けずる
26	表上段	会計	合計
33	上 1	単元対するに理解は……	単元に対する理解は……
36	上 14	右の3, 4……	上の3, 4……
41	上 6	第二次調査	第三次調査
42	本文の上 1	, それぞれの……	, それぞれの……
55	上 9	8%	8%
59	上 7	標本平均 (P ₁) の分数	標本平均 (P ₁) の分散
75	下 1	無作意抽出による……	無作為抽出による……
76	上 11	…をするのではないか。	にしないのではないか。
79	上 1	算数各1学級宛各40分	算数各1学級宛各40分
85	表下 6	板垣広八(6)	平山正男(5)

頁	行	誤	正																																																		
91	図 表	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>③</td> </tr> </table>		0	1	2	3	0	①				1		①			2			②		3				③	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>③</td> </tr> </table>		0	1	2	3	0	①				1		①			2			②		3				③
	0	1	2	3																																																	
0	①																																																				
1		①																																																			
2			②																																																		
3				③																																																	
	0	1	2	3																																																	
0	①																																																				
1		①																																																			
2			②																																																		
3				③																																																	
95	表 上 段	自校プラン	自校プラン																																																		
96	上 11	平村も総数に……	平村も総数に……																																																		
97	上 10	自治会活動	児童会活動																																																		
98	上 1	これに次ぎ他はおく……	これに次ぎ他はおく……																																																		
98	上 11	多少の相異が	多少の相違が																																																		
99	下 8	基礎的学習	基礎学習																																																		
	下 7	どうかの二つ……	どうかの二つ……																																																		
	下 1	まづいか……	まづいか……																																																		
100	上 1	基礎的学習	基礎学習																																																		
	上 4	基礎的学習	基礎学習																																																		
100	上 9	自治会は	児童会は																																																		
102	上 2	基礎的学習	基礎学習																																																		
	上 7	基礎的学習	基礎学習																																																		
	上 2	自治会	児童会																																																		
106	上 1	12学校以上学校と	12学級以上の学校と																																																		
108	上 3	仮定して	仮定して																																																		
	上 4	自由度 $n_1=1, n_2=203$ で,	自由度 $n_1=1, n_2=203$ で,																																																		
	上 4	F ₀ の値は15.208	F ₀ の値は15.208																																																		
	上 6	…認められるであろう。	…認められるであろう。(96頁 二項参照)																																																		
109	表	主事訪問の項2~4	主事訪問の項3~4																																																		
115	下 10	いづれも0.20以下であり,	ほとんど0.20以下であり,																																																		

頁	行	誤	正
144~ 145	表のみだ し上段	教育課程調査客観的構成実施状 況採点表	教育課程調査客観的條件構成状 況採点表
148~ 149	表のみだ し上段	教育課程調査客観的條件実構成 況採点表	教育課程調査客観的條件構成状 況採点表
148~ 149	表下段み だし	教育課程調査客観的條件実施状 況採点表	教育課程調査客観的條件構成状 況採点表
150~ 151	〃	同 上	同 上
149	表上, 下	自校プラン	自校プラン
	図		
154	下 7	C…8点~424点	C…48点~42点
161	表上段	自校プラン	自校プラン
163	表上段	学校番号	削除して空欄
164	下 2	百点満点に換算して	…条件・状況を結んで
170	下 4	(b)	(d)
175	下 5		(171頁d項参照)を加える
176	上 6	0.79247	0.279247
	上 10	$F_0 = \frac{0.279}{1-0.279^2} (205-2)$	$F_0 = \frac{0.279^2}{1-0.279^2} (205-2)$
178	右の図		----- 特 ----- A ----- B ----- C ===== D ----- E
186	上 14	「単元とは何をいうか」とい こと……	「単元とは何をいうか」とい こと……
187	上 1	…21頁参照)	…41頁参照)
179	表 ③	児童の生長を	児童の成長を
190	表③⑤	自治会	児童会
192	下 6	Indoctorination	Indoctorination
197	表右9	…の考え見られ…	…の考えが見られ
199	上 12	第二次調査実施	第三次調査実施
	下 9	相当の学校に……	相当数の学校に……

頁	行	誤	正
207	上 12	調査対策は……	調査対象は……
214	下 12	…五・六ヶ校ばかりづつ……	…五・六ヶ校ばかりずつ……
215	上 8	…積極的に努力,	…積極的に努力し,
219	上12, 14, 15	標準調査	標本調査
220	上 1		全行削除
221	上 3	ア-サー・T・ジャーシルト依回	ア-サー・T・ジャーシルド

備考 上1とは上から1行目, 下2とは下から2行目, 右3とは右から3行目を示す